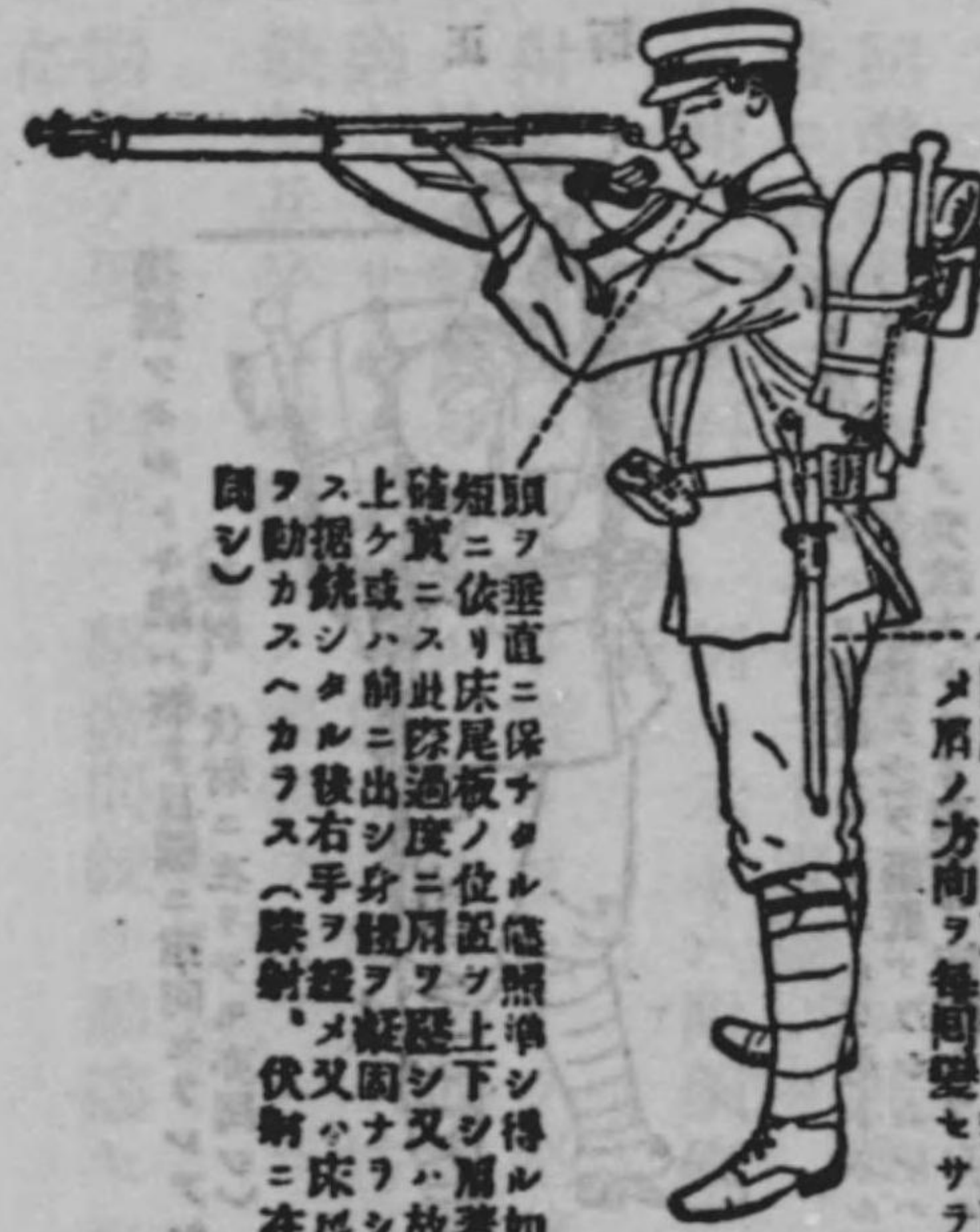


步擊發
操三

圖八十第

二其銃据ルケ於ニ射立
圖側左



頭ヲ垂直ニ保テ
銃據ルニ依リ
上ニ此際ニ出シ
スルニ前ニカ
スルニ後ニカ
スルニ手ヲ
伏射ニ在リ
モ亦

脚ヲシテ肩ヲ含ム
垂直面ニ在ラシ
メ用ノ方向ヲ毎回變
セサラシム

尾板ノ位置ヲ下
方ニシテ右手ヲ以
テ銃把ヲ漸次下
方ヨリ一層確實
ニ握リ左手ヲ用
心鐵ニ近ツクル
ヲ要ス此場合射
手ノ體格ニ依リ
左掌ヲ内方ニ向
ケルモ妨ナシ然
レトモ何レノ場
合ニ於テモ頭ハ
始ト自然ノ位置
ニ在ルヲ要ス
第五十九 兵卒
ニ擊發ノ方法ヲ
教フルニハ最初
据銃スルコトナ
ク引鐵ヲ引ク要
領ヲ會得セシム

圖九十第

一其銃据ルケ於ニ射立
圖正



銃據ルノ高

右股ヲ射面ニ對シ
時、直角ヲ
ラシム

成ルヘテ垂直ニ近
カクシテ入要スル
過度ニ之ヲ要求ス
ルトシキハ肩著ク不
可難ナラ

引鐵ヲ引クニハ
食指ノ運動ヲ臂
ニ波及セシメサ
ル爲右手ヲ以テ
銃把ヲ確實ニ握
リ食指ノ第二節
或ハ第一節根ヲ
引鐵ニ掛ケ其第
一段ヲ壓シ次ニ
食指ノ前部二節
ヲ曲ケテ第二段
ヲ壓シ極メテ微
弱ナル力ニテ終
ニ擊發シ得ルニ
至ラシム
兵卒ハ引鐵ヲ壓
スル爲力ヲ加フ
ル要領ヲ熟知ス
ルコト緊要ナリ

步領擊發ノ要
操六

圖一十二第

一其 銃筒ハ右ニ射次
正



(1)ノ位置ハ右肩、右腕及両手ヲ含ム
重直ニ近接スルニ從ヒ左前臂ハ重
直ニ近キ銃ノ保持ヲ安定ナラシム
ルノ利アルモ近キ近接セザルニシテ
キニ身體ノ射面ニ對スル角度ヲ大ナ
クシメ爲ニ肩ヲ不揮ナラシムルモ
ノナリ即チハ伏射ノ姿勢ニ於ケル
重要ナル位置ナルヲ以テ體格ニ應ジ
其位置ヲ慎重ニ決定スルヲ要ス

通常射手ノ左側
前ニ位置スルヲ
適當トス
第六十 擊發ノ
要領ハ据銃ト同
時ニ引鐵ノ第一
段ヲ壓シテ呼吸
ヲ止メ照準ヲ始
ムルト共ニ躊躇
スルトコトナク第
二段ヲ壓シ得タル
ク照準シ得タル
トキ擊發シ得ル
如ク極メテ微弱
ノ力ヲ加フルモ
ノトス
此要領殊ニ擊發
瞬時ニ於ケル機
微ナル動作ノ教
育ハ最モ綿密慎

圖十二第

二其 銃筒ハ左ニ射次
面側左



上指ヲ成ルヘキ垂直ニ保シタル
銃筒ノ長短ニ依リ左手ノ位置ヲ
射ノ突出部ト膝ノ突出部ト相持セザル如ク
ト指ヲ成ルヘキ垂直ニ保シタル
銃筒ノ長短ニ依リ左手ノ位置ヲ

上指ヲ成ルヘキ垂直ニ保シタル
銃筒ノ長短ニ依リ左手ノ位置ヲ
射ノ突出部ト膝ノ突出部ト相持セザル如ク
ト指ヲ成ルヘキ垂直ニ保シタル
銃筒ノ長短ニ依リ左手ノ位置ヲ

若此要領ヲ十分
理解セサル者ア
ルトキハ幹部ハ
射手ノ食指上ニ
自己ノ食指ヲ添
ヘテ引鐵ヲ壓シ
其要領ヲ知得セ
シメ或ハ射手ヲ
シテ自己ノ食指
ヲ以テ幹部ノ食
指ヲ壓セシメ其
要領ヲ理解シタ
リヤ否ヤヲ檢知
スヘシ又引鐵ノ
引方ノ適否ヲ容
易ニ檢知スルニ
ハ食指ノ前部ニ
節ノ運動ニ能ク
注意スルヲ可ト
ス之力爲幹部ハ

側方移動
目標

考備	距離(米)				目標種類	側方ニ移動スル目標ニ對スル照準點
	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇		
二 本表ハ實用ニ便ナル如ク其概數ヲ示シタルモノナリ 本表中ノ尺度ハ目標ノ前端ヨリ照準點ニ至ル間トス	一 米		前 端		速歩徒歩兵	側方ニ移動スル目標ニ對スル照準點
	二 米	一 米		駈歩徒歩兵		
	前 端				常歩乘馬兵	
	半馬長		前 端		速歩乘馬兵	
	二馬長	一馬長	半馬長	前 端	駈歩乘馬兵	

セシムルニ頗ル有益ナルヲ以テ常ニ之ヲ勵行スルヲ要ス
教育ノ初期ニ在リテハ擊發ノ後ト雖尙瞬間擊發ノ姿勢ヲ保チ射手ノ精神ノ
沈著ヲ得シムルヲ可トス
第六十二 側方ニ移動スル目標ヲ射擊スルニハ目標ノ運動ニ從ヒツツ其前方
ヲ照準スルモノトス而シテ其照準點ハ距離及目標ノ速度ニ依リ異ナルモノニ
シテ其標準第八表ノ如シ

豫言
歩操六二

圖二十二第

二其 銃器ルケ於ニ射伏
圖 圖左



(ホ)ノ角度大ナ
ルニ從ヒ左前
ノ保持ヲ安定
ナラシムルニ
備ナラシムルニ
特ニ注意スルニ
出ツルトキハ
上體地面ニ接
近シ據銃ヲ固
固ナラシム
(ハ)ノ角度ハ銃
ノ保持ヲ安定
ナラシムル爲
四十五度以上
ナラヌ要ス

重ニ行ヒ之カ演練ノ完璧ヲ期セサル
ヘカラス而シテ此教育法ヲ誤ルトキ
ハ眼心指ノ一致ヲ害シ或ハ徒ラニ擊
發ノ好機ヲ求メントスル結果急激ニ
引鐵ヲ壓シ又ハ照準時間ヲ延長シ却
テ命中ヲ不良ナラシムルニ至ルコト
アリ此種過失ヲ豫防シ且射擊時間ヲ
短縮セシムル爲ニ至ラサルモ依然引
準點ニ指向スルニ至ラサルモ依然引
鐵ノ第二段ヲ壓シ照準線所望ノ照準
點ニ近キ範圍ニ指向セラレアル間ニ
於テ隨時擊發スルニ至ラシムル方法
ニ依リ教育スルヲ有利トスルコトア
リ

第六十一 擊發ノ直前ニ於テ照準線
ノ達シタル方向ヲ確認シテ報告セシ
ムルハ極メテ必要ナリ(此報告ヲ豫
言ト謂フ)而シテ若クハ報告得サ
ルトキハ其不明ナルコトヲ報告セシ
ムヘシ此教育法ハ射手ノ伎倆ヲ進歩

年	初					種類手射	
	五	四	三	二	一	隊兵步	習會順次
						隊兵騎	
						(米)離距	
						尺照用採	
						(米)	
						的標	
						的標	
						勢姿	
						彈射發	
						キ時期	
						摘	
						要	

第九表

步兵隊、騎兵隊狹窄射擊習會表

一五
三〇〇

其ノ圍頭數ヲ縮小シ五分

伏

シテ基本射撃ノ準備ト實行フ

ト銃射撃時間ヲ含ム(秒)ヲ標準

黑點的

膝

ル基本射撃ニ移

三射撃ノ姿勢ハ立射若ハ膝

伏

基本射撃ニ移

二射撃ノ姿勢ハ立射若ハ膝

伏

基本射撃ニ移

一射撃ノ姿勢ハ立射若ハ膝

依托

基本射撃ニ移

合状態ニ注意シテ教

依托

基本射撃ニ移

ル状態ニ注意シテ教

修正	狹窄射撃ノ效果	狹窄射撃場	中隊長
第六十三 銃ノ特別ナル性質其他天候、氣象ノ交感等ヨリ生スル平均點躲避ヲ修正スル方法及之ニ關スル射撃ヲ教フルコト肝要ナリ而シテ此教育ハ實地ニ就キ機會アル毎ニ行フヲ要ス	第六十四 狹窄射撃ハ命中彈ニ依リ直ニ動作ノ可否ヲ證明シ射撃ノ動作殊ニ照準、擊發ノ要領ヲ演練スルニ有利ナルモノト然レトモ過度ニ命中ノ良好ナルヲ以テ指導上注意スルヲ要ス	第六十五 狹窄射撃ハ兵卒ノ自信力ヲ養フ爲價値アルモノトス	第六十六 中隊長ハ第九表ニ準シ狹窄射撃ヲ實施セシムヘシ
本射撃ハ又射撃ノ嗜好心ヲ喚起セシムル爲ニ效果アルモノトス故ニ射撃教育ノ進歩ニ伴ヒ隱顯シ移動シ射倒スル標的ヲ用ヒ或ハ競點射撃ヲ行ハシムル等種々ノ方法ヲ以テ之ヲ實施スルヲ可トス	夜間ニ於ケル狹窄射撃ハ兵卒ノ自信力ヲ養フ爲價値アルモノトス	第六十五 狹窄射撃ハ通常營内又ハ練兵場等ニ設クル狹窄射撃場ニ於テ基本射撃ニ準シ之ヲ行フモノトス	第六十六 中隊長ハ第九表ニ準シ狹窄射撃ヲ實施セシムヘシ

狩射擊第六十七
照準點表ノ如シ
第十表

狹窄射擊(距離十五米)ニ於ケル照準點						
七	六	五	四	三	照	
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	尺	
下方	下方	下方	下方	下方	三八式歩兵銃	
〇・一	〇・七	〇・四	〇・二	〇・〇		
下方	下方	上方	上方	上方	四四式騎銃	
〇・〇	〇・二	〇・一	〇・四	〇・六		
下方	下方	下方	下方	下方	三八式騎銃	
〇・一	〇・三	〇・〇	〇・七	〇・五	(米)	

狹窄射擊(距離十五米)ニ於ケル主要ナル照尺ニ應スル照準點第十

(米)

考 備

一 黒點のトハ白紙ニ中徑二種ノ黒點(照準點)ノミヲ附シタルモノトス
 二 板のトハ高さ、幅共ニ約一米ノ幅員ヲ有スルモノニシテ夜間射擊ノ際之
 三 使用シ又之ニ黒點の、縮小セル圈頭の等ヲ貼付スル爲用フルモノトス
 四 隊初年兵並其他ノ者ノ狹窄射擊ハ本表ニ準シ適宜實施スルモノトス
 狹窄彈ノ十五米ニ到ル經過時間ハ十六分ノ一秒ナリ

兵 年 二 第			兵	
三	二	一	七	六
三	二	一	四	
一五				
三〇〇				
移動ニテ側方ニ速	度ニ十米ノ速	等ナル秒間	飛行機ノ描畫ノ	機長三十種ノ
板ノ	一の縮小シタノ	伏的ヲ十分ノ	一の縮小シタノ	馬歩兵若ハ乘
膝	膝	伏	膝	伏
五	五	五	五	五
行フ 適宜ノ時期ニ			行フ 適宜ノ時期ニ	
二トス	一トス	夜間ニ於テ射擊ノ設備ヲ設ケル事ナク實施ス	照準點ハ目標ノ前端トス	薄暮若ハ拂曉ニ於テ實施ス
機ノ前部ニ命中スルヲ可トス	照準點ハ機ノ前端トス	夜間ニ於テ射擊ノ設備ヲ設ケル事ナク實施ス	照準點ハ目標ノ前端トス	薄暮若ハ拂曉ニ於テ實施ス
出時間ニシテ一回ノ現			照準點ハ目標ノ前端トス	

塗油

一般ノ要

第六十八 命中ヲ確實ナラシムル爲射撃前必ス銃腔ニ塗油スヘシ若同一銃ヲ以テ連續射撃スル場合ニハ約五發毎ニ塗油スルヲ要ス又十五發發射後ハ腔内ニ蠟劑蓄積ノ爲命中著シク不良トナルヲ以テ十分ナル手入ヲ爲スニアラサルハ射撃セシメサルモノトス射撃ノ際彈丸銃腔ニ止ルコトアラハ之ヲ除キタル後更ニ腔内ニ塗油スヘシ

基本射撃

第六十九 基本射撃ニ在リテハ射手ヲシテ特ニ爆音及反撞ヲ伴フ擊發ノ要領及銃ノ特性ヲ理解セシメテ射撃術ノ進歩向上ヲ圖リ銃ト自己ノ技術トニ確信ヲ得シムルコト緊要ナリ

基本射撃ニ在リテハ本射撃ニアラサレハ演練シ能ハサル主要事項ノ教育ニ全力ヲ傾注セサルヘカラス之カ爲射撃姿勢、据銃及照準等ハ射撃豫行演習、狹窄射撃等ニ於テ十分演練シ以テ基本射撃ニ於テ此等ノ爲多クノ時間ヲ費サザル如クスルヲ要ス

考備

本表中ノ尺度ハ命中セシメントスル點ヨリ照準點ニ至ル間トス

一、五〇〇〇	一、〇〇〇〇	九〇〇〇	八〇〇〇
下方	下方	下方	下方
〇・五〇	〇・二一	〇・一七	〇・一三
下方	下方	下方	下方
〇・五五	〇・一七	〇・一四	〇・〇八

豫習及實習射撃ノ目的

限後秒及劇動ノ射撃ノ使

空包射撃

射手服裝

射手ヲシテ射撃ニ對スル自信ヲ得シムル爲ニハ先ツ命中ノ良好ヲ期セサルヘカラス之カ爲命中不良ノ者アルトキハ克ク其原因ヲ探究シ之カ矯正法ヲ慎重ニ研究スルヲ要ス

第七十 初年兵ノ基本射撃ニ於ケル豫習射撃ハ主トシテ實包射撃ノ要領ヲ精密ニ練習シ且銃ノ特性ヲ知得セシメ實習射撃ハ豫習射撃ニ於テ修得シタル技術ヲ益々向上セシメ終ニ戰闘射撃ニ導クヲ目的トス

豫習射撃ノ成績十分ナラサル者ヲ實習射撃ニ移ストキハ却テ教育ノ進歩ヲ阻碍スルヲ以テ此等ノ射手ニ對シテハ特別射撃等ニ依リ綿密ニ教育シテ其缺陷ヲ除キタル後實習射撃ヲ行ハシムルヲ要ス

第七十一 時間ヲ制限シタル射撃又ハ劇動後ノ射撃等ノ習會ニ移ル際ハ射撃豫行演習及狹窄射撃ニ於テ十分ノ力演練ヲ重メルコト肝要ナリ

第七十二 執銃本分ノ射手ハ必ス各自ノ銃ヲ以テ射撃スヘシ若修理等ノ爲使テ用シ得サルトキハ中隊長ノ許可ヲ受ケ一時他ノ銃ヲ以テ射撃スルコトヲ得然ルトキハ射撃手簿(附表第九)ニ其番號ヲ記シ置クヲ要ス

第七十三 初年兵ニハ基本射撃ニ移ル前其豫習トシテ一、二回空包射撃ヲ行ハシムルヲ可トス空包射撃ヲ行ヒタルトキハ銃腔ヲ拭ヒタル後ニアラサレハ實包射撃ヲ行ハシムヘカラス

第七十四 基本射撃ニ於ケル步兵隊執銃本分ノ射手ノ服裝ハ軍裝ニシテ背囊ヲ入組品ヲ除ク但豫習射撃第一習會ニ在リテハ背囊及裝具ヲ除キ其他ノ豫習射撃ニ在リテハ單ニ背囊(裝著品ヲ除ク)ノミヲ負フモノトス

第十一表 其二

種別	年齢	射撃			
		(一)	(二)	(三)	(四)
歩兵	小銃	100	100	100	100
	大銃	100	100	100	100
騎兵	小銃	100	100	100	100
	大銃	100	100	100	100
砲兵	小銃	100	100	100	100
	大銃	100	100	100	100
工兵	小銃	100	100	100	100
	大銃	100	100	100	100
衛生兵	小銃	100	100	100	100
	大銃	100	100	100	100
通信兵	小銃	100	100	100	100
	大銃	100	100	100	100
其他	小銃	100	100	100	100
	大銃	100	100	100	100

第十一表 其一

「第十一表其一ハ末尾歩兵隊射撃教育規定附表第一ノ通り改正ニ付五頁ヨリ五十四頁迄削除ス」

騎兵隊執銃本分ノ射手ノ服裝ハ軍裝ニシテ軍刀ヲ除ク但豫習射撃ニ在リテハ
 裝具ヲモ除ク又喇叭手ハ執銃本分ノ者ト同一ノ服裝ヲ爲スモノトス
 第七十五 歩兵隊ノ基本射撃ハ第十一表、騎兵隊ノ基本射撃ハ第十二表ニ據
 リ實施スヘシ但初年兵ニ在リテハ第一期間ニ豫習射撃ヲ終ラシムルコトニ勉
 ムヘシ
 歩兵隊ノ特別射手ニハ小銃手ノ習會及特別射手ノ習會ヲ併セ射撃セシムルモ
 ノトス

類種手射	類種擊射	習會順次	騎兵隊小銃基本射擊習會表
兵年初	初機		
候士	候幹	各	部
候幹	候部		
(米)離距			
勢姿			
的標			
彈射發			
兵年初	初機	合格標準(點數)	
摘			
要			

第十二表 其一

考

五 四 三二

輕ハ、士、豫、豫、シ
機括秋、兵、後、兵、豫、人、連
關弧季、卒、備、卒、小、會、像、續
銃ヲ演卒、役、下、兵、及、順、的、射
下附習ノ後、兵、下、兵、及、命、中、爲
士シニ習士、官、下、兵、格、彈、ハ、モ、ト、ス
、タル集、中、准、士、後、役、準、ハ、一、ノ、ト、ス
兵卒習セラ宜ノ官及豫備ヲ下ノ略トス
ハ小銃ヲ豫備役射見兵卒豫輕下兵、
射擊セシメ秋、下、士、ム、ハ、其、演、習、召、集、補、充、兵、機、關、銃、下、士、
行ハシ、ノ、サ、ル、モ、ノ、ト、ス、兵、卒、及、後、備、役、下、士、兵、卒、ニ

備	四	(三)	(二)	一	兵下小豫	習會順次
					兵下輕豫	
一		(三)	(二)	一	兵下後	補次
					兵	
二	四	三	二	一	(米)離距	勢姿
	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	的標	
三	伏	膝	伏	伏	彈射發	合格標準(點數)
	伏	膝畫的	圓頭的	圈的	兵下小豫	
四	五	五	五	五	兵下後	補
	一〇	人像二	一八	甲	兵	
五	五	人像一	一五	乙	摘	要
					其集 五五五五探 十十十十合 櫃櫃櫃櫃彈 鑽鑽鑽鑽探 內內內內準 ニニニニ左 二三四五ノ 發發發發如 以下丙乙甲	

步兵隊勤務演習召集者小銃基本射擊習會表

官士	類種手射	者		
		十	九	八
三	官士	習會順次		
二	士下			
一	二年			
三	二兵			
三〇〇	(米)離距	四〇〇	三〇〇	三〇〇
伏	勢	委	依	膝
的圈頭	的圈頭	的標	托伏	的膝畫
五	彈射發			
二七	官士	合格標準(發數)	人像	人像
	士下		八一	九一
二三	二兵			
射擊時間一發六秒	摘要	摘	射擊時間一發七秒	射擊時間一發七秒
會其集			著三一分	射著三一分
ニ探彈合			キ十米三	キ十米三
同點探			伏早三十	伏早三十
シ標準			射駐秒以	射駐秒以
			シハ初年	シハ初年
			テ装填	テ装填
			シ五發發	シ五發發
				シ五發發

準之並兵年初						
實	習		豫			
七	六	五	四	三	二	一
二	一			三	二	一
六	五		四	三	二	一
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
伏	伏	立射胸塔	依	膝	伏	依
的膝畫	的圈頭	的圈頭	托伏	的圈頭	的圈頭	托伏
五	五	五	七	五	五	五
人像			乙	一六	一八	乙
三	二	三		一三	一五	丙
射擊時間一發八秒(据銃時間ヲ含ム以下同シ)			其集			
			採探			
			六六六六			
			十十十十			
			糰糰糰糰			
			銀銀銀銀			
			內內內內			
			ニニニニ			
			二二三			
			發發發發			
			以下			
			丁丙乙甲			
			五五五五			
			十十十十			
			糰糰糰糰			
			銀銀銀銀			
			內內內內			
			ニニニニ			
			二二三			
			發發發發			
			以下			
			丁丙乙甲			

兵年二第士下

七	六	五	四
七	六	五	四
四〇〇	四〇〇	三〇〇	三〇〇
伏	伏	伏	二發 四發 伏
膝的	的膝 畫	伏的	伏的
五	五	五	六
一〇	人像 三人像	一〇	一〇
五	九一	五	五
射擊時間一發七秒		間兵秒隱變 五ハ第二顯のシテ發換 發八十八回シテ四發發 發秒第二回十六秒(第一回十二 發秒)現出セシメ其	士官、下士ハ一分三十秒以 内、第二委ヨリ三十分四十秒 以テ内ニ立位ニ著キ伏射シ シテ射撃位置ニシテ發射シ テ裝填シテ發射シテ發射シ 變換シテ四發發射シテ發射シ

一 集合彈探點鏡ヲ以テ探點スル習會ハ同一照準點(照準點ハ射彈ヲ標的內ニ收容スル爲要スレハ各銃ノ平均點躲避ヲ願慮シ指示スルコトヲ得)ニ對シ連續射撃ヲ爲スモノトス

二 初年兵並之ニ準スル者ノ習會ニ在リテ制限シタル射擊時間ハ幹部ノ指導上ノ標準ニシテ合否及得點ノ決定ニハ之ヲ願慮セサルモノトス

士官、下士及第二年兵ノ習會ニ在リテハ制限時間內ニ射撃シ得サル射彈並時間ヲ制限セル連續射撃ニ於テ時間內ニ射撃シ終ラサル射彈ハ總テ零トス

考

- 三 早駈ノ距離ハ其標準ヲ示シタルモノニシテ射場ノ狀況ニ依リ之ヲ減スルコトヲ得
- 四 初年兵並之ニ準スル者ノ合格標準ニシテ特ニ示ササルモノハ總テ初年兵ニ同シ
- 五 人像的ノ命中彈ハ一發五點トス
- 六 習會順次及合格標準欄中ノ略稱ハ左ノ如シ
機初 | 機關銃隊初年兵 士候 | 士官候補生 幹候 | 幹部候補生
各部幹候 | 各部幹部候補生
- 七 准士官ハ士官ノ內ニ含ムモノトス
- 八 見習士官、少尉候補者ニハ士官、下士ノ習會ニ準シ射撃セシムルモノトス
- 九 機關銃隊士官、准士官及下士ニハ其技能ニ應シ士官、下士ノ習會中適宜ノ三習會ヲ射撃セシムルモノトス
- 十 東京、龍山屯在ノ騎兵隊ニ於ケル距離四百米ノ習會ハ野外ニ於テ適宜行フモノトス
- 十一、基本射撃ニ用フル標的ハ附圖第二乃至第五、其他ノ射撃用具ハ附圖第六乃至第九ノ如シ

第十二表 其二

備	三	二	一	習會順次		資格標準(點數)
				兵下後	兵下後	
				離距(米)	姿標	
一 集合彈採點環ヲ以テ採點ス	二 收容スル爲要スレハ各銃ノ平均點躲避ヲ顧慮シ指示スルコトヲ得	三 連續射撃ヲ爲スモノトス	一 二〇〇	二 二〇〇	三 二〇〇	五
			一 依托伏	二 伏	三 膝	五
			一 圈的	二 圈的	三 膝畫的	五
			一 甲	二 一三	三 一人像	一
			一 乙	二 一一	三 一	一
摘要	二	五	五	五	五	五
摘	五	五	五	五	五	五

騎兵隊勤務演習召集者小銃基本射擊習會表

考

二 習會順次及合格標準欄中ノ略稱ハ左ノ如シ
 豫下兵 豫備役下士、兵卒 後下兵 後備役下士、兵卒
 三 豫後備役下士官、准士官及豫備役見習士官ニハ其技能ニ應シ豫備役下士、兵卒 習會中適宜ノ二習會ヲ射撃セシムルモノトス

合格標準

第七十六 合格標準ハ各射手ヲシテ到達セシムヘキ教育上ノ標準ヲ示スモノナリ故ニ僅小ノ差ヲ以テ標準ニ達セサル者ト雖當日ノ成績ト平素ノ伎倆トニ鑑ミ合格セシムルコトヲ得而シテ不合格者ニ對シテハ三發以內ノ彈藥ヲ支給シテ補射セシムルモノトス

補射

補射ハ射手ノ動作ノ缺點ヲ矯正シ得ル如ク指導シ射撃セシムルモノニシテ射撃時間ヲ制限セル習會ニ於テモ要スレハ其時間ニ關係ナク適宜ニ射撃セシムルコトヲ得

補射ヲ爲シ尙其缺點ヲ矯正シ得サルトキハ特別射撃ヲ行ヒ速ニ之ヲ矯正スルコトニ勉ムヘシ

習會順序

第七十七 同一射手ヲシテ一日ニ二習會ヨリ多ク射撃セシメサルヲ可トス病氣其他ノ事故ニ由リ教育年度ノ中途ヨリ教育ヲ始ムル者ニ在リテモ成ルヘク順序ニ從ヒ基本射撃ヲ實施シ且勉メテ戰鬪射撃ヲ實施セシムヘシ

射擊當日

第七十八 所屬隊ニ復歸セル場合モ亦之ニ準ス 射擊當日ノ天候、氣象著シク成績ニ影響スヘキトキハ伎倆優秀者

ノ天候	銃及彈藥	射場取締	中隊長 兵器掛	射場勤務 監視者
-----	------	------	------------	-------------

ル士官、准士官又ハ下士ヲシテ試射ヲ爲サシメ要スレハ其照準點ヲ一般ニ告
クルモノトス
天候、氣象著シク不良ニシテ當日ノ射撃ヲ中止セシトキハ其當時ノ狀況ニ依
リ中隊長ニ於テ其成績ノ採否ヲ決定スヘシ
銃及彈藥ノ故障ニ依リ射撃成績不良ナルトキハ其成績ヲ取消シ更ニ彈藥ヲ支
給シテ射撃セシムルコトヲ得

射撃場ノ勤務及射手ノ動作

第七十九 射撃場ニ在ル演習部隊ノ高級先任ノ將校ハ射撃場一般ノ取締ニ任
スルモノトス

第八十 中隊長ハ中隊ノ射撃實施ヲ管理ス

第八十一 中隊ノ兵器掛ハ中隊長ノ指示ニ從ヒ射撃場ノ設備ニ任ス即チ標的
其他所要材料ヲ準備シ必要ナル書類ヲ射撃場ニ携行シ諸勤務員ノ分擔ヲ定メ
彈藥及藥莢ノ出納ヲ掌リ且射撃終レハ射撃場ヲ整理スルモノトス

射撃成績原簿(附表第十)及射撃成績一覽表(第二百二十六參照)ハ射撃場ニ於
テ射手(集合彈探點銀ヲ以テ探點スル習會ニ在リテハ監視者助手)ノ差出ス射
撃手簿ノ紙片ヲ之ニ貼付シテ整理シ又射撃成績一覽表ハ射撃終了後中隊長ノ
點檢ヲ受クヘシ

第八十二 射場勤務左ノ如シ

一 監視者

監視者トシテ發射地點毎ニ士官、准士官若ハ下士一名射手ノ傍ニ在リテ之

小銃

カ教育ニ任シ且特ニ彈藥ノ裝填、抽出及銃ノ安全裝置等ニ注意シ又射場ノ
記號ニ對スル監視者ノ應答不確實ナルトキハ之ヲ糾スヘシ

射撃豫行演習ニ熟セル射手ト雖爆音、反撞ニ慣レサルト過度ニ命中ニ焦慮
シ撃發ノ好機ヲ失セシコトヲ顧慮スル結果撃發直前ニ於テ右眼ヲ閉チ、頭
ヲ動カシ或ハ肩ヲ進メ又ハ手ヲ握リ締ムル等ノ過失ヲ犯スコトアリ此動作
ヲ矯正スルニハ射手ニ覺知セラレサル如ク不發彈ヲ填裝シ或ハ全ク裝填セ
サル銃ヲ與ヘテ射撃セシメ以テ自ら其過失ヲ悟ラシムルヲ可トス此際向上
法 照準線ヲ照準點ニ對シ下方ヨリ導キツツ絶エス引鐵ヲ壓シ縱ヒ照準線
未タ照準點ニ到達セサルモ或ハ照準點ヲ通過スルモ之ニ介意スルコトナク
照準線ノ移動中ニ撃發ス)ヲ以テ撃發セシムルトキハ此過失ヲ矯正シ得ル
コトアリ

監視者ハ命中著シク不良ナル射手アルトキハ中隊長ノ許可ヲ受ケ當日ノ射
撃ヲ中止セシムヘシ而シテ中止セシメタル習會ノ射撃ヲ續行セシムルトキ
ハ合否決定ノ爲前成績ヲ通算スルモノトス又命中不良ニシテ試射ヲ必要ト
認メタルトキハ自ら之ヲ行ヒ射手ニ照準點ヲ教示スヘシ

補射若ハ試射ニ使用スル彈藥ハ直接兵器掛ヨリ受領シ其出納ヲ確實ナラシ
ムヘシ

發射ノ際異狀ノ音響ヲ發シ被甲破裂等ノ疑アリタルトキハ直ニ射撃ヲ中止
セシメ銃腔ヲ檢査シ異狀ナキヲ確メタル後ニアラサレハ射撃セシメサルモ
ノトス此際成ルヘク銃腔ノ手入ヲ爲サシムヘシ

監視者助

交代掛

射擊終レハ射撃手簿ノ記入ヲ點檢スヘシ

監視者ニハ助手トシテ通常兵卒二名ヲ附ス其一名ハ射手ノ傍ニ位置シ監視ノ記録ヲ以テ記入ス(集合彈探點銀ヲ以テ採點スル習會ヲ除ク)若射手ノ報告監視ノ手ノ記録ト相違スルトキハ直ニ射手ニ注意シ又銃及彈藥ニ故障アリタルトキ、試射ヲ行ヒタルトキ、制限時間内ニ射撃シ得スシテ零トナリタルトキ等ハ摘要欄ニ、監視者ノ指示スル射手ノ過失ハ過失欄ニ記入シ射撃終レハ射撃手簿ヲ射撃ニ渡シ他ノ一名ハ監視者ノ命ニ依リ記號板(附圖第七)ノ操作ヲ行ヒ又射撃時間ヲ制限セル習會(隱顯的射撃ヲ除ク)ニ於テハ射撃時間ノ終始ヲ射撃手ニ告グルモノトス

集合彈探點銀ヲ以テ採點スル習會ニ在リテハ通常助手一名ヲ增加ス而シテ三名ノ助手申一名ハ豫メ射撃手簿ノ原簿ノ片ヲ取纏メ監視ノ據ニ携行シ監視長ノ區處ヲ受ケ之ニ彈著及成績ヲ記入シ一名ハ射撃場ニ在リテ記號板ノ操作ヲ爲シ且射手ノ射撃順序ヲ筆記シ他ノ一名ハ監視者ノ射撃手簿ノ原簿ノ片ヲ適宜數標的ノモノヲ取纏メテ之ヲ射撃場ニ持來シ且射撃手簿ノ整理ヲ爲スモノトス

三

交代掛

交代掛トシテ下士若ハ上等兵若干名ヲ置ク

交代掛ハ射手ヲ若干群ニ分チ各群ヲ各標的ニ配當シ銃ノ檢査ヲ行ヒ特ニ銃

記點手
附表九

射手ノ動

腔ニ異物附着シアラサルヤ否ヤヲ檢査シタル後各群ヲ各發射地點ノ後方約十歩ノ所ニ誘導シ兵器掛ヨリ彈藥ヲ受領シテ之ヲ各射手ニ分配スルモノトス

各群ノ射撃進捗ニ伴ヒ交代ノ爲時間ヲ徒費セサル如ク新ニ射撃スヘキ射手ヲ前項ニ從ヒ準備シ又各群毎ニ射撃ヲ終リタルトキハ射手ヨリ藥莢ヲ受領シ之ヲ兵器掛ニ返付シ銃及彈藥盒ヲ檢査シタル後各群ヲ舊位置ニ誘導スルモノトス

第八十三 命中成績及其他ノ登記法左ノ如シ(附表第九參照)

射撃手簿ノ三片ニ每發ノ彈著、命中點數、發射彈、總點、合否等ヲ記入ス

數字ハ亞刺比亞數字ヲ用フ

命中セサル射彈及跳彈ノ命中セシモノハ○ヲ以テ示シ制限時間内ニ射撃シ得スシテ零トナリタル射彈ハ(○)ヲ以テ示シ且其旨ヲ摘要欄ニ記入ス

合格ハ十、不合格ハ一ヲ以テ示ス

補射及射撃ヲ中止セル成績(射撃續行ノ際前成績ヲ通算スルモノヲ除ク)ノ數字ニハ括弧ヲ附シ又其彈著ハ異ナリタル符號ヲ用フ

理由ハ摘要欄ニ記入ス

第八十四 射手ノ動作左ノ如シ

射撃ハ各群ヨリ一名ツツ行フモノトス

發射スレハ豫言ヲ爲シ銃ヲ構ヘ遊底ヲ開キテ藥莢ヲ出シタル後之ヲ閉キ命中

監的勤務

監的長

點數及彈著ヲ報告ス(連續射擊ニ在リテハ規定ノ彈數ヲ發射シタル後報告ス)射擊全ク終リタルトキハ銃ヲ安全裝置ニシ藥莢ヲ拾ヒ發射地點ノ後方約十五歩ノ所ニ後退シテ位置ス

裝填、抽出及銃ノ安全裝置ハ總テ發射地點ニ於テ標的ニ對シテ行フモノトス

射手ハ發射地點ニ出テタルトキ射擊手簿ヲ監視者助手ニ出シ射擊終リタルトキ之ヲ受領シ原簿及一覽表ノ二片ヲ兵器掛ニ渡スモノトス(集合彈探點鑽ヲ以テ探點スル習會ヲ除ク)

發火セサル彈藥アルトキハ徐口ニ遊底ヲ開キ彈藥ヲ廻ハシテ新位置ヲ取ラシメ再ヒ射擊スヘシ此ノ如クスルモ發火セサルトキハ監視者ハ雷管及擊莖尖端ヲ檢シ要スレハ其彈藥ヲ他ノ射手ニ交付シテ射擊セシメ尙發火セサルトキハ不發彈ト認定スヘシ

第八十五 監的勤務左ノ如シ

各中隊ハ監的長トシテ下士若ハ上等兵一名監的手トシテ各標的ニ兵卒二名(隱顯的ヲ各的毎ニ操作スル場合ハ三名)ヲ出シ適時交代セシムモノトス

監的長ハ射擊中監的手ノ動作ヲ監視シ諸規定ヲ嚴正ニ履行シ且命中成績ノ報告ヲ正確ナラシメ又射場ノ記號ニ注意スヘシ

隱顯的射擊ニ在リテ中隊ノ各標的ヲ同時ニ操作スルトキハ監的長ハ隱顯的時機ヲ各的ニ指示スルモノトス

監的手ノ一名ハ示點竿手ニシテ通常示點竿(附圖第八)ヲ以テ命中點數及彈

命中點數及彈著ノ法記號及方

著ヲ標示シ(集合彈探點鑽ヲ用フル場合ニ於テハ探點鑽ヲ用ヒ成績ヲ定ム)他ノ一名ハ治痕手ニシテ彈痕ヲ修理シ兼ネテ標的ノ操作ニ任ス隱顯的ヲ各標的毎ニ操作スル場合ニ於テハ他ノ一名ノ監的手ハ隱顯的時機ヲ指示スルモノトス

數中隊同時ニ同一射擊場ニ於テ射擊ヲ行フトキハ高級先任ノ監的長ハ監的勤務全般ノ取締ニ任スルモノトス要スレハ特ニ士官若ハ准士官ヲ以テ監的取締ニ任スルコトアリ

第八十六 命中點數及彈著ヲ標示スル記號及方法左ノ如シ

左ノ規定ニ據リ先ツ命中點數ヲ示シタル後示點竿ヲ以テ彈著ヲ示スモノトス

命中點數ハ標的面上ニ記シタル數字ニ應スル點數ヲ示點竿(號旗)ヲ以テ標示スルモノトス命中點數十點ナルトキハ示點竿ノ白面(白又ハ黃旗)ヲ左右ニ振り九點ハ上下シ八點ハ直立シ七點ハ標的ニ對シ右斜ニ、六點ハ左斜ニ出ス五點以下ハ示點竿ノ赤白面(赤白旗)ヲ用ヒ右ト同一ノ順序ニ從ヒ標示ス

集合彈探點鑽ヲ以テ探點スル習會ニ在リテハ先ツ其成績ヲ標示シタル後概略ノ平均點要スレハ散布ノ状態ヲ示點竿ヲ以テ示スモノトス其成績甲ハ十點、乙ハ九點、丙ハ八點、丁ハ七點ノ記號ヲ用フ

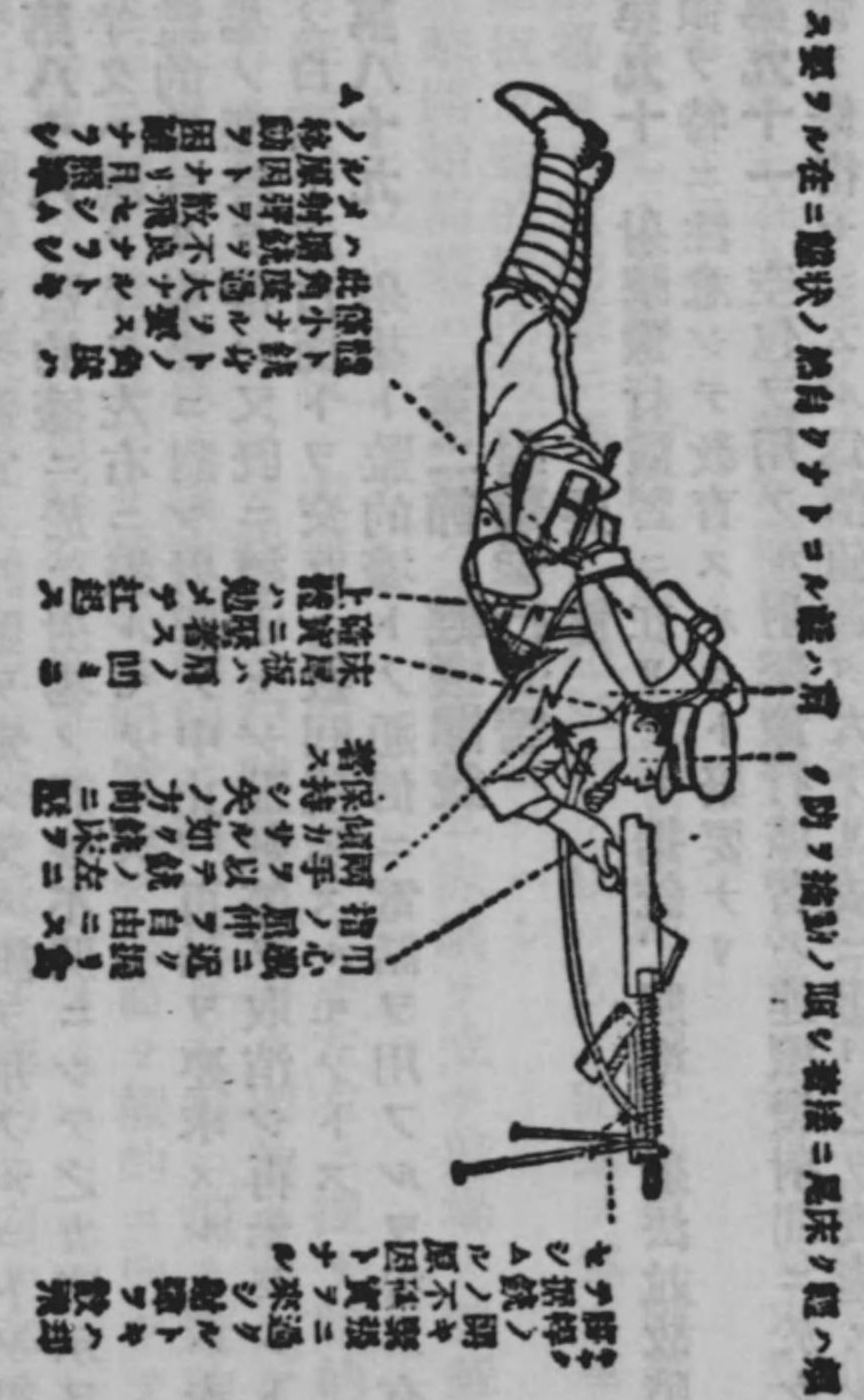
人像的ニ對スル射擊ニ在リテハ命中彈一發ヲ五點ノ記號ヲ以テ標示ス

圈的及圈頭的ニ在リテ圈外ニ彈著シタルトキハ示點竿ヲ圓形ニ振り零ヲ標示シタル後彈著ヲ示ス又總テ標的外ニ射彈逸シタルトキハ單ニ示點竿ヲ圓形ニ

振リテ零ヲ標示ス
 點數ノ境界線ニ命中シタル彈著ハ其高キ點ノ記號ヲ爲ス
 跳彈ノ命中ハ圓的及圓頭的ノ圈外ニ彈著シタルトキト同一ノ記號ヲ爲ス(跳
 彈ノ彈痕ハ通常圓形ヲ爲ササルモノナルヲ以テ精密ニ彈痕ノ形狀ニ注意スル
 ヲ要ス)
 特ニ規定スルモノノ外一發毎ニ命中點數及彈著ヲ標示ス但人像的ニ對スル連
 續射擊ニ在リテハ規定彈數ヲ射盡シタル後一發毎ノ命中點數及彈著ヲ標示ス
 ルモノトス
 第八十七 射擊ノ終始、中止並標的廻轉及命中點數、彈著ノ再示ノ要求等ヲ
 射場ヨリ監的壕内數箇所ニ揭示シ置クヘシ
 號板及監的壕内數箇所ニ揭示シ置クヘシ
 射擊開始前若ハ中止間ハ標的の面前ニ赤旗ヲ立テ射場ノ記號板ハ其裏面ヲ標的
 ニ向ケテ立ツ
 射擊開始ハ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケテ之ヲ左右ニ振り監的手ノ應答 赤旗ヲ
 左右ニ振りテ倒ス)ヲ待チテ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケテ立ツ
 射擊中止ハ記號板ノ裏面ヲ標的ニ向ケテ之ヲ左右ニ振り監的手ノ應答(赤旗ヲ
 左右ニ振りテ立ツ)ヲ待チテ記號板ノ裏面ヲ標的ニ向ケテ立ツ此記號ノ終リ
 ニ記號板ヲ倒セハ射擊全ク終リタルヲ示ス
 標的ノ廻轉ヲ要求スルニハ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケテ之ヲ俯仰ス
 命中點數及彈著ヲ再示セシムルニハ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケテ之ヲ圓形ニ廻
 轉ス

右ノ外要スレハ適宜ノ記號ヲ定メ又ハ旗ヲ用フルコトヲ得
 第八十八 監的壕ニ於テ射場ノ記號不明ニシテ之カ明示ヲ要求スルニハ示點
 竿又ハ旗ノ竿ヲ左右ニ振ルモノトス
 監的壕ヨリ射場ニ對シ射擊ノ中止、再始ヲ要求スルニハ赤旗ヲ左右ニ振り射
 場ノ應答ヲ待ツ又既ニ標示セシ點數等ヲ取消シ再示セントスルトキハ示點竿
 ノ白面ト赤白面トヲ交互ニ數回現示スルモノトス
 第八十九 射場ト監的壕トノ通信ニ電話ヲ用フルヲ得ハ有利ナリ
 第二節 輕機關銃
 射擊豫行演習
 要旨
 第九十 射擊豫行演習ニ在リテハ据銃、照準、射法並故障ノ豫防及排除ノ要
 領ヲ特ニ注意シテ教育スルコト緊要ナリ
 第九十一 空包ヲ用フル射擊豫行演習ハ連續發射間ニ於ケル据銃及照準ノ要
 領ヲ修得セシムル爲メ價値甚大ナリ故ニ屢々之ヲ實施スルヲ要ス
 照準及射擊ノ方法
 第九十二 照準ハ通常左眼ヲ閉ツルコトナク行フモノトス
 照準ノ正否ヲ檢スルニハ照準檢査ノ器械ヲ用ヒ又ハ小銃ヲ用ヒテ照準檢査法
 ヲ行フヲ可トス
 第九十三 据銃ノ正否ハ命中ノ良否ニ影響スルコト頗ル大ナルヲ以テ如何ナ
 特ニ教育
 スヘキ科
 目
 空包豫行
 演習
 照準
 据銃

圖三十一 銃据 一其 圖側右



ル場合ニ於テモ
確實ニ實施シ得
ル如ク熟練スル
ヲ要ス又迅速ニ
發射スル爲銃ヲ
一舉ニ適當ナル
位置ニ接著シテ
直ニ照準ヲ開始
シ得ル如ク演練
スルト共ニ据銃
ニ方リ銃ノ指向
適當ナラサルト
キハ直ニ兩肘ノ
閉閉、肘ノ位置
ノ移動、射擊姿
勢ノ變換等ニ依
リ之ヲ修正シ速
ニ照準ヲ開始シ
得ルコトニ慣熟
セシムルヲ要ス

据銃ノ要
方引鐵ノ引

射擊

豫言

第九十四 据銃ノ要ハ連續發射間照準線ヲ正確ニ保持スルニ在リ
据銃ノ要領及其要點ヲ圖示スレハ第二十三乃至第二十五圖ノ如シ
第九十五 引鐵ヲ引クニハ食指ノ運動ヲ臂ニ波及セシメサル爲右手ヲ以テ銃
把ヲ確實ニ握リ食指ノ第一節ヲ根ニ近ク或ハ第二節ヲ
引鐵ニ掛ケテ之ヲ壓シ
微弱ノ力ニテ終ニ擊發
シ得ルニ至ラシム而シ
テ連續發射中食指ヲ緩
メサルコト及擊發ノ後
敏捷ニ食指ヲ伸ハスコ
トニ熟セシムルコト緊
要ナリ

圖四十二 第二

二其銃據 圖側左



左手ハ五指ヲ揃ヘテ概ニ第二節根ヲ上ニ
シ指ト掌トヲ以テ床鼻ノ前方ヲ挾ム如クニ
握ル事ハ銃據ニ據著ス
右手ハ掌ヲ銃把ニ接著シ指ヲ十分
伸ハシテ指ト中指トヲ對向セシ
テムル如ク握リ此際過度ニ力ヲ加ヘ
テ握リ締メサルヲ要ス

第九十六 射擊スルニ
ハ据銃シテ照準ヲ始ム
ルト同時ニ呼吸ヲ止メ
正シク照準シ得タルト

キ擊發シ得ル如ク引鐵ヲ壓スルモノトス
練習ヲ重メルニ從ヒ照準ノ安定ヲ害セスシテ而モ迅速ニ擊發シ得ルニ至ラシ
ムルヲ要ス
連續發射間ニ於ケル照準線ト照準點トノ關係ヲ注視シ其狀態ヲ確認シテ報告
セシムルハ極メテ必要ニシテ殊ニ連續發射間照準線ヲ保持スル要領ヲ會得セ

連續發射
ト注意
數發每ノ
點射

點射ノ移
動

シムル爲價值大ナルモノトス(此報告ヲ豫言ト謂フ)
第九十七 連續發射ニ伴フ照準ノ疎漏、照準線保持ノ不確實等ニ依リ命中ヲ不良ナラシメ又引鐵ヲ壓セル食指ノ弛緩ハ銃ノ故障ヲ誘起スルコト少カラス故ニ幹部ハ周倒ナル注意ヲ以テ之カ矯正ニ勉メサルヘカラス

圖五十二第



三其 銃據
面 正
兩肘ノ間隔ハ肩ノ幅ヨリ僅ニ廣クシ且精、前方ニ出スヲ可トス是安定良好ニシテ且照準ノ移動モ亦容易ナルヲ以テナリ
體重ハ兩肘ニ平均ニ懸ケルヲ要ス不均ナルトキハ發射ニ方射彈ヲ一方ニ數飛セシムルニ至ル

通常目標ノ一端ヲ照準シ數發ノ點射ヲ行ヒ脚桿及兩肘ノ位置ヲ變シ得ル範圍ハ射手ノ體格ニク微小ナル肩ノ移動ニ依リ迅速ニ目標ノ他部ニ照準線ヲ移シ更ニ數發ノ點射ヲ行ヒ逐次他端ニ及スモノトス
第九十八 數發每ノ點射ヲ行フニハ約五行ツツ發射スル如ク食指ヲ屈伸シ更ニ照準シテ同一動作ヲ反復スルモノトス
第九十九 數發每ノ點射ヲ移動スルニハ

連續點射

雜射

射法教育
順序

使用銃
服裝

基本射擊

依リ差アリト雖概ネ距離ノ百米數ニ三ヲ乘シタル正面(三十密位)ヲ適度トス故ニ點射ノ移動ニ在リテハ此範圍ヲ超過スル毎ニ射手ハ兩肘ヲ移動セサルヘカラス而シテ此動作ヲ迅速ニ行フ爲ニハ先ツ腰ヲ僅ニ捻ル如クシテ移動スルヲ可トス雜射ニ在リテモ亦然リ
第一百 連續點射ヲ行フニハ通常先ツ數發ノ點射ヲ行ヒ其彈著ニ依リ照準點ノ基準ヲ得タル後連續發射スルモノトス
第一百一 雜射ヲ行フニハ通常先ツ一點ニ對シ數發ノ點射ヲ行ヒ其彈著ニ依リ照準點ノ基準ヲ得タル後照準線ヲ目標ニ沿ヒ平等ニ移動シ射擊スルモノトス雜射ノ速度ハ距離ノ遠近、目標ノ狀態ニ依ルモ脚桿及兩肘ノ位置ヲ變スルコトナクシテ照準線ヲ移動シ得ル正面内ニ十五發ヲ發射スルヲ以テ標準トス
第一百二 射法ノ教育ハ先ツ數發每ノ點射ヲ以テ其要領ヲ十分會得セシメタル後他ノ射法ヲ教育スルヲ要ス是數發每ノ點射ハ主要ノ射法ナルノミナラス之ニ熟スルトキハ他ノ射法ヲ教育スルコト容易ナレハナリ
基本射擊
第一百三 各射手ニハ每習會同一銃ヲ以テ射擊ヲ行ハシムヘシ
第一百四 基本射擊ニ於ケル射手(軍曹以下)ノ服裝ハ軍裝ニシテ歩兵ニ在リテハ背囊入組品、騎兵ニ在リテハ軍刀ヲ除ク但合格標準ヲ定メサル習會ニ在リテハ背囊及裝具ヲモ除クモノトス
第一百五 歩兵隊ノ基本射擊ハ第十三表、騎兵隊ノ基本射擊ハ第十四表ニ據リ實施スヘシ

考 備	卒兵・士下銃關機輕			
	五	(四)	(三)	二
一 第一及第三習會ハ通常黒點ノ下際ヲ照準シ其他ノ習會ハ修正セル照準點ヲ照準スルモノトス	五〇散兵	三〇〇伏	三〇〇の大頭	二〇〇大頭
二 制限時間内ニ射撃シ得サル射弾ハ總テ零トス	一五動點射ノ移區劃	一五回點射ノ復	五點射一回	一 點射ノ復
三 人像ノ命中彈ハ一發五點トス	九二	一〇	丙	一七
四 散兵ノ在リテハ人像ニ關セス各區劃内ニ命中セル一彈ヲ以テ一點トス	二 別ニ發ヲ支給シ試射ヲ爲	一 裝填シ置キテ標的ヲ現出ス	二 據銃後ヨリ二十秒以内ニ	據銃後(據銃時間ヲ含マス以下)ヨリ十五秒以内ニ射撃ス
五 秋季演習ニ召集セラレタル者ニハ括弧ヲ附シタル習會ノミヲ射撃セシム	三 區劃ニ對シ點射ヲ移動ス	二 據銃後ヨリ二十秒以内ニ	一 據銃後ヨリ二十秒以内ニ	據銃後(據銃時間ヲ含マス以下)ヨリ十五秒以内ニ射撃ス

役備豫	類種手射
	次順會習
一 二〇〇大頭	(米)離距
	的 標
五點射一回	彈射發
	法 射
乙	準標格合(數點)
六六六六六	點集
十十十十十	標合
糧糧糧糧糧	彈探
銀銀銀銀銀	左點
内内内内内	ノ如
ニニニニニ	シヲ
二發以下	以テ
	探點
	ス其
丁丙乙甲	探

第十三表 其二

步兵隊勤務演習召集者輕機關銃基本射擊習會表

第十三表其一ハ末尾步兵隊射擊教育規定附表第二ノ通り改正ニ付七六頁ヨリ七九頁迄削除ス

種類手射	者ルス準ニ				
	十	九	八	七	六
習會順次	七	六		五	四
(米距離)	二〇〇	五〇	三〇〇	三〇〇	四三〇
的標	的大圈	的散兵	膝的	頭大的圈	頭大的圈
彈射發	一五	二〇	一五	一五	五
法射	連續點射	點射動ノ	回點射ノ復	回點射ノ復	五點射一回
官士下第年兵	合格標準(點數)	區別	一〇	一七	丙
摘	一、活銃後ヨリ十秒以内ニ射撃ス 二、別ニ五發ヲ支給シ試射ヲ爲サシム	一、据銃後ヨリ三十五秒以内ニ區別ニ對シ點射ヲ移動ス 二、別ニ五發ヲ支給シ試射ヲ爲サシム	一、裝填シ置キテ標的ヲ現出ス 二、秒	一、据銃後ヨリ三十五秒以内ニ據銃(据銃時間ヲ含ム)ヨリ二十秒以内ニ射撃ス	一、集合彈探點鏡ヲ以テ探點ス其探點標準ハ第三習會ニ同シ 二、据銃後(据銃時間ヲ含ム)ヨリ二十秒以内ニ射撃ス
要	集合彈探點鏡ヲ以テ探點ス其探點標準左ノ如シ				

之 並 兵 年 初					種類手射
五	四	三	二	一	
三					兵年初 候士會 候下順 候幹次
三二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	(米距離)
的大圈	的大圈	的大圈	的大圈	的大圈	的標
一〇	五	五	五	五	彈射發
回點射ノ復	點射一回	點射一回	連續發	單發	法射
一五	一〇				標準合格(數點)
据銃後(据銃時間ヲ含ム)ヨリ二十秒以内ニ射撃ス					摘
同シ)ヨリ二十秒以内ニ射撃ス					要
		六六六六	六六六六	六六六六	彈藥ハ監視者若ハ助手一發ツツ 藥莖出窓ヨリ之ヲ込ム
		十十十十	十十十十	十十十十	
		糧糧糧糧	糧糧糧糧	糧糧糧糧	
		內內內內	內內內內	內內內內	
		二二三三	二二三三	二二三三	
		發發發發	發發發發	發發發發	
		以下	以下	以下	
		丁丙乙甲			

第十四表 其一

騎兵隊輕機關銃基本射擊習會表

第十四表 其二

卒兵・士下銃關機輕役備豫				種類手射
				次順會習
				(米)距離
四	三	二	一	的標
五〇散兵的	三〇〇膝的	三〇〇的大圓頭的	二〇〇大圓的	彈射發
				法射
一五動點射ノ移動	一五四點射ノ反復	五點射一回	五點射一回	準標格合(數點)
九二	一〇	丙	乙	摘
對シ點射ヲ移動ス	一掃銃後(掃銃時間ヲ含マス)ニリ二十五秒以内ニ三區劃ニ	一 點標ハ第一會ニ同シ 二 點標ハ第一會ニ同シ 三 點標ハ第一會ニ同シ 四 點標ハ第一會ニ同シ 五 點標ハ第一會ニ同シ	六 點標ハ第一會ニ同シ 七 點標ハ第一會ニ同シ 八 點標ハ第一會ニ同シ 九 點標ハ第一會ニ同シ 十 點標ハ第一會ニ同シ	要

考 備	故障	記載、 記等、 監視者
<p>一 第一及第二習會ハ通常黑點ノ下際ヲ照準シ其他ノ習會ハ修正セル照準點ヲ照準スルモノトス</p> <p>二 制限時間内ニ射撃シ得サル射彈ハ總テ零トス</p> <p>三 人像的ノ命中彈ハ一發五點トス</p> <p>四 散兵的ニ在リテハ人像ニ關セス各區劃内ニ命中セル一彈ヲ以テ一點トス</p> <p>豫備役士官、准士官及見習士官ニシテ輕機關銃中隊要員ノモノニハ本習會表ニ準シ射撃セシムルモノトス</p>	<p>第六六 銃ニ故障ヲ生シタル場合ニ於テハ通常規定ノ彈數ニ達スルマテ其銃又ハ他ノ銃ヲ以テ續キテ發射セシメ射撃時間ヲ制限セル習會ニ在リテハ故障時間ヲ控除スルモノトス然レトモ中隊長ハ既ニ發射セル彈數少キトキハ其成績ヲ取消シ更ニ彈藥ヲ支給シテ射撃セシムルコトヲ得</p> <p>第六七 射撃成績ヲ監的據ニ於テ記號スル方法及之ヲ射撃手簿ニ登記スル方法ハ習會ノ種類ニ依リ異ナルモ概ネ小銃ノ集合彈採點鑽ヲ以テ採點スル習會(第八十二第二號、第八十三、第八十六)ニ準シ行フモノトス</p> <p>第六八 監視者ハ射撃ノ開始前及終了後銃ノ檢査ヲ行ヒ其結果ヲ中隊長ニ報告シ且發射ヲ終ル毎ニ受彈坐上及藥室內ニ於ケル殘彈ノ有無ヲ檢査スヘシ</p>	<p>監視者</p>

要旨

故障發生ノ主因

夜間ノ動作

監視者ハ故障ヲ生シタル場合ニハ其種類及原因ヲ判定シ之ヲ射撃手簿ニ記入セシムヘシ

故障ノ豫防及排除

第九百九 輕機關銃ノ射撃間故障ノ發生ハ射撃ノ中絶ヲ來シ任務ノ遂行ニ多大ノ障碍ヲ生セシム故ニ幹部ハ特ニ其構造、機能ニ精通シ故障ノ發生ヲ豫防スルト共ニ迅速ニ其原因ヲ發見シ且故障ヲ排除スルノ伎倆ヲ備ヘサルヘカラス又射手ヲシテ其構造、機能ヲ知得シテ故障ノ豫防及迅速ナル排除ニ熟練セシムルヲ要ス

夜暗ニ於ケル故障ノ豫防及排除ニ習熟セシムルハ夜間射撃ノ爲緊要ナリ
第一百十 銃ノ手入ノ不良、機能ノ不整並射撃動作ノ不正確殊ニ裝填操作ノ不良ハ故障發生ノ主ナル原因トナルヲ以テ幹部ハ屢、銃ノ手入及機能ヲ檢査シテ其整備ヲ圖リ又射手ハ射撃動作ヲ正確ニシ故障ノ豫防ニ勉ムルヲ要ス
故障ノ原因及之カ迅速ナル排除法ヲ的確ニ理解セシムルニハ射撃豫行演習ニ於テ擬製彈ヲ用ヒ各種ノ狀況ヲ現シテ之カ排除法ヲ演練セシメ又毀損セル部品ヲ示シ之カ生起ノ狀態及發生ノ原因ヲ教示シ且爲シ得レハ射撃間發生セシ故障ニ對シ現場ニ於テ綿密ニ教育スルヲ要ス
射撃豫行演習ニ於テ故障ノ作爲及排除法適當ナラサルトキハ往々銃ヲ損傷セシムルコトアルヲ以テ特ニ注意スルヲ要ス
第一百十一 夜間ニ於テハ射撃前ノ點檢ノ不確實、射撃動作殊ニ裝填操作ノ不正確ノ爲往々故障ヲ發生スルコトアルヲ以テ豫防上特ニ注意スルヲ要ス

原因發見

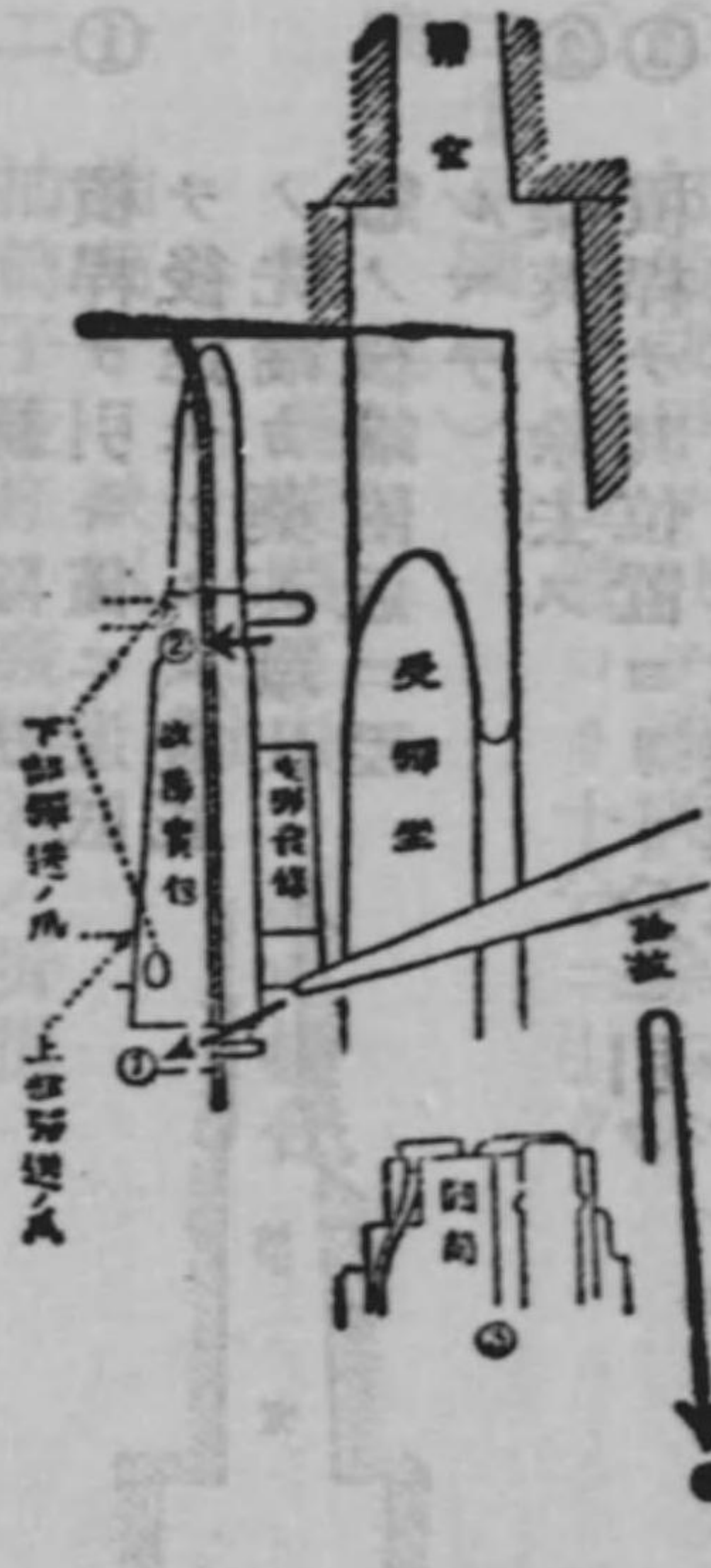
活塞後退不足

故障ノ主

夜暗ニ於ケル分解結合、部品ノ交換、規整子ノ測合、指頭ノ觸感ヲ以テスル故障ノ判斷、藥莢、油槽、抽筒子、規整子分畫並遊底ノ閉鎖狀態等ノ點檢ニ習熟セシムルハ故障ノ豫防及排除ノ爲肝要ナリ
第一百十二 故障ノ原因ヲ發見スルニハ生起セル現象ヲ基礎トシテ判斷スルモノナルモ尙左ノ諸項ハ有力ナル資料トナルモノトス
銃ノ固有癖
發射中ニ於ケル爆音ノ調子、藥莢蹴出ノ狀態、藥莢塗油ノ程度、雷管ノ擊莖衝痕
射手ノ動作
規整子、油槽點檢ノ確否
故障發生ノ時機射撃開始ノ直後ナリヤ、多數彈發射後ナリヤ、分解結合後ナリヤ、運動直後ナリヤ等

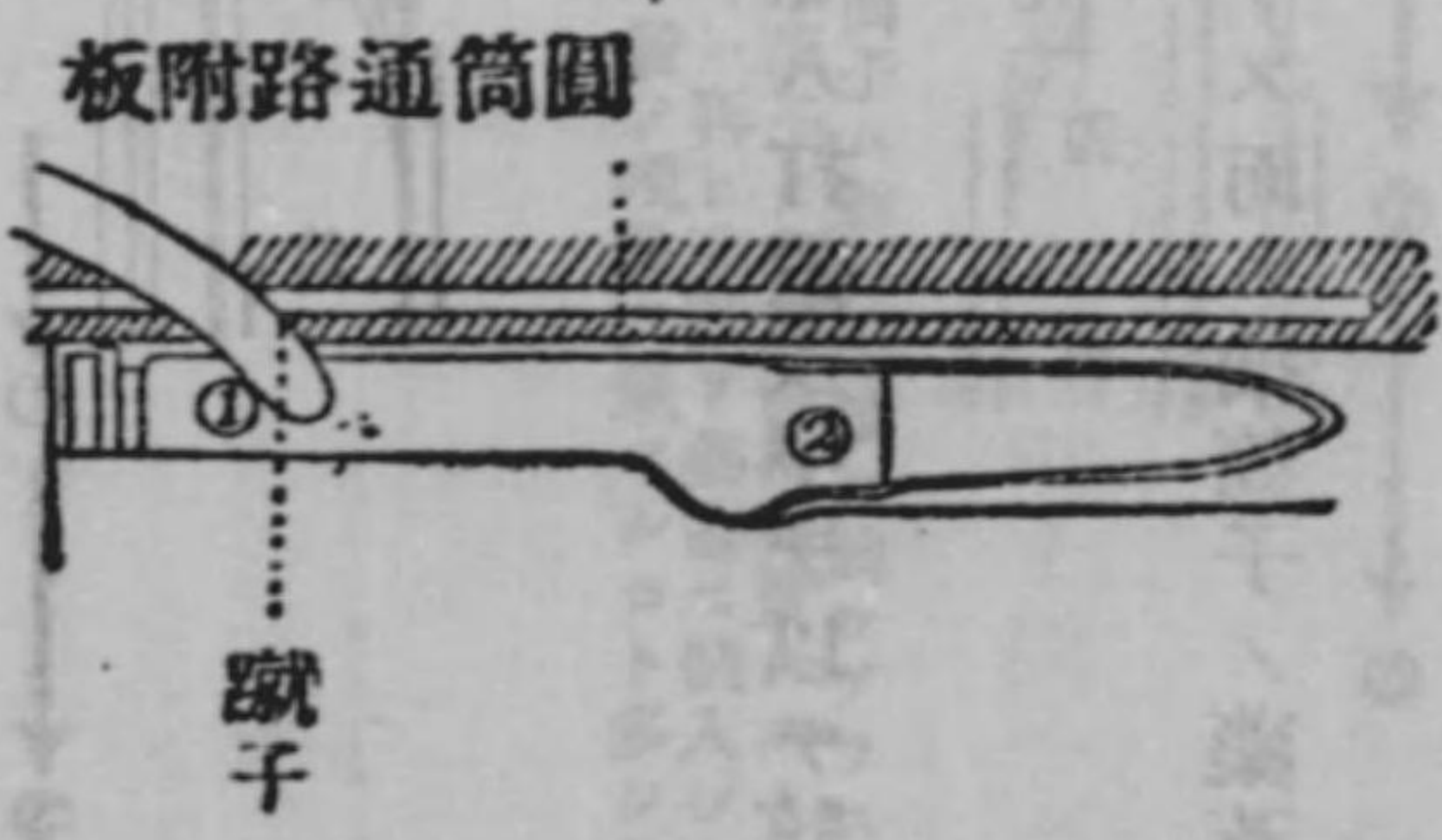
第一百十三 活塞後退ノ不足ハ諸種ノ故障ノ原因トナルモノナルヲ以テ常ニ適當ナル瓦斯壓ノ調節ニ依リ之カ豫防ニ勉ムヘシ然レトモ活塞ノ後退不足ハ獨リ瓦斯壓ノ不足ニ起因スルノミナラス射撃間ニ於ケル渣滓ノ蓄積、異物ノ侵入、塗油ノ缺乏其他裝填架内ノ實包變位等ニ依ルコト少カラサルヲ以テ狀況之ヲ許ス毎ニ手入ヲ實施シ之カ發生ヲ豫防スルコト緊要ナリ
第一百十四 故障ノ主ナルモノハ送彈不良、蹴出不良、突込、不發及挿彈子落

④ 突キ戻スニ從ヒ徐々ニ遊底ヲ進メテ實包ノ左方移動ヲ妨クルコトナカラシム
 遊底ヲ閉鎖シ更ニ裝填ス
 注意
 實包ヲ突キ戻ス際圓筒通路附板ヲ損傷セシメ易キヲ以テ注意ヲ要ス



③ 倉内ニ突キ戻ス要スレハ②ノ部ト交互ニ突キ戻スヘシ
 故障實包ハ下部彈送ノ爪ニ依リ毀損セラレ使用シ得サルコト多シ
 此際槓桿ニ依リ遊底ノ前進ヲ支ヘ實包ヲ

藥英蹴出ヨリ見ル圓筒通路附板



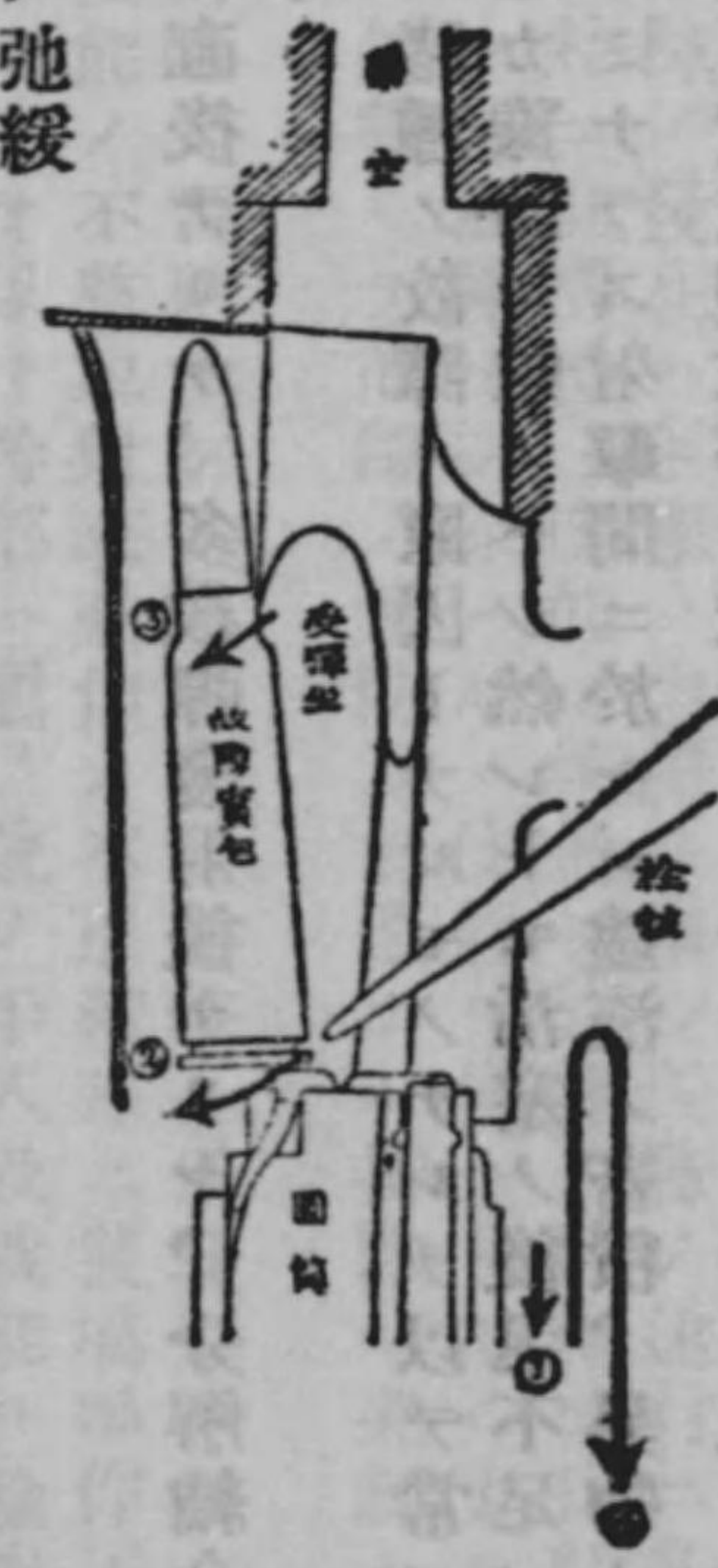
排除法

送彈不良

因

下不良トス
 送彈不良、蹴出不良、突込ノ主ナル原因並排除ノ要領第二十六乃至第二十九圖ノ如シ
 第二十六圖

- ① 主ナル原因
 活塞後退不足
 裝填操作不良
 槓桿ノ引キ方不良
 發射中ニ於ケル食指ノ弛緩
 挿彈子ノ變形
- ② 輕度ナル場合ノ排除法
 槓桿ヲ引キ故障實包ヲ受彈坐上ノ正位ニ送り得サルトキハ遊底ヲ後退セシメテ之ヲ保持ス
- ③ 栓拔ヲ以テ故障實包ヲ彈倉内ニ突キ戻ス要スレハ③ノ部ト交互ニ突キ戻スヘシ此際實包ヲ突キ戻スニ從ヒ徐々ニ遊底ヲ進ムヘシ
 遊底ヲ閉鎖シタル後更ニ槓桿ヲ引ク
 強度ナル場合ノ排除法
 彈倉内ノ實包ヲ撮ミ出シタル後故障實包ニ栓拔ヲ當テテ隨打シ之ヲ彈
- ④ 彈倉内ノ實包ヲ撮ミ出シタル後故障實包ニ栓拔ヲ當テテ隨打シ之ヲ彈



排除法 突込 打殼藥 藥室內ニ 在ルトキ

第二十八圖

① 槓桿ヲ引キ僅ニ遊底ヲ後退セシム(遊底ノ先端カ藥莢蹴出窓ノ後端附近ニ至ルマテ) 打殼拔甲ヲ以テ藥莢ヲ除去ス 槓桿ヲ其位置ヨリ十分ニ引ク

② 突込 打殼藥莢藥室內ニ在ル場合 主ナル原因

③ 抽筒子ノ發條ノ衰損若ハ折損 1 藥室ニ異物ノ介在 2 塗油ノ缺乏

④ 槓桿ヲ引キ僅ニ遊底ヲ後退セシム(遊底ノ先端カ藥莢蹴出窓ノ後端附近ニ至ルマテ) 打殼拔甲ヲ以テ藥莢ヲ除去ス 槓桿ヲ其位置ヨリ十分ニ引ク

⑤ 槓桿ヲ引キ僅ニ遊底ヲ後退セシム(遊底ノ先端カ藥莢蹴出窓ノ後端附近ニ至ルマテ) 打殼拔甲ヲ以テ藥莢ヲ除去ス 槓桿ヲ其位置ヨリ十分ニ引ク

抽筒子ハ藥莢起線ニ鉤シアラズ 抽筒子ノ藥莢保持確實ナルトキハ再ヒ藥莢ヲ藥室ニ裝入シ 不發ノ現象ヲ呈スルコト多シ

蹴出不良 輕度 排除法 強度

第二十七圖

① 活塞ノ後退不足ニシテ蹴子ノ作用不十分 抽筒子ノ藥莢保持不確實

② 槓桿ヲ引キ僅ニ遊底ヲ後退セシム(遊底ノ先端カ藥莢蹴出窓ノ後端附近ニ至ルマテ) 藥莢ヲ除去ス 槓桿ヲ其位置ヨリ十分ニ引ク

③ 此際藥室ニ實包裝填セラレアルコトアリ然ルトキハ打殼拔甲ヲ以テ該實包ヲ抽出シタル後槓桿ヲ十分ニ引ク 強度ナル場合 主ナル原因

④ 活塞ノ後退一層不足ニシテ次ノ實包ヲ送彈スルニ至ラス而モ抽筒子ノ藥莢保持不確實

打殼藥莢
藥室內ニ
在ラサル
トキ
排除法

第二十九圖
藥室內ノ打殼藥莢若ハ實包ノ抽出法

近ニ至ルマテ
① 打殼拔甲ヲ以テ突込實包ヲ受彈坐上ニ押シ戻ス
② 打殼拔甲ヲ以テ藥室內ノ藥莢ヲ抽キ出ス
③ 打殼拔甲ヲ以テ實包ヲ藥室內ニ押シ入レテ之ヲ抽キ出ス(受彈坐上ノ實包ヲ抽キ出スニハ總テ此要領ニ依ルモノトス)
④ 遊底ヲ閉鎖シタル後更ニ槓桿ヲ引ク
⑤ 打殼藥莢藥室內ニ在ラサル場合
主ナル原因
一 支彈發條ノ機能不良
二 其他支彈部ノ作用不良

若ハ實包
ノ抽出法
打殼拔甲ノ爪ヲ藥莢
ノ左下方起線ニ鉤シ
抽出ス已ムヲ得サレ
ハ銃口ヨリ槓桿ヲ入
レテ突キ出ス
注意

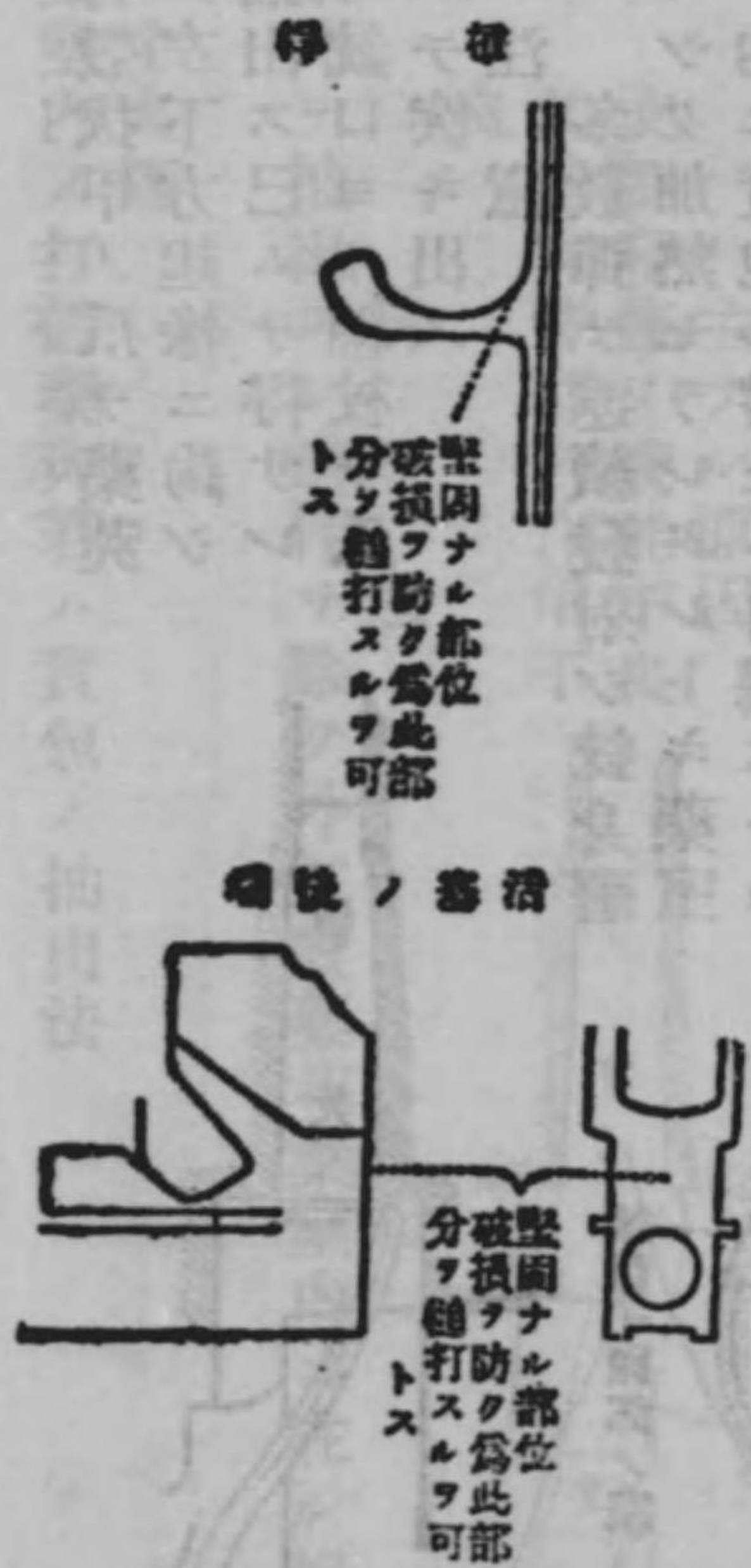
一 多數彈ヲ連續發射シ銃身著シク加熱セラレタルトキ藥室內ニ實包停滯セハ自爆スルコトアルヲ以テ直ニ抽出スルカ
二 若抽出シ得サルトキハ若干時間經過ノ後銃尾ヲ開クヲ要ス
三 杖ヲ以テ銃口ヨリ突キ出スハ自爆ノ虞ナキトキニ限ルモノトス
四 活塞後退不足ニ依ル

挿彈子落
下不良
活塞後退
不能

二、實包ヲ抱持シ來ルトキ
擊莖ノ折損若ハ過短、復坐發條ノ衰損、實包ノ不良或ハ塗蠟及爐渣ノ蓄積若ハ異物ノ侵入等ノ爲遊底ノ閉鎖不十分等ニ依ルモノナルヲ以テ部品ノ交換及圓筒頭部、銃身後端面、圓筒ノ擊莖尖頭室、活塞ノ頭部、瓦斯ノ唧筒内部等ノ手入ヲ十分行フヲ要ス

三、藥室空虛ナルトキ
活塞後退不足又ハ送彈不良ニ依ル
第百十六 挿彈子ハ其變位又ハ異物ノ爲落下ヲ妨害セラレルコトアリ此場合該挿彈子ヲ除クコト困難ナルトキハ壓桿ヲ起スカ已ムヲ得サレハ彈藥ヲ抽キ出シテ除去スヘシ

圖十三第



第百十七 活塞ノ後退不能ニ陥リタル際活塞ヲ抽出スルニハ尾筒底ヲ離脱シタル後槌及栓拔ヲ以テ槓桿及活塞(第三十圖)ヲ交互ニ槌打シテ其緩解テ圖リ且此間活

目的
教育順序
修正
彈著良好
修正法

塞ヲ打チ戻ス等ノ動作ヲ反復シテ抽出スルヲ可トス槌打ハ最初微弱ナル力ヲ以テシ漸次其力ヲ増加スル如クシ如何ナル場合ト雖決シテ過劇ニ失セサル如ク注意スルヲ要ス

抽筒子及同發條ノ折損若ハ變位等ハ往々活塞ノ後退ヲ不能ナラシムルコトノルニ注意スヘシ

觀測教育
第百十八 觀測教育ハ實包ヲ用ヒ近距離ノ觀測容易ナル地形ニ於テ各種彈著ノ景況ヲ實見セシメ基礎的ニ彈著ノ觀測修正ノ要領ヲ會得セシムルヲ目的トス

本教育ハ主トシテ新任下士及第二年兵ニ對シ行フモノニシテ成ルヘク輕機關銃掛下士及輕機關銃手ニ見學セシムルヲ有利トス

第百十九 觀測教育ヲ行フニハ先ツ良好ナル彈著ノ景況ヲ實見セシメ次テ各種彈著ノ景況ヲ現シ前者ト比較シテ十分之ヲ理解セシムルヲ可トス

第百二十 彈著ノ觀測修正ハ遠近及方向ヲ同時ニ行フモノトス

第百二十一 彈著ノ景況ハ主トシテ地形、土質ニ依リ異ナルモ平坦地ニ在リ於テ良好ナリ

第百二十二 遠近ノ修正ハ照尺又ハ照準點ノ修正ニ依リ、方向ノ修正ハ照準點ノ修正ニ依リテ行フモノトス

遠近百米以内ノ彈著ヲ修正スルニハ通常目標面内ニ於テ照準點ヲ變換シ修正

修正命令
修正補足
射手ノ修
正
飛行機射
法

スルモノトス四百米附近ニ於テ伏姿目標ニ對シ其彈著近ク三十乃至五十米ナ
ル場合ニハ目標ノ半高チ上方ニ修正シ其彈著近ク六十乃至百米ナル場合ニハ
目標ノ全高チ上方ニ修正シ若ハ照尺度チ百米増加シテ照準點ヲ變換セサルチ
可トス又右ノ距離ニ於テ其彈著遠ク五十米以内ニ觀測セル場合ニハ通常修正
ヲ要セサルモノトス
第二百二十三 分隊長照準點ノ修正ヲ命スルニハ彈著ノ景況ヲ以テシ或ハ修
正スヘキ照準點若ハ修正スヘキ量ヲ以テ示ス等各種ノ方法ニ依ルヘシト雖修
正スヘキ量ヲ以テスル方法ハ分隊長ノ指示、射手ノ修正共ニ容易ナルノ利アリ
射手ハ分隊長ノ觀測修正ニ關スル指揮行ハレサル場合ニ於テハ既知ノ照準點
ヲ應用シ或ハ自ラ彈著ヲ觀測シテ修正シ以テ有效ナル射擊ヲ實施シ得ルヲ要
ス特ニ有利ナル目標ヲ發見シタル場合ニ於テ然リトス
第二百二十四 室内教育或ハ射擊豫行演習等ニ於テ各種ノ手段ヲ以テ彈著ノ景
況ヲ現シ觀測修正ニ關スル教育ヲ行ヒ以テ本教育ヲ補足スルヲ可トス
第二百二十五 小銃、輕機關銃ヲ以テスル飛行機射擊ハ通常飛行機ニ至ル直距
離六百米以下ニ於テ行ヒ輕機關銃ニ在リテハ通常數發毎ノ點射ヲ用フルモノ
トス
射擊ハ常ニ三百米ノ照尺ヲ以テ飛行機ノ移動ニ追隨シテ行フモノニシテ其照
準點第十五表ノ如シ

飛行機射
擊ニ於ケ
ル照準點

第十五表

飛行機射擊ニ於ケル照準點

飛行機ニ至ル直距離(米)	照準點
一〇〇以内	飛行機ノ前端
二〇〇乃至四〇〇	眼ニ映スル飛行機ノ長サノ三倍前
五〇〇以上	眼ニ映スル飛行機ノ長サノ六倍前

本射擊法ハ仰角三十度以上ニ於ケル彈道ヲ略、直線ニ近キモノト看做シ射距
離ニ應スル照尺度ハ顧慮スルコトナク常ニ三百米ノ照尺ヲ用ヒ單ニ彈丸ノ經
過時間内ニ飛行機ノ移動スル量ヲ飛行機ノ進路上ニ修正スル如ク定メタルモ
ノナリ之ヲ直距離約六百米ニ於ケル射擊ニ就キテ例示セハ小銃及輕機關銃ノ
彈丸ノ經過時間ハ概ネ一秒ニシテ此間飛行機ハ約五十米移動スルヲ以テ飛行
機ノ長サヲ約八米トスレハ機長ノ約六倍前ヲ照準スルヲ要スルモノトス而シ
テ照準點ヲ各距離毎ニ定メサルハ刻々射距離ヲ變化スル飛行機ニ對シテハ實
用上却テ不便ナルヲ以テナリ又仰角三十度以下ノ飛行機ニ對シテモ距離ニ
於テハ彈道ノ彎曲度小ナルヲ以テ本射擊法ヲ適用シ得ルモノトス (第三十

飛行機ト
距離測
定ノ
演習ノ
實

第二百二十六

飛行機ノ目視ノ景況ニ依ル距離ノ標準概ネ次ノ如シ
一、〇〇〇米 機ノ輪廓ノミヲ認メ得ルモ其各部ヲ識別シ得ス
二、六〇〇米 標識及翼柱ヲ認メ得ルモ其各部ヲ識別シ得ス
三、二〇〇米 搭乗者數ヲ算シ其帽子ヲ識別シ得
四、一〇〇米 飛行機ノ撃ノ演習ハ實彈ヲ以テ實施スルコト困難ナルヲ以テ射撃豫行演習及狭射撃ニ依リ其目的ヲ達成スルヲ要ス

第三十三 逆射

兩膝ヲ少シク曲
クルトキハ追隨
シテ照準スルニ
便ナリ



第三十四 射

仰角小ナル場合ニハ通常臀部
ヲ地面ニ接著ス

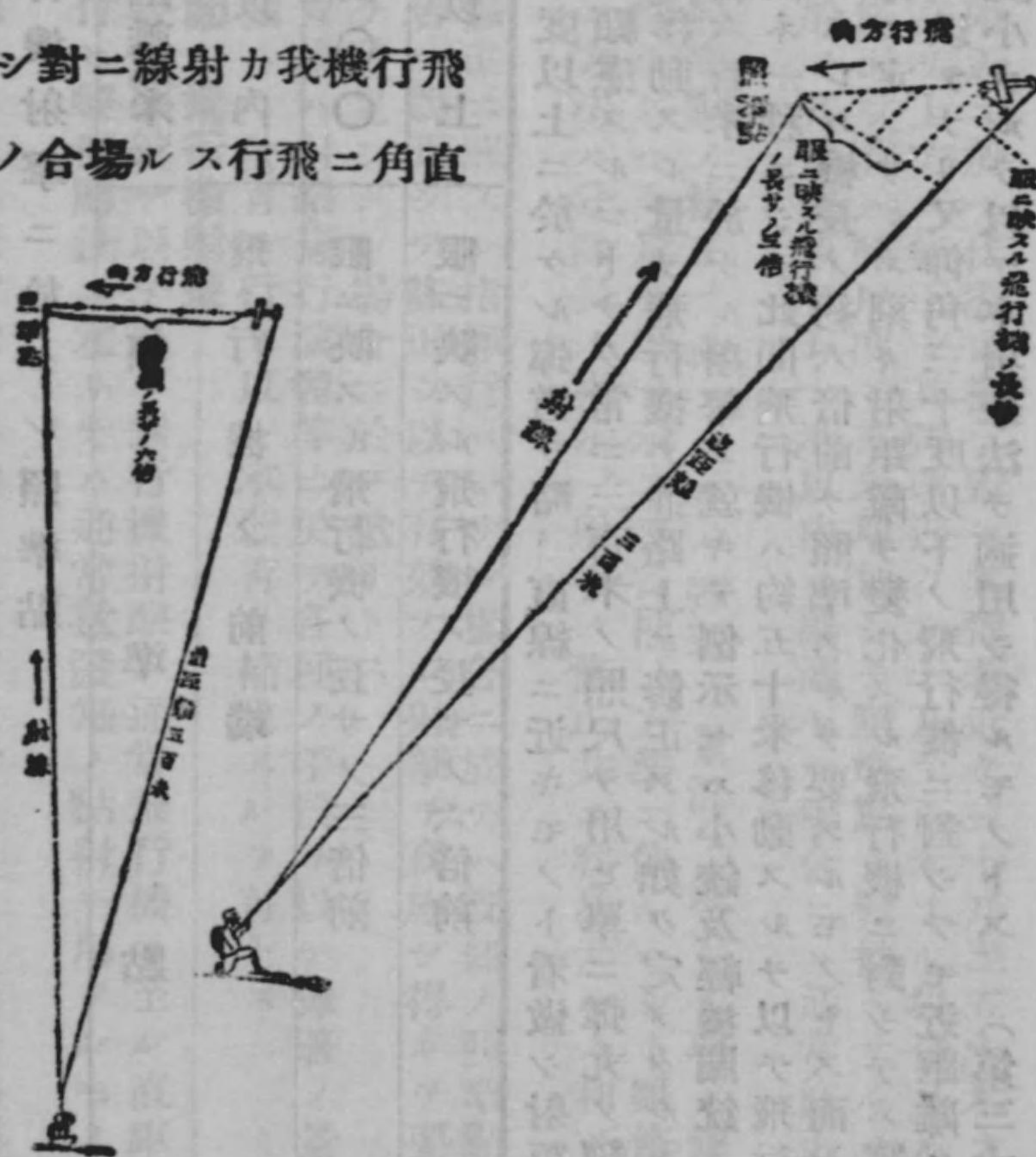


第三十一 圖

例ノ合場ルス進前ヒ向ニ我機行飛
(ス準ニ領要此亦モ合場ルス却退機行飛)

第三十二 圖

略シ對ニ線射カ我機行飛
例ノ合場ルス行飛ニ角直



一、第三十二圖

据銃
輕機關銃

圖六十三第
合場ルナ小角仰



第二百二十八 飛行機射撃ニ於ケル据銃ノ要領ヲ圖示スレハ第三十三乃至第三十七圖ノ如シ
輕機關銃ニ仰角ヲ與フルニハ一名ノ彈藥手其脚桿ヲ保持スルカ又ハ附近ノ地物及所在材料ヲ利用スルモノトス今彈藥手ノ脚桿ヲ保持スル一例ヲ示セハ次ノ如シ

彈藥手
射撃ノ動作ニ迅速適切ニ應ジ得ル爲常ニ射手ノ顔面ニ注目シアルヲ要ス
姿勢ヲ安定ナラシムル爲兩肘ハ十分後方ニ引キ腹部ハ前方ニ張り下腹部ニ力ヲ入ルルヲ可トス又他ノ彈藥手ヲシテ肘或ハ體ヲ保持セシムルトキハ安定一層良好ナリ

射手

反撞ニ對抗スル爲僅ニ腰ヲ引キアルヲ可トス

圖五十三第
射立



腰ヲ前方ニ張ルヲ可トス
目標ニ追隨スルニハ腰ヲ捻ルモノトス

發射方法ヲ演練シ次テ空中ニ於ケル固定若ハ移動スル模型目標及眞目標ニ對シテ行ヒ姿勢及据銃ノ動作ヲモ併セ訓練スルヲ要ス而シテ空中ニ於ケル模型目標ニ對シテ射撃ヲ行フニハ飛行機ノ大サ及其速度ヲ距離ノ比ニ應シ縮小シタルモノヲ設置スルヲ可トス
狹窄射撃ニ依リ飛行機射撃ノ要領ヲ演練スルニハ單ニ地上ヲ移動スル目標ヲ射撃セシムルノミナラス野外ニ於テ高キ位置ニ目標ヲ設置(附圖第十四)シテ之ヲ射撃セシムルヲ可トス

的區分ト目

實施上ノ注意

圖七十三第 合場ルナ大角仰



第二章 戰鬪射擊

第百二十九 戰鬪射擊ヲ分チテ各個戰鬪射擊及部隊戰鬪射擊トス

戰鬪射擊ハ野外ニ於ケル實包射擊ニ依リ射擊術ト戰鬪動作トヲ渾然調和セシムル如ク演練シ以テ射擊教育ノ完成ヲ圖ルモノニシテ各個戰鬪射擊ニ在リテハ射手ヲシテ戰場ニ現出スヘキ目標ニ對スル射擊術ヲ練磨シ部隊戰鬪射擊ニ在リテハ指揮官ヲシテ諸種ノ戰況ニ應ス官ヲシテ諸種ノ戰況ニ應ス

第百三十 戰鬪射擊ハ射擊教育上最重要ナルニ拘ラス之カ實施ニハ諸種ノ制限ヲ受クルモノナルヲ以テ其準備及實施ヲシテ周密適切ナラシム以テ克ク教育ノ目的ヲ達成セシムコトヲ期セサルヘカラス

ル射擊指揮ニ慣熟セシムルト共ニ兵卒ヲシテ克ク實戰的射擊能力ヲ得シムル如ク演練シ且嚴正ナル射擊軍紀ヲ涵養スルヲ緊要トス

服裝

演練事項

實施時機
實施スヘキ者

第百三十一 戰鬪射擊ニ於ケル服裝ハ軍裝ニシテ其負擔量ハ概ネ戰時ニ等シカラシムヘシ

第一節 各個戰鬪射擊

小銃

第百三十二 各個戰鬪射擊ニ於テ演練スヘキ主要ナル事項次ノ如シ

- 一 瞬間現出スル目標ニ對スル射擊
- 二 目視困難ナル目標ニ對スル射擊
- 三 劇動後ノ射擊
- 四 諸種ノ地形、地物ヲ機敏ニ利用シテ行フ射擊

此等ノ事項ヲ如何ナル程度ニ要求スヘキヤハ基本教育ニ於テ射手ノ修得セル射擊技能ニ關スルモノニシテ其要求緩ニ過キテ基本射擊ト選フトコロナキカ如キ或ハ其要求急ニ過キテ射手ノ自信ヲ失ハシムルカ如キハ共ニ適當ナラズルモノトス

第百三十三 各個戰鬪射擊ハ基本射擊ヲ終リタル後實施スル本則トス

第百三十四 各個戰鬪射擊ヲ實施スヘキ者及其實施回数左ノ如シ

現役下士(輕機關銃掛ヲ除ク)

步兵隊第二年兵特別射手

初年兵(步兵隊工卒(修業者ヲ含ム)及專務卒ヲ除ク)

士官候補生

步兵隊初年兵工卒(修業者ヲ含ム)及專務卒

二 回

實施標準

教育召集補充兵
幹部候補生
短期現役兵
【第三十五】 各個戰闘射撃ハ概テ第十六、第十七表ニ據リ實施スヘシ
現役下士(輕機關銃掛ヲ除ク)ニハ適宜ノ方法ヲ以テ各個戰闘射撃ヲ行ヒ其技
能ヲ向上セシムルモノトス
第十六、第十七表

【第十六、十七表ハ末尾步兵隊射撃教育規定附表第三
ノ通り改正ニ付削除ス】

【第三十六】 各個戰闘射撃ニ在リテ各距離ニ應シ選定スヘキ目標ハ該目標ニ
對シ發射彈ノ約半數以上ノ命中ヲ期シ得ヘキモノヲ以テ標準トス三八式歩
銃、四四式(三八式)騎銃ニ就キ此標準ヲ示セハ第十八表ノ如シ
第十八表

距離(米)	約半數以上ノ命中ヲ期シ得ヘキ標準	摘	要
二〇〇	頭首ノミヲ現シタル兵		

監視者

中隊長監視者ノ動作

三〇〇	伏姿兵	
四〇〇	膝姿兵	
五〇〇	立姿兵或ハ密集セル二人膝姿兵	騎銃ニハ適用セス
六〇〇	密集セル二人立姿兵或ハ乘馬兵	同
備考	本表ハ中等射手ヲシテ平靜ナル状態ニテ射撃セシメタル結果トス	

【第三十七】 各個戰闘射撃ハ各射手ニ監視者ヲ附シテ一名ツツ又ハ數名同時
ニ行フモノトス而シテ數名同時ニ行フ場合ニ於テハ各射手ノ命中彈ヲ混同セ
シメサル爲目標ハ少クモ五米ヲ隔テテ各別ニ之ヲ設置スヘシ
監視者ニハ射手ノ技能等ニ精通シアル士官、准士官若ハ下士ヲ充ツルヲ可ト
ス
【第三十八】 中隊長ハ射撃實施ニ關シ全般ヲ統轄スルモノトス
監視者ハ豫メ受クタル指示ト射手ノ技能トニ鑑ミ射手ヲ指導シテ適切ニ射撃
ヲ實施セシメ且射手ノ動作ヲ監視シ危害ノ豫防ニ注意スヘシ

監的勤務
危害豫防
演練事項

實施スヘキ者

監視者ハ各射手ノ射擊終ル毎ニ命中成績ヲ示シ要スレハ之ニ注意ヲ與ヘ其成績及直ニ矯正シ得サル缺點並過失ヲ射擊手簿ニ記入シ教育ノ資料ト爲スヘシ
第三百三十九 監的勤務 危害豫防等ニ關スル諸件ハ部隊戰關射擊ニ準ス
輕機關銃

- 第四百十 各個戰關射擊ニ於テ演練スヘキ主要ナル事項次ノ如シ
 - 一分隊長ノ指示スル目標ヲ迅速ニ發見シ且其指示ニ依リ迅速的確ニ之ヲ照準シ又自ラ照準點ヲ選ビ或ハ修正シ得ルコト
 - 諸種ノ地形、地物ヲ機敏ニ利用シテ行フ射擊
 - 劇動後ノ射擊
 - 瞬間現出スル目標ニ對スル迅速ナル目標變換
 - 目視困難ナル目標ニ對スル射擊
 - 故障ノ排除
- 第四百十一 各個戰關射擊ヲ實施スヘキ者及其實施回数左ノ如シ
 - 現役輕機關銃掛下士 一回
 - 輕機關銃手タル第二年兵 一回
 - 步兵隊第一年度下士候補者 一回
 - 士官候補生 一回
 - 步兵隊幹部候補生 一回
 - 輕機關銃手タル初年兵 一回
- 第四百十二 各個戰關射擊ハ概テ第十九表ニ據リ實施スヘシ 三回

部隊戰關射擊區分

現役輕機關銃掛下士ニハ適宜ノ方法ヲ以テ各個戰關射擊ヲ行ヒ其技能ヲ向上セシムルモノトス

第十九表

第十九表ハ末尾步兵隊射擊教育規定附表第四ノ通り
改正ニ付削除ス

第四百十三 各個戰關射擊ハ射手ニ第一彈藥手ヲ附シテ演練シ分隊長ノ動作ハ監視者之ヲ兼ヌルモノトス

第二節 部隊戰關射擊

要則

第四百十四 部隊戰關射擊ヲ分チテ分隊戰關射擊及小隊戰關射擊トス而シテ小隊戰關射擊ハ步兵隊ニ在リテハ小銃及輕機關銃分隊ヲ以テ、騎兵隊ニ在リテハ通常小銃分隊ノミヲ以テ編成セル小隊ヲ以テ實施スルモノトス

第四百十五 部隊戰關射擊ハ各個戰關射擊ヲ終リタル後實施スルヲ本則トス

第四百十六 步兵隊ノ部隊戰關射擊實施區分ハ第二十表、騎兵隊ノ部隊戰關射擊實施區分ハ第二十一表ノ如シ

第二十表

【第二十表ハ末尾歩兵隊射撃教育規定附表第五ノ通り
改正ニ付削除ス】

【一一〇頁ヨリ一一三頁ニツツク】

第二十一表

騎兵隊部隊戰闘射撃實施區分表

射撃種類	射手種類	實施回数
小銃	初年兵	各人一回 (七分隊)
小銃	第二年兵	各人一回 (六分隊)
輕機關銃	初年兵	各人一回 (十分隊)
輕機關銃	第二年兵	各人一回 (十分隊)
小銃	各人一回	(三小隊)

連合戰闘射撃

第四百十七 歩兵聯隊長ハ重火器ト一般歩兵部隊トノ協同特ニ火力ノ協調ヲ實際的ニ演練スル爲第二十表ニ示スモノノ外適宜一般歩兵部隊ト機關銃又ハ歩兵砲トヲ連合シタル部隊ヲ以テ戰闘射撃ヲ行フコトヲ得
機關銃隊ヲ有スル騎兵聯隊長若ハ騎兵旅團長ハ前項ニ準シ第二十一表ニ示ス

備考	分隊戰闘射撃		小隊戰闘射撃	
	小銃	輕機關銃	小銃	輕機關銃
一 實施回数欄ノ分(小)隊數ハ基準ヲ示ス	初年兵	第二年兵	初年兵	第二年兵
二 輕機關銃ノ分隊戰闘射撃ノ一部ハ小隊ヲ以テ實施スルコト	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)
三 輕機關銃射手ハ一回ノ射撃間適宜交代セシムルモノトス	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)
四 士官候補生ハ幹部候補生ニハ小銃分隊又ハ小隊戰闘射撃ヲ	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)	各人一回 (十分隊)

射擊動作
 射命中
 輕機ノ併
 作セ行フ動
 中隊幹部
 以下出場

統監
 統監以下
 ノ動作

計畫實施

モノノ外適宜一般騎兵部隊ト輕機關銃又ハ機關銃トヲ連合シタル部隊ヲ以テ
 戰團射撃ヲ行フコトヲ得
 第百四十八 分隊戰團射撃ニ在リテハ特ニ射撃動作ノ命中成績ニ及シタル影
 響ヲ綿密ニ調査スルコト必要ナリ
 騎兵隊ノ小銃小隊戰團射撃ニ在リテハ概テ前項ニ準スルモノトス
 第百四十九 輕機關銃ニ在リテハ部隊戰團射撃ノ實施ニ方リ分隊内ニ於ケル
 彈藥ノ遞送、補充ノ動作及缺兵ノ場合ニ於ケル動作ヲ併セ實施スルヲ要ス
 第百五十 部隊戰團射撃ノ實施ニ方リテハ成ルヘク中隊ノ幹部以下ヲ出場セ
 シメテ本射撃ニ依リ獲得スヘキ利益ヲ射撃部隊以外ノ者ニモ經驗セシムル
 ナ可トス
 第百五十一 部隊戰團射撃ハ中隊長之ヲ統監ス但第百四十七ニ據リ實施スル
 戰團射撃ニ在リテハ聯隊長(騎兵隊ニ在リテハ旅團長ヲ含ム)又ハ其指命スル
 將校ヲ以テ統監トス
 第百五十二 統監ハ戰團射撃ノ實施ニ方リ射撃場一般ノ取締ニ任シ通常射場
 掛、監的掛、警戒掛ヲ任命シテ諸勤務ニ服セシメ又所要ノ補助官ヲ使用シテ
 指揮官以下ノ動作及其他射撃ノ效果等ヲ秤量セシム
 射場掛ハ射場並通信連絡ノ設備ニ任シ且彈藥ヲ準備シ警戒掛ハ警戒配置及之
 カ監視ニ任シ監的係ハ監的勤務者ヲ指揮シテ標的ノ設置、運轉並成績調査等
 ナ正確ニ履行セシムルモノトス
 第百五十三 戰團射撃ニ用フル計畫、實施表ノ一例第二十二乃至第二十五表

演練事項
 一三二、一五
 成績判斷

命效力
 表ニ依ル
 審查

ノ如ク又彈痕圖、各種標的及射撃用具ノ 例附圖第十五乃至第二十七及附圖
 第三十三ノ如シ

分隊戰團射撃

第百五十四 分隊戰團射撃ハ簡單ナル狀況ノ下ニ火戰ノ某時期ヲ捉ヘ特ニ射
 撃ニ關スル事項ヲ綿密ニ演練スルモノニシテ小銃ニ在リテハ主トシテ部隊内
 ニ於ケル兵卒ノ射撃軍紀及射撃動作ヲ演練シ併セテ分隊長ノ射撃指揮ヲ訓練
 シ輕機關銃ニ在リテハ主トシテ分隊長ノ彈著ノ觀測修正及之ニ伴フ射手ノ動
 作ヲ演練シ且分隊長以下ノ協同動作ヲ基礎的ニ訓練スルヲ要ス
 第百五十五 射撃成績ハ分隊長以下ノ動作ト彈著ノ景況又ハ命中彈痕ノ狀態
 トヲ對照シテ其可否ヲ判斷スヘキモノニシテ命中效力表(第二十六、第二十
 七表)ヲ使用スヘキヤ否ヤハ主トシテ達成セントスル目的ニ依ルモノトス
 狀況ニ依リ標的線及其前後左右ニ幕布(附圖第二十三)ヲ張りテ標的外ノ彈
 痕ヲ收容シ之ニ依リ射撃成績ノ判斷ヲシテ一層的確ナラシムルヲ要スルコト
 アリ然レトモ幕布ハ其設置法適當ナラサルトキハ却テ敵線ヲ暴露シ又ハ兵卒
 ナシテ目標ト誤認セシムルコトアルヲ以テ注意スヘシ
 第百五十六 命中效力表ヲ用ヒテ射撃成績ヲ審查セントスル場合ニ於テハ射
 撃動作ノ可否ヲ秤量スルニ足ル命中彈(設置標的數少キトキハ其二分ノ一、
 多キトキハ其三分ノ一以上ノ數)ヲ得ル如ク使用彈數、射距離及目標ノ種類
 等ヲ決定スルヲ要ス

小隊戰團射撃

第二十二表

ヌルモノトス

於年月日

隊戰射擊計畫表(第一回)

主任者

戰況及演習上ノ規定	演習ノ構成	隊號	小隊長	區分						演習部隊ノ集合
				分隊數						
				1	2	3	4	5	6	
				携帶	兵卒	分隊長			時刻	
				豫定發射彈	彈	卒			場所	
									隊形	

射擊場設備要圖

注意
要圖ニハ各目標ノ位置、番號、種類及員數、豫定射擊位置、距離、射擊順次等ノ外通信回線(電話×機、信號機ノ受話器①)、監視的壕記號手ノ演習部隊ノ集合地等ヲ記入ス

演練事項
三、一、四

實際的

第五百五十七 小隊戰射擊ハ實戰的環境ニ於テ特ニ小隊長ノ射擊ノ統轄、分隊長ノ射擊指揮及分隊相互ノ協同ヲ演練スルモノトス
兵卒ノ劇動ヲ伴フ困難ナル射擊動作ハ小隊戰射擊ノ一ノ特徴ナルヲ以テ幹部ハ之カ演練ニ著意スルコト肝要ナリ

實施要領

第五百五十八 小隊戰射擊ハ小隊長以下ヲシテ實戰的動作ニ慣熟セシムル爲メ演習ノ構成就中目標目視ノ景況及其配置、狀況ノ現示並戰闘ノ經過ヲ實際的ナラシムルコト緊要ナリ

實施要領

第五百五十九 小隊戰射擊ニ在リテハ特ニ小隊長ノ射擊ニ關スル統轄、分隊長ノ指揮及兵卒ノ動作ヲ彈著ノ景況及命中彈痕ノ狀態ニ對照シテ系統的ニ調査シ其適否ヲ判斷シ我カ火力ノ效果ト戰闘動作トヲ比較考究スルヲ要ス之カ爲メ講評ハ爲シ得レハ指揮官及兵卒ニ標的ノ彈痕狀態ト地形トヲ目視セシメツ

步兵初年

小隊戰射擊ニ在リテハ命中成績ニ依リ各分隊及兵卒個人ノ動作ノ適否ヲ明ニスルコト困難ナルヲ通常トシ動モスレハ兵卒ハ亂射ヲ爲スニ至ル虞アルヲ以テ各補助官ハ特ニ兵卒ノ射擊軍紀ヲ嚴重ニ監視スルヲ要ス而シテ要スレハ標的ノ附近ニ一部ノ幕布ヲ設置シ分隊長ノ指揮及兵卒ノ射擊ノ可否ヲ判斷スルヲ有利トス

步兵初年

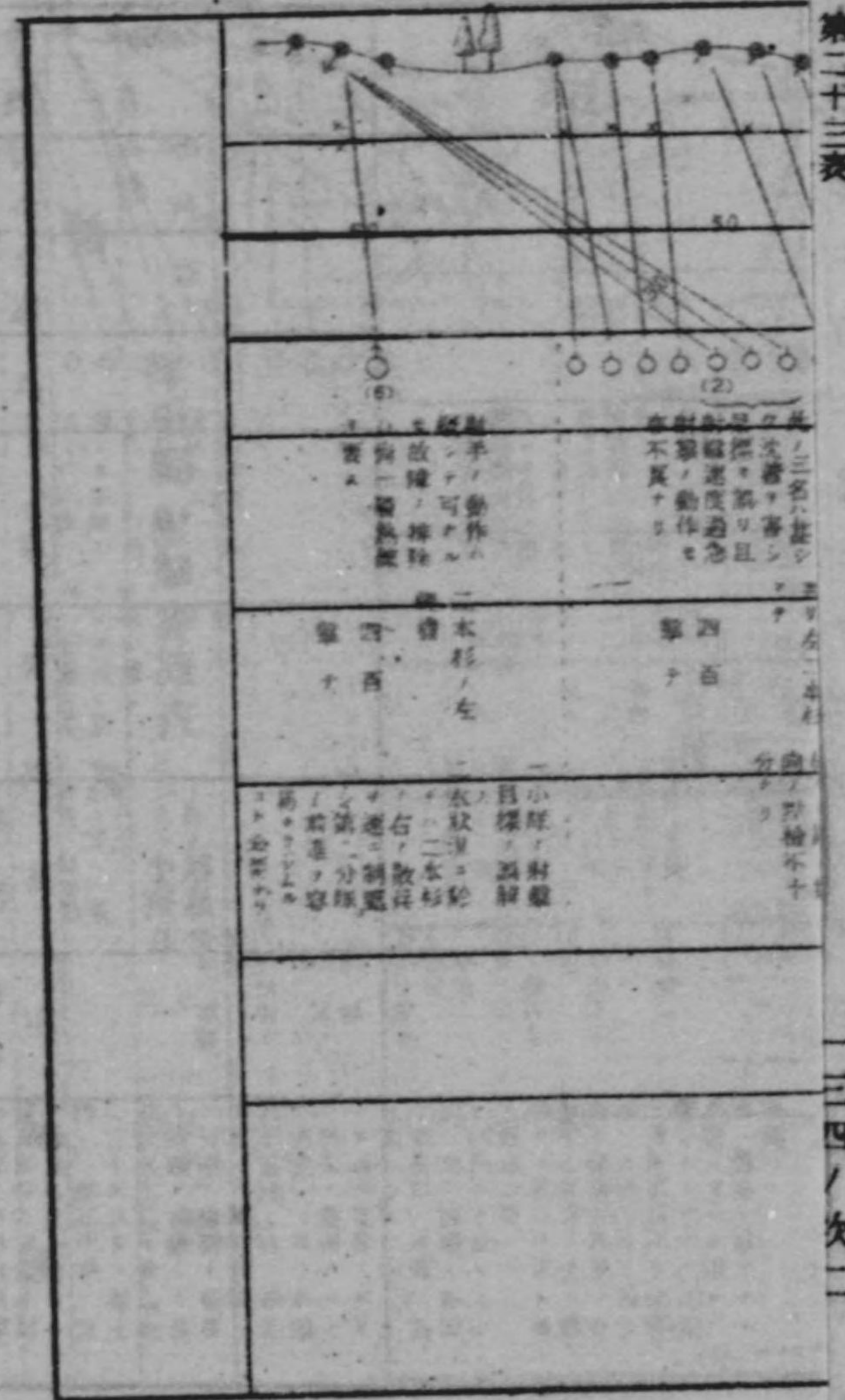
統一分隊ト以テ小隊ニ編成シ主トシテ彈著ヲ觀測シツツ行フ兩種分隊ノ火力及運動ノ協調ヲ基礎的ニ演練スルモノトス而シテ小隊長ハ通常統轄之ヲ兼

步兵初年

力及運動ノ協調ヲ基礎的ニ演練スルモノトス而シテ小隊長ハ通常統轄之ヲ兼

第二次	第一次	第一次	第一次	順次
				豫想戰圖經過
				目標
				發時實彈及發射ノ
				主要著眼事項

區分	階級	勤務人員	補助官	射場設備	場通	掛場	的的的的	的的的的	的的的的	的的的的	警戒掛	監視的壕設備	符號的收容員	又新設、改既造設



第二十三表
 以テ表ハスモノニシテ射距離ノ大ナルモノニシテ
 命中効力ハ命中公算目録ニ依リテ算出スルモノトシテ
 一三四ノ次ニ

第二十三表

一三四ノ次二

昭和三年 月 日		小銃分隊戰闘射擊實施表		補助官 某	中尉外四名
目標及彈	命中成績	兵	卒	分隊長 某	軍曹
著ノ景況	命中彈發射彈銃指向射擊動作	號令	動作	小隊長	摘要
<p>注意 本表ハ各補助官ノモリニシテ訓練スルモノトス</p>					

第二十四表

昭和三年 月 日		輕機關銃分隊戰闘射擊實施表		補助官 某	中尉外一名
目標及彈	命中成績	兵	卒	分隊長 某	軍曹
著ノ景況	命中彈發射彈銃指向射擊動作	號令	動作	小隊長	摘要

第二十五表

昭和三年 月 日		小隊戰闘射擊實施表		補助官 某	中尉外六名
目標	命中成績	兵	卒	分隊長 某	軍曹
景況	命中彈發射彈銃指向射擊動作	號令	動作	小隊長	摘要

昭和三年 月 日		小隊戰闘射擊實施表		補助官 某	中尉外六名
目標	命中成績	兵	卒	分隊長 某	軍曹
景況	命中彈發射彈銃指向射擊動作	號令	動作	小隊長	摘要

命中公算 第六十一 射擊效力
 以テ表ハスモノニシテ射距離ノ大小及目標ノ状態等ニ依リ増減スルコト左ノ如シ

一 命中效力ハ射距離ノ増大スルニ從ヒ漸次減少ス

二 同一射距離ニ在ル目標ニ對スル命中效力ハ目標ノ幅員、疎密及明暗等ニ關係シ目標附近ノ地形、天候及氣象等モ亦影響ヲ及スモノトス

其他射手ノ伎倆、部隊ノ状態、發射彈數特ニ射擊指揮ノ適否モ亦射擊效力ニ影響ヲ及スモノトス

第六十二 平時ニ於ケル小銃部隊射擊ノ命中效力ヲ示セハ第二十六表、輕機關銃射擊ノ半數必中界及命中效力ヲ示セハ第二十七表ノ如シ

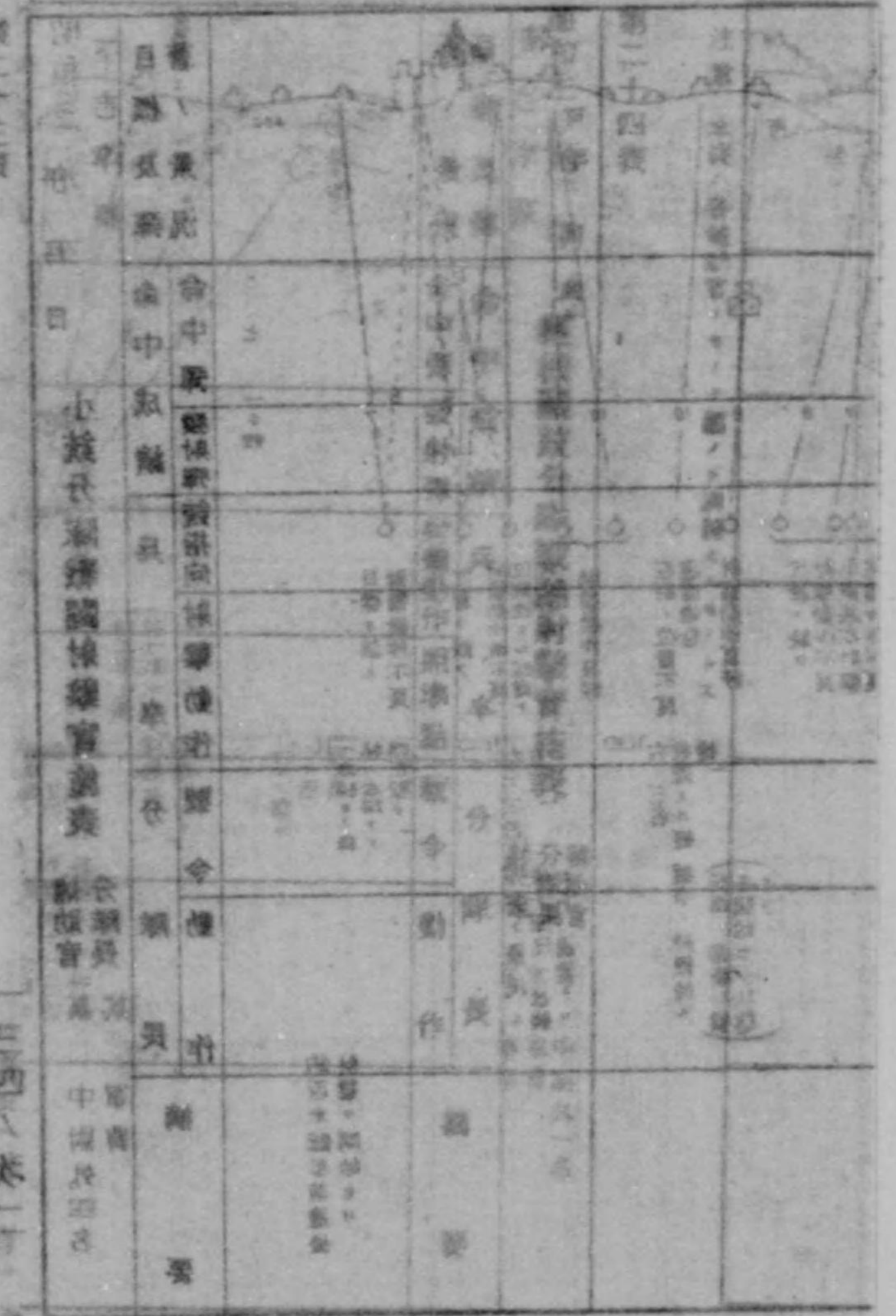
戰時ニ在リテハ精神上ノ影響ヲ受ケ著シク被彈面ヲ擴大シ命中效力ヲ減少スルモノナリ殊ニ臂上射擊ヲ主トスル小銃ニ於テ然リトス

某高サ(幅)ノ目標ニ對スル命中百分數ハ其目標ノ高サ(幅)ト半數必中界トノ比即チ公算因數ヲ求メ附表第八ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得

第六十三 命中效力ハ平均彈著點ト目標トノ關係位置ニ依リ變化スルモノナリ若距離ノ測定ヲ誤リ或ハ氣温及氣壓等ノ影響(第二表參照)ヲ受ケ爲ニ平均彈著點正シク目標ノ下際ニ指向セラレサルトキハ效力上第二十八表ノ如キ變化ヲ生スルモノトス

第六十四 箇々ノ目標ニ對シ射擊スルトキ横風等ノ影響(第一表參照)ヲ

第一次



第二十三表

表一

考 備	距離 (米)						
	1.000	900	800	700	600	550	500
一 本表ハ部隊射撃半數必中界(第六表)ヲ基礎トシテ算出セルモノナリ 二 平均彈著點目標ノ中央下際ニ適中シタル場合ノ命中百分數ヲ示ス 三 一米以上ノ軸心間隔ヲ有スル散兵ニ對シ射彈平等ニ散布シタル場合ノ效力ハ其間隔ヲ以テ軸心間隔一米ノ場合ノ效力ヲ除シタル數トス	3.8	4.6	5.4	6.6	8.6	10.1	12.0
	2.9	3.7	4.7	6.0	8.2	9.8	11.7
	1.3	1.7	2.1	2.8	4.2	5.3	6.7
	0.9	1.0	1.2	1.7	2.6	3.3	4.2
	11.7	12.7	13.6	14.4	15.0	15.5	16.0
	9.1	10.2	11.4	12.8	14.2	15.0	15.7
	4.1	4.7	5.3	6.3	7.3	8.0	8.8
	2.5	2.9	3.4	3.9	4.6	5.1	5.6
	5.6	7.2	9.1	12.1	15.9	18.3	21.2
	2.5	3.3	4.3	5.9	8.1	9.6	11.8

距離 (米)	標目 種類	
	立	散
450	14.4	17.2
400	14.1	16.9
350	8.3	10.2
300	5.3	6.7
兵	16.5	17.0
	16.4	16.7
	9.7	10.6
	6.3	7.0
輕機關銃	24.3	27.6
	14.2	17.1

第二十六表 其一

三八式歩兵銃部隊射撃命中效力表

(%)

ト横風 受ケ平均彈著點ヲ側方ニ偏移セル場合ニ於ケル命中效力ノ減耗第二十九表ノ如シ

考 備	1.000	900	800	700	600	550
一 本表ハ部隊射撃ニ數必中界(第六表)ヲ基礎トシテ算出セルモノナリ	2.0	2.6	3.4	4.4	5.7	6.6
二 平均彈著點目標ノ中央下際ニ適中シタル場合ノ命中百分數ヲ示ス	1.5	1.9	2.4	3.2	4.5	5.5
三 一米以上ノ軸心間隔ヲ有スル散兵ニ對シ射彈平等ニ散布シタル場合ノ效力ハ其間隔ヲ以テ軸心間隔一米ノ場合ノ效力ヲ除シタル數トス	0.7	0.9	1.2	1.6	2.1	2.7
	0.4	0.5	0.7	0.9	1.2	1.6
	9.1	10.1	11.3	12.4	13.6	14.1
	6.6	7.5	8.6	9.9	11.2	12.1
	2.9	3.3	3.9	4.5	5.3	5.9
	1.8	2.0	2.3	2.7	3.3	3.6
	13.5	14.6	15.7	16.6	17.4	17.8
	2.9	3.8	5.0	6.7	9.3	11.0
	1.3	1.7	2.3	3.1	4.3	5.3

距離 (米)					標目		種類
500	450	400	350	300	立	膝	
7.9	9.7	11.9	14.5	17.5	立	膝	射場筒々ノ目標ニ集合セ
7.0	8.9	11.1	13.7	16.8	膝	伏	
3.4	4.2	5.2	6.9	9.2	伏	頭	
2.0	2.5	3.2	4.4	5.9	頭		
14.6	15.1	15.6	16.1	16.5	立	膝	合ニ對シ平等ニ散布セル場
13.0	14.0	14.6	15.2	15.8	膝	伏	
6.5	7.3	8.1	9.2	10.3	伏	頭	
4.0	4.4	5.1	5.9	6.8	頭		
17.9							騎(正面) 騎(七面) 騎(七面)
13.0	15.7	18.5	22.5	26.6	膝	伏	機 輕 機 關 銃 銃
6.5	8.0	9.9	12.7	16.3	伏		(附圖第二十)

第二十六表 其二

四四式(三八式)騎銃部隊射命中效力表

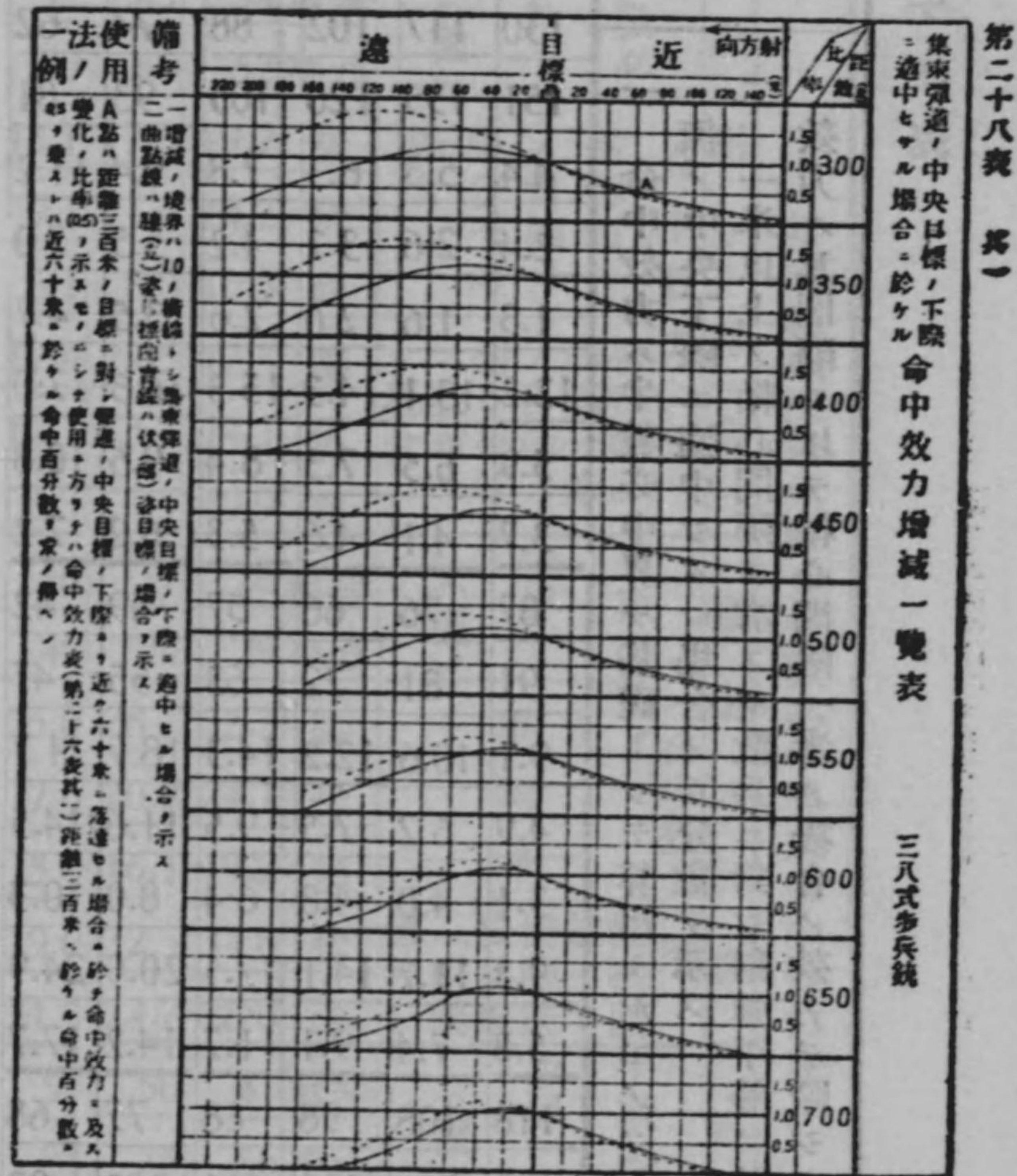
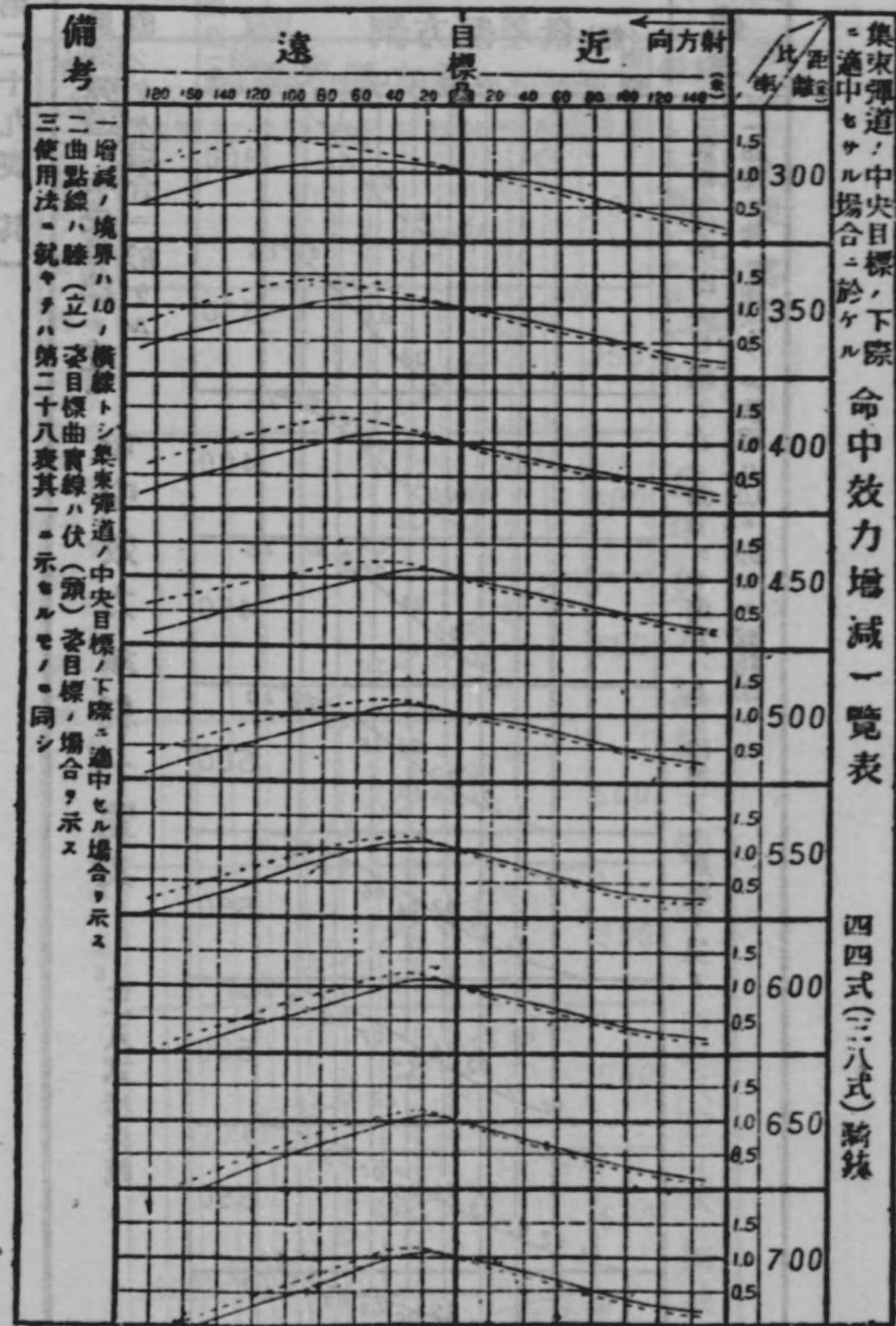
(%)

考 備	600	550	500	450	400	350
一 命中效力ハ半數必中界ヲ基礎トシテ算出セルモノニシテ平均彈著點目	130	117	102	88	74	62
二 標ノ中央下際ニ適中シタル場合ノ百分數ヲ示ス	151	135	120	105	93	81
效力ハ其間隔ヲ以テ軸心間隔一米ノ場合ノ效力ヲ除シタル數トス	4.4	5.3	6.3	7.8	9.4	11.2
	2.4	2.6	3.2	4.2	5.5	7.0
	1.3	1.6	2.0	2.6	3.5	4.7
	12.2	13.1	14.3	15.3	16.3	17.0
	5.9	6.5	7.3	8.4	9.5	10.8
	3.7	4.1	4.6	5.3	6.2	7.2
	87	76	66	57	49	42
	91	81	72	63	55	47
	9.1	10.6	12.2	14.3	18.7	21.7
	4.9	6.2	7.5	9.5	11.6	14.5
	3.1	4.0	4.8	6.4	8.0	10.3
	9.3	11.7	14.1	17.5	20.9	24.9
	5.8	7.4	9.1	11.7	14.2	17.7
	118	108	98	88	77	68
	139	130	120	111	102	92
	5.1	5.7	6.4	7.4	8.4	9.6
	2.5	3.0	3.4	4.0	4.8	5.8
	1.5	1.8	2.1	2.5	3.0	3.8
	9.8	11.1	12.8	14.2	16.1	18.6
	4.9	5.6	6.7	7.7	9.3	11.2

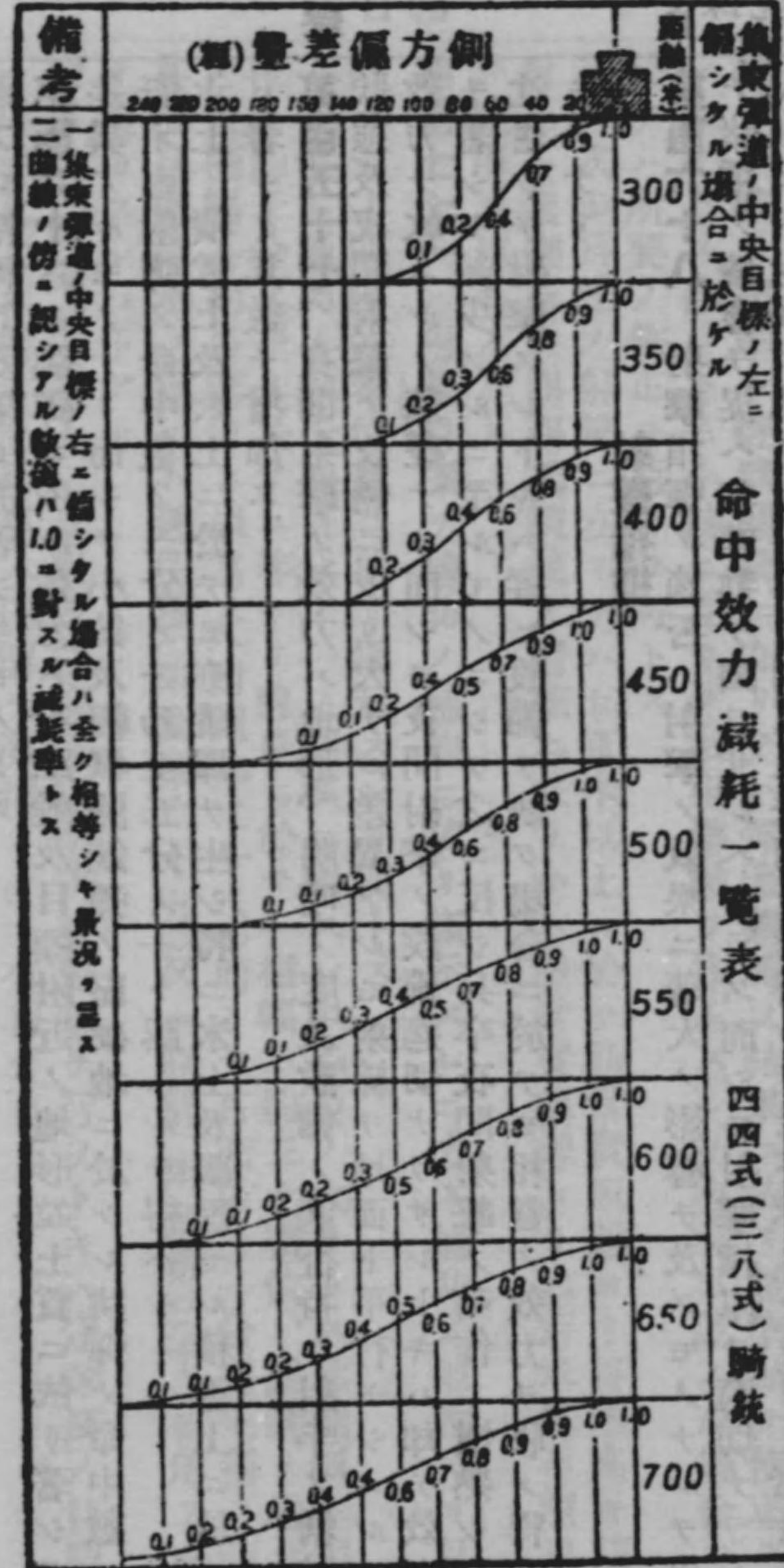
第二十七表

300	250	200	(米) 離 距		點 射	命 中 効 力 移 動 (%)
52	43	34	直垂	中界		
70	60	52	平水	中界	半數必	
13.1	17.5	19.7	膝	場 集 射 射 命	中 効 力	射 移 動 (%)
9.1	11.6	14.2	伏	合 合 セ ル 二 々		
6.1	8.0	10.5	頭			射 移 動 (%)
17.4	17.5	17.5	膝	ルニ對ノ間射	効 力	
12.1	13.2	14.3	伏	場散シ目隔彈	効 力	射 移 動 (%)
8.3	9.5	10.9	頭	合布平標一軸		
36	31	26	直垂	中界	半數必	點 射
40	34	29	平水	中界	半數必	
25.0	28.7	32.3	膝	單 獨 兵	命 中 効 力 (%)	射 反 復 (%)
17.6	20.9	24.1	伏			
13.0	16.1	19.2	頭			射 反 復 (%)
29.0	32.3	34.8	伏	第(步機銃輕	効 力	
21.5	24.7	28.0	頭	三)附兵關銃		射 反 復 (%)
59	50	41	直垂	中界	半數必	
84	75	66	平水	中界	半數必	點 射
11.0	14.0	16.0	膝	單 獨 兵	命 中 効 力 (%)	
7.0	8.6	10.8	伏			射 反 復 (%)
4.7	5.8	7.7	頭			
20.6	26.5	29.3	膝	第(步機銃輕	効 力	射 反 復 (%)
13.4	16.4	19.8	伏	三)附兵關銃		

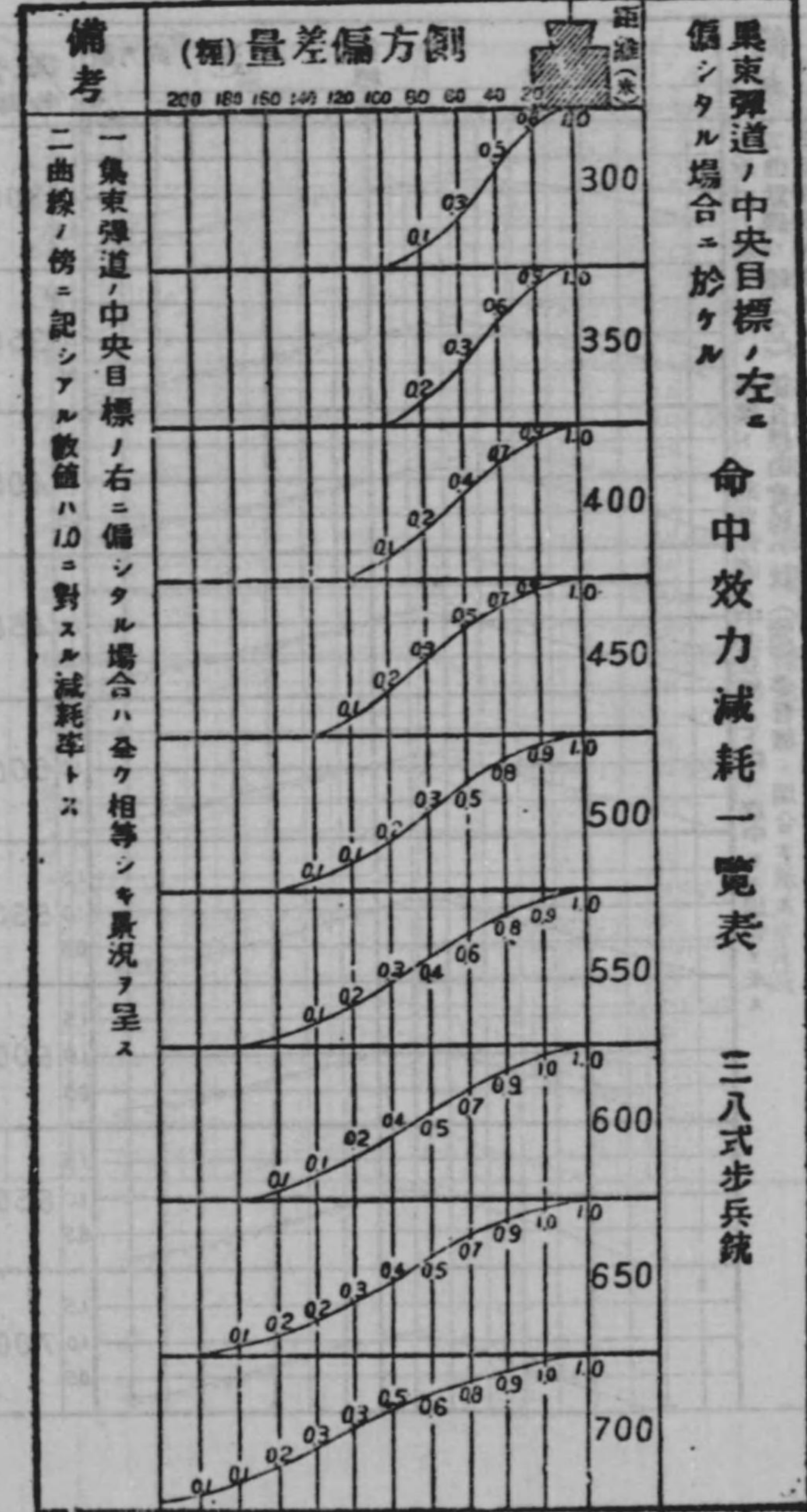
十一年式輕機關銃射擊ノ半數必中界及命中效力表



第二十九表 其二



第二十九表 其一



斜射、測
跳射、測
夜間射撃
ノ効力

指揮ノ良
否 歩操
三七—三九
三六—三八
三六—三九
精熟法

第六十五 斜射、側射ハ正面射ニ比シ其命中効力著大ナルノミナラス敵ニ與フル精神の效果モ亦著シキモノトス

第六十六 跳射ニ依ル効力ハ射距離及目標附近ノ地形並土質ニ依リ著シク差異アルモノナリ而シテ小銃及輕機關銃彈ノ堅硬地ニ於ケル跳射ノ命中數ハ概ネ直射彈ノ命中數ノ三分ノ一乃至五分ノ一ト認ムルヲ得ヘシ

水上、積雪上及氷上ニ於テモ亦跳射ヲ生シ特ニ氷上及凝固セル積雪上ニ於テハ著シク其數ヲ増加ス

第五十七 夜間射撃ノ効力ハ地形、明暗ノ度及設備ノ適否特ニ射手ノ精神狀態及夜間射撃ノ伎倆ニ依リ大ナル差異アルモ射線ヲ地面ト平行セシムルハ効力ヲ收ムルノ基礎ナリ而シテ夜間射撃ノ設備適切ナラサルトキハ却テ効力ヲ著シク減少スルニ至ルモノニシテ之ニ反シ兵卒夜間射撃ノ動作ニ慣熟シ且沈著シテ射撃スルトキハ縦ヒ設備ヲ缺ク場合ニ於テモ相當ノ効力ヲ收メ得ルモノナリ

射撃指揮

第六十八 射撃指揮ノ適否ハ射撃ノ效果ニ著大ノ影響ヲ及スモノナルヲ以テ諸種ノ機會ヲ捉ヘ其精熟ヲ圖ラサルヘカラス而シテ射撃指揮ヲ適切ナラシムルニハ射撃ニ關スル操典ノ制式及法則ヲ理解シ且以下示ストコロノ諸件ヲ知悉スルコト緊要ナリ

第六十九 射撃指揮ニ精熟セシムルニハ目標ノ指示、彈著ノ觀測修正及距離ノ測定ニ就キ其伎倆ヲ練磨スルヲ要ス

射撃ノ修
正

補助地物
ニ依ル目
標指示

彈著觀測

第七十 射撃ニ方リテハ銃ノ固有癖及射撃當時ニ於ケル天候、氣象並照尺距離ト目標距離トノ差ヲ顧慮シテ所要ノ修正ヲ爲シ照準點ニ選定スルヲ理想トスルモ戰場ニ於テ各種ノ條件ヲ彼此較量シテ至當ノ照準點ヲ求ムルハ至難トスルトコロナルヲ以テ小銃ニ在リテハ通常照準點ノ修正ヲ行フコトナク目標ノ下際ヲ照準シ輕機關銃ニ在リテハ彈著觀測ノ結果ニ依リ照準點ヲ修正スルモノトス然レトモ小銃ニ在リテモ照準點ヲ修正スルヲ有利ト認ムル場合ニ於テハ所要ノ修正ヲ行フ可トス

三八式歩兵銃ノ射撃ニ在リテハ五百米以上ニ於テ通常實距離ヨリ百米高キ照尺ヲ起劍セル四式騎銃ノ射撃ニ在リテハ通常實距離ヨリ二百米高キ照尺ヲ採用スルモノトス

第七十一 射撃目標ヲ補助ノ地物ニ依リ指示スルニ方リ補助ノ地物ヨリ目標マテノ間隔ハ密位量ニ依リ指示スルヲ便トス

密位ハ圓周ノ六千四百分ノ一ノ圓弧ニ對スル中心角ノ大サトス此圓弧ハ半徑ノ約千分ノ一ノ長サニ等シク腕長ニ於テ一指幅ハ約三十密位、據銃ノ場合ノ遊標幅ハ約百密位ニ相當ス(附圖第二十八)而シテ百密位ヲ一分畫ト稱ス其他目標指示ノ爲ニハ透明板(附圖第二十九)又ハ時計(附圖第三十)ヲ用フルヲ便トスルコトアリ

繪畫的(附圖第三十一)ニ對シ分隊ヲ以テ狹窄射撃ヲ行フトキハ分隊長ノ目標ノ指示及之ニ對スル兵卒ノ理解ヲ演練スルニ有利ナリ

第七十二 射撃效果ヲ觀察スルニハ目標ノ前後ニ於ケル彈著ノ多寡ニ注意

演練

スルコト緊要ナリ而シテ彈著觀測ノ難易ハ主トシテ目標所在地ノ地形及土質ニ關スルモノトス
 小銃射擊ニ於テ彈著ヲ觀測スルニハ射擊區域ノ全部ニ互リ目標ヨリ近方位ノ地域ヲ稍、永ク注視スルヲ可トス
 低キ目標ニ對シテハ全彈著ノ約二分の一、高キ目標ニ對シテハ約三分の一ヲ目標ノ直前ニ認ムルヲ以テ學理上良好ナル景況トスルモ實際小銃ノ彈著ヲ觀測スルニ方リテハ其多クノ射彈目標ニ近ク其前方ニ落達シ時々遠彈ヲ發見シ得ルヲ以テ良好ナル射擊ノ狀態ト認ムルコトヲ得蓋シ近彈ハ一般ニ觀測容易ニシテ顯著ニ觀測者ノ眼ニ映スルニ反シ遠彈ハ常ニ彈著ノ觀測困難ニシテ時トシテ全然觀測シ得サルコトアルヲ以テナリ
 目標ノ前後ニ凹地アル場合或ハ雨天、雨後等ニシテ土地濕氣ヲ含ミ又ハ積雲深キトキ、草深キ土地ニ於テハ一般ニ彈著ノ觀測困難ニシテ遠、近彈共ニ其彈著ヲ發見シ得サルコトアルヲ以テ此場合ト彈著遠キ爲近彈ヲ發見シ得サル場合トテ混同セサルヲ要ス
 輕機關銃射擊ニ於ケル彈著ノ觀測ニ就キテハ觀測教育ニ就キ示セルトコロニ據ルヘシ
 第三百七十三 射擊指揮ヲ演練スルニハ時々射擊ニ關スル現地教育等ヲ行ヒ死角ノ探究、超過及間隙射擊ノ限界ノ判定、射擊位置ノ選定、目標ノ指示、補助照準點ニ依ル射擊、機關銃、步兵砲トノ火力ノ協調及射擊圖ノ調製等特ニ射擊指揮ニ必要ナル各種ノ事項ニ就キ實際ニ適應スル如ク教育スルコト肝要ナリ

目的 及方 法	成績 登記	目的 及方 法	目的 及方 法	目的 及方 法
第三百七十四 特別射擊 ハ幹部及兵卒ノ射擊技能ヲ益、練磨向上シ或ハ基本射擊ノ成績ノ良ナル兵卒ノ缺點ヲ矯正シ以テ射擊教育ノ進歩ヲ達スル爲行フモノニシテ前者ニ在リテハ聯隊、大隊及中隊ニ於テ基本射擊又ハ戰團射擊ノ方法ニ準シ後者ニ在リテハ中隊ニ於テ基本射擊ニ準シ行フモノトス	第三章 特別射擊 第四百章 檢閱射擊	第三百七十五 特別射擊ノ成績ハ射擊手簿ニ登記スヘキモノトス	第三百七十六 檢閱射擊ハ步兵隊ニ於テ中隊射擊教育ノ程度ヲ檢閱スル爲大隊長之ヲ行フモノニシテ初年兵ニ對シテハ分隊戰團射擊ヲ以テ、第二年兵ニ對シテハ小隊戰團射擊ヲ以テ各年次兵毎ニ射擊教育ノ大部ヲ終リタル後ニ於テ行フモノトス	第三百七十七 步兵聯隊長ハ必要ニ應シ自ラ第三百七十六ノ檢閱射擊ノ一部ヲ行ヒ又ハ一般步兵部隊ト機關銃若ハ步兵砲トヲ連合シタル戰團射擊ヲ以テ檢閱射擊ヲ實施スルモノトス
第三百七十八 實驗射擊ハ研究又ハ射擊智識増進ノ爲聯隊若ハ大隊ニ於テ實施スルモノニシテ其實驗事項ヲ例示セハ次ノ如シ	第五章 實驗射擊			

一 夜間、濃霧又ハ煙幕内ノ射撃
 二 超過、間隙射撃
 三 補助照準點ニ依ル射撃
 四 風船、風等ニ對スル飛行機射撃ノ要領
 五 遠距離射撃
 六 交換射撃
 七 侵徹ニ關スル實驗
 八 砂地ヲ利用シテ射撃散布ノ状態ヲ檢知スル射撃
 九 動體(艇舟、自動車等)ヨリスル射撃
 十 乘馬、起劍射撃
 十一 小銃、輕機關銃ノ超過、間隙射撃ヲ實驗スルニハ第二十二、第二十三ニ示ス
 十二 限界ノ半量ヲ通シテ射撃スルモ尙安全ナルコトヲ證明シ得ル如ク設備スルヲ可トス
 十三 砂地ハ每發ノ彈痕ヲ砂上ニ印スルヲ以テ其彈痕ニ小旗ヲ植テ被彈地ノ縱長又ハ某地物ニ對スル遮蔽界等ヲ表示スルトキハ敵火ノ下ニ於ケル隊形ノ選擇、地物ノ利用等ヲ具體的ニ理解セシムルコトヲ得
 十四 交換射撃ハ二箇ノ實部隊ヲ併立シテ兩者ニ相當スル目標ヲ實員部隊ニ相對抗スル如ク植テ各、其目標ニ對シ射撃ヲ爲サシメ射撃ノ命中セル標的ヲ以テ死傷者ト爲シ實員部隊ノ之ニ相當スルモノヲ逐次列外トシ以テ異種兵器ノ威力ヲ比較シテ射撃研究ノ資料ト爲シ或ハ兩部隊ノ競争心ヲ喚起セシメ興味ノ

間ニ實戰的射撃技能ヲ養成シ得ルモノトス
 第六章 距離測量
 第七十九 迅速且正確ナル距離ノ測定ハ射撃效力ヲ發揚スルノ基礎ナリ故ニ兵卒殊ニ幹部ハ絶エス演練ヲ重ネテ之ニ熟達セサルヘカラス
 第八十 距離ハ主トシテ目測ニ依リ時トシテ地圖、器械及步測等ニ依リ測定スルモノトス
 第八十一 距離測量ハ各種ノ地形、天候及姿勢ニ於テ諸種ノ目標ニ對シ練習セシムルヲ要ス尙夜暗、薄明及照明下ニ於ケル演練モ亦必要ナリ
 第八十二 兵卒ハ通常近距離(六百米以内)ヲ目測シ得ルヲ以テ足レリトス然レトモ特別射撃及技能之ニ適スル者ニ在リテハ特ニ中距離(六百乃至千米)ノ目測ヲ練習セシムルヲ可トス
 第八十三 幹部ハ一般ニ近距離、中距離ノ目測ニ熟練シ尙遠距離(千米以上)ヲ目測シ得ルノミナラス器械ヲ使用シテ迅速且正確ニ距離ヲ測定スルコトニ慣熟スルヲ要ス
 第八十四 距離測量ヲ演練スル爲射撃場、練兵場及屯營附近ニ於テ諸種ノ地點ニ目標ヲ設置シ或ハ適當ノ地物ヲ目標ト爲シ豫メ其距離ヲ測定シテ各目標及距離並此等相互ノ間隔(密位置ヲ併記ス)ヲ要圖又ハ寫景圖ニ調製シ置クヲ便トス
 第八十五 目測ハ地上ノ長サト目標ノ見エ方トニ依リテ距離ヲ判知スルモノニシテ概ネ左ノ方法ニ依ル

誤差ノ原因

一 數回ノ演習ニ依リ記憶シタル地上ノ距離或ハ目前ノ某既知距離ヲ以テ測量スヘキ距離ニ比較シテ測定スルカ或ハ測量スヘキ距離ノ中央ニ一點ヲ定メ此點ニ至ル距離ヲ目測シ之ヲ二倍シテ測定距離ト爲ス

二 一定ノ距離ニ在ル目標ノ明暗、大小ヲ記憶シ以テ測量スヘキ距離ニ在ル目標ニ之ヲ比較シ距離ヲ判知ス

第一ノ方法ハ中間ノ土地ヲ通視シ得ルトキニアラサレハ適用シ得サルモ比較的正確ニ測定スルヲ得ヘク之ニ反シ第二ノ方法ハ何レノ場合ニモ適用シ得ヘシト雖其結果稍不正確ナルヲ免レス蓋シ同一ノ距離ニ在ル同一ノ物體モ諸種ノ原因ニ因リ見エ方ヲ異ニスレハナリ故ニ以上ノ諸法ヲ巧ニ應用スルトキハ迅速且正確ニ距離ヲ判知シ得ヘシ

雙眼鏡ヲ使用スルトキハ目標ニ至ル間ノ地形ノ觀察ヲ容易ナラシメ得ルヲ以テ目測ノ補助トシテ大ナル利益アルモノトス

第八十五 土地ノ形狀、目標ノ位置、天候、氣象、時刻其他種々ノ原因ハ目測ニ誤差ヲ生セシムルモノニシテ其場合概ネ左ノ如シ

一 近ク誤リ易キ場合
 天候清朗ナルトキ、測手太陽ヲ背ニスルトキ、目標其背後ノ物色ノ關係ニ依リ鮮明ナルトキ、遠隔セル明瞭ナル獨立物體、積雪地、水面、平坦地並波狀地等ニシテ特ニ中間ノ土地ヲ通視シ得サルトキ等

二 遠ク誤リ易キ場合
 目標ノ見エ方不明瞭ナルトキ殊ニ目標線ノ大部ヲ目視シ得サルトキ、炎

橫幅ト高サノ目測

携帶測遠器

實戰ニ在リテハ目測一般ニ近キニ失シ又低キ姿勢ニ在リテ目測スルトキハ遠キニ失スルヲ常トス

第八十六 橫幅及高サヲ測定スルニハ密位法ニ依ルヲ有利トス而シテ密位法ニ依ル測定法ヲ教育スルニハ先ツ明瞭ナル二物體ノ間隔ニ應スル密位量ヲ分畫ヲ刻シタル眼鏡又ハ腕長規尺等ニテ測定シ置キ之ヲ指幅トテ對照シテ相互ノ關係ヲ了得セシメ終ニ目視ノミニ依リ測定シ得ルニ至ラシメ且密位量ヲ長サニ換算スルコトヲ知得セシムルヲ要ス

第八十七 器械測量ヲ教フルニハ最初器械ノ使用法ヲ會得セシメタル後漸次任意ノ距離ニ在ル各種ノ目標ニ對シ迅速ニ測量ヲ行フコトニ慣熟セシムルヲ要ス

器械測量ニ在リテモ諸種ノ原因ニ因リ若干ノ誤差アルモノナリ故ニ同一距離ハ勉メテ二回之ヲ測リ若同一ナラサルトキハ其平均ヲ以テ求ムル距離ト爲スカ或ハ更ニ之ヲ復行スルヲ要ス

第八十八 携帶測遠器ヲ以テ距離ヲ測量スルニハ測手ハ先ツ第一測點ニ於テ測定セント欲スル目標ヲ側方ニシテ立チ測遠器ノ「退」ト記シタル視窓ヲ開キ對物方窓ヲ目標ニ面セシムル如ク器ヲ水平ニ保持シテ視視スヘシ然ルト

熱ノトキ、陽炎アルトキ、測手太陽ニ面スルトキ、目標其背後ノ物色ノ關係ニ依リ鮮明ナラサルトキ、曇天、濃霧、晚暮、森林内及狹長ナル土地等

測遠器使
用上ノ注
意

キハ器中ニ於ケル目標ノ映像ハ目標ト測手トヲ連結シタル線ト直角ノ方向ニ現ルヘシ測手ハ器ノ上方或ハ下方ヨリ前方ヲ通視シ其映像ト同方向ニ於テ之ト一致スヘキ一ノ假標ヲ定ム次ニ臆板^{ウツハン}ヲ「退」ノ窓ニ移シ他ノ規視窓ヨリ再ヒ前ト同要領ヲ以テ目標ヲ覘フトキハ目標ノ映像ハ前ノ假標ニ一致セスシテ之ト若干ノ離隔ヲ生スヘシ是ニ於テ測手ハ假標ト第一測點トノ延長上ヲ後退シツツ此映像ト假標トノ一致スル點ヲ求メ之ヲ第二測點トス此兩點間ノ距離

(基線ト稱ス)ヲ測索ヲ用ヒテ測量シ其五十倍ヲ以テ求ムル距離ト爲ス

若地形上後退スルコト能ハサル場合ニハ全ク前ト反對ノ方向ニ面シテ之ヲ行ヒ以テ基線ヲ決定スヘシ又假標ト爲スヘキ適當ノ地物ナキ場合ニハ約二百米ノ距離ニ竹竿等ノ垂直物體ヲ植立スルカ又ハ助手ヲ置キ其服裝中識別シ易キ部分ヲ假標トスヘシ

第八十九 携帶測遠器ヲ使用スルニ方リ特ニ注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 眼ト器械トノ關係位置及姿勢ヲシテ測量間一定ナラシムルコト
- 二 規視間器械ノ上面ヲ水平ニ保持スルコト
- 三 觀測ヲ容易且精密ナラシムル爲目標ハ成ルヘク垂直物體若ハ認識シ易キ點ヲ選フコト
- 四 測量セントスル目標ト假標トノ一致ヲ精密ニスルコト
- 五 基線ヲ決定スル爲第二測點ヲ求ムルニハ正シク第一測點ト假標トヲ連結シタル直線上ナルコト

歩測
騎測
音響測量
彈丸飛行
音

第九十 歩測ニ依リ距離ヲ測量スルニハ先ツ自然ノ歩法ヲ以テ百米ノ長サヲ歩ミテ得タル複歩數(二歩ヲ以テ一複歩ト謂フ)ヲ知得セシメ此複歩數ト測量スヘキ地上ヲ歩ミテ得タル複歩數トヲ比較シ其距離ヲ定ムルモノニシテ十六乃至七十複歩ヲ以テ百米ヲ歩行スルヲ通常トス

第九十一 音響波動ノ速度ヲ利用シ距離ヲ測定スルモノトス

騎測ハ通常經過時間ト歩度トニ依リ距離ヲ測定スルモノトス

第九十二 音響波動ノ速度ヲ利用シ距離ヲ測定スルモノトス

ノ場合ニ於テ音響ハ一秒時間ニ約三百三十三米ニ達スルモノナルヲ以テ三秒時間ニ一ヨリ十マテノ數ヲ連呼シ得ル如ク口調ヲ練習スルトキハ一箇ノ呼唱ハ百米ニ相當ス即チ發光ヲ見テヨリ音響ノ耳ニ達スル間ニ要スル時間ヲ口調ニ依リ測ルトキハ其距離ヲ概測シ得ルモノトス

第九十三 彈丸發射ノ際及飛行間相異ナル三種ノ音響ヲ發生ス即チ彈丸銃口ヲ離ルトキ發射ノ際及飛行間相異ナル三種ノ音響ヲ發生ス即チ彈丸銃口(パン)及存速音波ノ速度以下トナリタルトキ生スル飛行音(シユウ)是ナ

彈丸ノ音響ハ銃側附近ニ在リテハ「ト」音ト「パン」音ト同時ニ發生スルヲ以テ單一激烈ナル一音ヲ聽取スルノミナルモ射線ノ方向ニ銃口ヲ遠サカルニ從ヒ「パン」音、「ト」音ノ順序ニ區別シテ聽クヲ得ヘク約八百米ニ至レハ其間隔〇・八秒ヲ算ス而シテ約九百米以上ニ在リテハ其間隔内ニ「シユウ」音ヲ聽キ約五百米附近ニ於テハ「ト」音及「シユウ」音ヲ略 同時ニ聽取ス

徽章授與

ヲ有スル各聯隊ニ二箇、其他ノ各聯隊ニ一箇
 第一種徽章 第二年兵 各中隊兵卒二十五名ニ付一箇
 第二種徽章 初年兵 各中隊(機關銃隊ヲ除ク)兵卒二十五名ニ付一箇
 輕機關銃徽章(歩兵隊、騎兵隊)
 下士徽章 輕機關銃掛下士 各聯隊ニ一箇(騎兵隊ニ在リテハ授與セス)
 第一種徽章 輕機關銃手タル第二年兵 各中隊兵卒十二名ニ付一箇
 第二種徽章 輕機關銃手タル初年兵 各中隊兵卒十二名ニ付一箇
 人員右ノ定數ニ充タサルモ一箇ヲ授與シ又人員ニ端數ヲ生シタルトキハ定數
 ノ二分ノ一以上ニ付更ニ一箇ヲ授與ス
 聯隊ヲ成ササル部隊ニ在リテモ此率ニ準ス
 射手ノ優劣ヲ決定スルニハ左ノ要領ニ依ル
 下士徽章 聯隊長(歩兵隊)小銃徽章ニ在リテハ大隊長)ハ特別射撃ニ依リ
 毎年部下聯隊(大隊)ノ下士ノ中ヨリ優等者ヲ決定ス
 特別及第一、第二種徽章 中隊長ハ基本射撃ノ各習會ニ合格シタル者ノ中
 命中點數ノ大ナル者(初年兵)小銃徽章ニ在リテハ實習射撃ノ命中點數
 大ナル者)ヲ以テ優等者トス若成績同等ナル者アルトキハ各個戰鬪射撃
 及特別射撃ノ成績ヲ斟酌スルモノトス
 大隊長及中隊長ハ優等者ヲ決定セハ聯隊長ニ上申スルモノトス
 第百九十六 射撃徽章ヲ授與スルニハ之ニ聯隊長ノ名ヲ以テ其優等ヲ證シタ
 ル賞狀ヲ添付スルモノトス

檢閱

獎勵法

徽章

ルニ至ルモノトス
 彈丸ノ音響ニ依リ發射位置ノ方向ヲ判定スルニハ常ニ「トシ」音ニ依ラサルヘ
 カラス而シテ「パン」音ハ屢々發射位置ノ方向ヲ誤ラシムルモノナルヲ以テ注
 意スルヲ要ス
 第百九十三 適宜ノ時期ニ於テ大隊長(騎兵隊ニ在リテハ聯隊長)ハ士官、准
 士官及下士ノ距離測量ヲ檢閲スヘシ
 第七章 射撃ノ獎勵及褒賞
 第百九十四 中隊長以上ノ諸隊長ハ當該部隊ノ實情ニ基キ適切ナル射撃ノ獎
 勵法ヲ講シ以テ射撃教育ノ進歩發達ヲ圖ルヲ要ス
 第百九十五 射撃徽章ハ射撃術獎勵ノ爲毎年射撃成績優等ナル現役ノ下士、
 兵卒ニ授與スルモノニシテ左ノ如ク之ヲ區別ス但曹長、歩兵隊工卒及專務卒
 ニハ之ヲ授與スルコトナシ
 小銃徽章(歩兵隊)
 下士徽章 下士 輕機關銃掛下士ヲ除ク) 各大隊ニ一箇
 特別徽章 第二年兵特別射手 各中隊ニ二箇
 第一種徽章 小銃手タル第二年兵(特別射手ヲ除ク) 各中隊兵卒二十名ニ
 付一箇
 第二種徽章 小銃手タル初年兵 各中隊兵卒十八名ニ付一箇
 小銃徽章(騎兵隊)
 下士徽章 下士(機關銃隊下士ヲ除ク)機關銃隊ヲ有スル各聯隊及輕機關銃

命 中 試 驗
ノ 目 的

徵章ヲ授ケルトキハ聯隊ヲ整列シ下士ニ在リテハ聯隊長自ラ之ヲ授ケ兵卒ニ在リテハ大隊長(騎兵隊ニ在リテハ中隊長)ヲシテ之ヲ授ケシム

徵章ハ全服役間佩用スルコトヲ得其位置ハ軍服ニ在リテハ軍衣左肋ニシテ第三、第四鈕ノ中間ノ高サトス若數箇ヲ有スルトキハ其授與セラレタル順序ニ從ヒ左ヨリ右ニ佩フルモノトス其他ノ服裝ニ在リテハ之ニ準シ適宜佩用スルコトヲ得

第八章 命中試驗

第九十七 命中試驗ハ中隊ニ於テ其支給銃中ノ命中精度良好ナラサルモノニ就キ毎年新教育年度ニ入ルニ先タチ實施スヘキモノニシテ其他新ニ銃ヲ支給セラレタルトキ或ハ輕機關銃ノ銃身ヲ交換シタルトキ等ノ場合ニ之ヲ行フモノトス

命中試驗ノ精否ハ射擊教育ノ成果ニ影響ヲ及スコト大ナルヲ以テ綿密正確ニ實施セサルヘカラス

第九十八 中隊長ハ中隊ノ士官、准士官及下士中ヨリ適任者ヲ選ヒ要スレハ之ニ準備訓練ヲ施シテ命中試驗ヲ行ハシムルヲ要ス

第九十九 命中試驗ニハ命中試驗的(附圖第三十二)ヲ用ヒ靜穩ナル天候ヲ選ヒ射擊スヘキモノニシテ勉メテ誤差ノ原因ヲ避クヘシ之カ爲照準具ノ掩蔽ヲ設ケテ直射光線ヲ防キ照準具及機關部ノ機能ヲ檢査シ銃鍊ハ正シク之ヲ緊定シ射手ニ照準用具(附圖第一參照)ヲ裝セシムル等ノ手段ヲ講シ精密ニ射擊セシムルヲ可トス又射手ノ過勞ヲ避ケ且其進捗ヲ急カサルコト緊要ナリ

射 擊 場
基 本 射 擊

良 否 ノ 判 定

記 錄

尙輕機關銃ニ在リテハ命中試驗ニ先タチ數發ノ實包ヲ以テ機能ノ點檢ヲ行フモノトス

射手ハ二百米ノ距離ニ於テ堅確ニ固定シタル机ニ倚ルカ又ハ伏姿ヲ爲シ銃ノ下帶ノ下部ヲ托架若ハ砂囊上ニ托シ黑點ノ下際ヲ照準シ連續五發ヲ射擊ス而シテ各彈著ハ指示スルコトナク監視の手ニ於テ登記シ置クモノトス

輕機關銃ニ在リテハ特ニ脚桿ノ安定ヲ良好ナラシメ前項ニ準シ一發ツツ射擊スルモノトス

第二百 二百米ノ射擊ニ於テ彈著悉ク標的面ノ矩形内ニ收容セラレタルモノヲ以テ良銃ト爲ス矩形内ニ全彈著收容セラレサルモノ彈著ノ集合狀態比較的良好ナルモノ(歩兵銃ニ在リテハ概ネ集合彈探點鏡ノ四十種鏡内、輕機關銃、騎銃ニ在リテハ概ネ五十種鏡内ニ集合スルモノ)ハ之ヲ使用セシムルコトヲ得

彈著ノ狀態前項ノ標準ニ達セサルモノハ不良銃ト認定シ其原因ト認ムヘキモノアレハ之ヲ記シ彈痕圖ヲ添ヘ修理或ハ交換ヲ請求スヘシ

第二百一 命中試驗ヲ爲シタル場合ニハ其成績ヲ命中試驗成績表(附表第十一)ニ記入シ少クモ五年間保存スヘシ

第九章 射擊場ノ警戒及危害防禦

第二百二 基本射擊場ノ危害防禦ニ關スル主要事項左ノ如シ

一 射擊ヲ始ムル若干時間前ヨリ射擊終了マテ射擊場ニ大ナル赤旗ヲ掲ケ且射擊間絶エス周圍ノ堤防等ニ立チ入ル者ヲ警戒スヘシ

演習場
演習場外

六糧、砂約二十種、尋常土約四十種ナリ又高角度射撃ニ於テ落下シ來レ彈丸ノ活力ハ依然人體ニ危害ヲ及ス虞アルモノトス

第二百四 陸軍演習場ニ於テ實包射撃ヲ實施スル場合ニ於ケル警戒及危害豫防ニ關シテハ陸軍演習場規則及當該演習場ノ規定ニ據ルヘシ

第二百五 陸軍演習場以外ノ地ニ於テ實包射撃ヲ行フ場合ノ警戒及危害豫防ニ關シテハ陸軍演習場規則ニ準據スルノ外地方官憲ト協議ノ上左記事項ヲ規定スヘシ

- 一 射線ノ方向
- 二 交通ヲ遮斷スヘキ道路及其迴避路
- 三 危險區域
- 四 警戒兵ノ位置
- 五 警戒兵ノ配布、撤去ノ方法及要スレハ其交代法
- 六 危險區域内ニ於ケル危害豫防
- 七 射撃ノ日時、危險區域、禁令等ノ揭示ヲ植ツヘキ地點
- 八 警戒旗掲揚ノ地點

射線ノ方向及目標位置ヲ選定スルニ際シテハ射線ノ方向ノミナラス側方ニ對スル危險ニ就キテモ十分顧慮セサルヘカラス輕機關銃ノ點射ノ移動、雜射ヲ行フ場合ニ於テ特ニ然リトス此場合射撃場ノ土質、地形ト跳彈發生トノ關係ヲ顧慮スルコト必要ナリ

實驗ニ依ルニ近距離ニ於ケル跳彈ハ射線ノ方向ニ對シ多クハ二十度以内ニ跳

狹窄射撃場

- 二 射場ト監視の壕トハ音聲又ハ號音ヲ以テ通信スルヲ禁ス（特別ノ設備アル射場ト監視の壕トノ交通ハ特別ニ設置セル通路ニ依ルカ或ハ一時射撃ヲ中止セシメタル後ニ於テスヘシ）
- 三 必要ニ際シ監視の手壕外ニ出ツルニハ高級先任ノ監視の長ノ命ニ依リ各的
- 四 同時ニ赤旗ヲ左右ニ振りテ射撃ノ中止ヲ求メ射場ニ於テ確實ニ應答シ全ク射撃ヲ中止シタル後ニ於テスヘシ
- 五 同一射撃場ニ於テ異なる距離ヨリ同時ニ射撃スルヲ禁ス又標的ヲ所定ノ位置以外ニ植立スルヲ許サス
- 六 裝填セシ銃ハ手ヨリ離スヘカラス
- 七 裝填シアル銃ヲ他人ニ托スル場合ニハ彈藥ヲ抽出スヘキモノトス若否サルトキハ裝填シアルコトヲ告知スヘシ
- 八 裝填セシ輕機關銃ノ故障排除ニ方リテハ必ス銃身ヲ水平ナラシメ不慮ノ危害ヲ豫防スヘシ
- 九 射撃場ニ於テ許可ナク据銃、照準、擊發ヲ爲スヲ禁ス
- 第十 狹窄射撃場ノ危害豫防ニ關シテハ第二百二ニ準スルモノトス

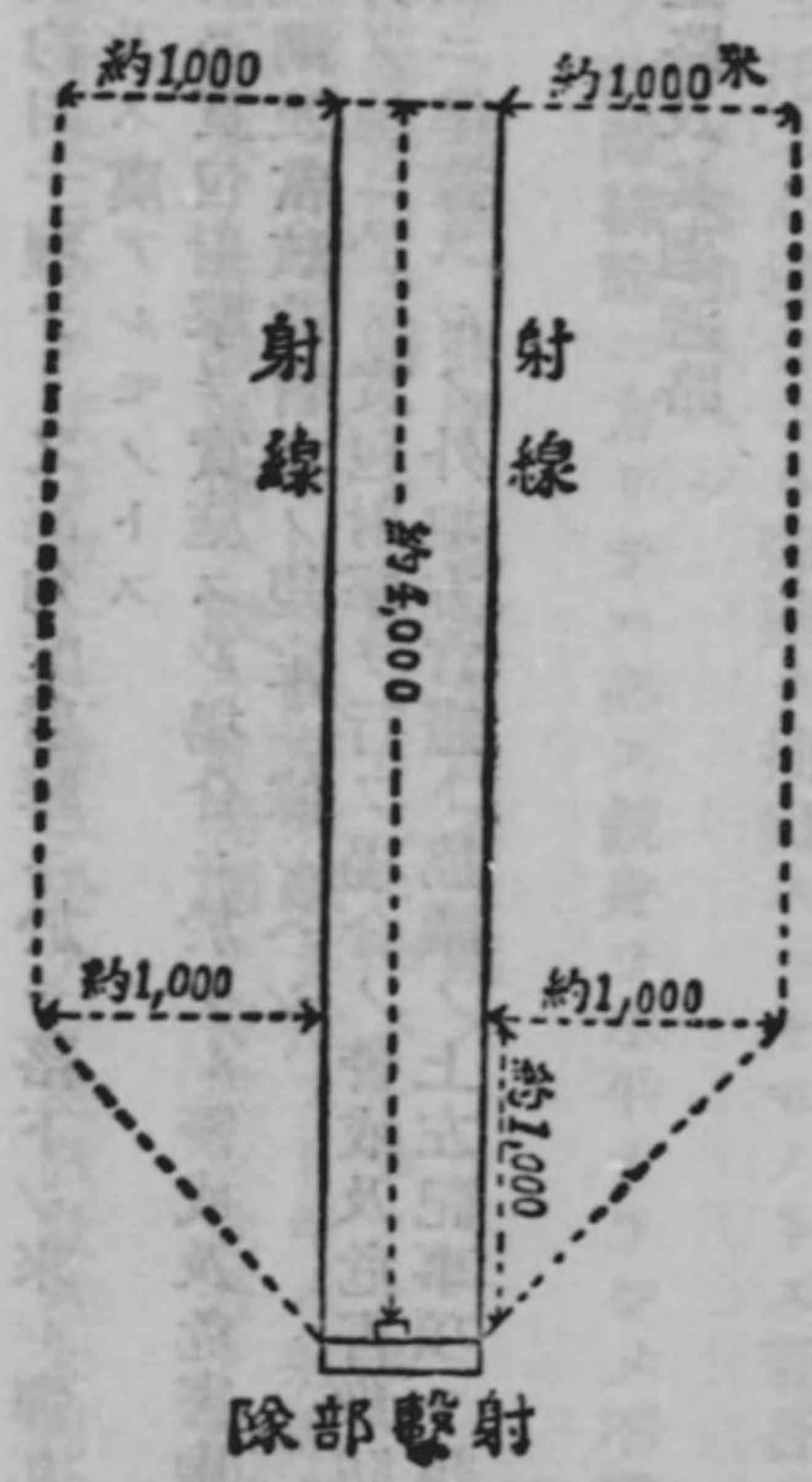
野外等ニ於テ特殊ノ目的（飛行機射撃等）ヲ以テ狹窄射撃ヲ行フトキハ射線ノ方向ニ六百米、横方向ニ三百米ノ危險區域ヲ設ケ此範圍ヲ警戒シ危害ノ豫防ヲ爲スヲ要ス

狹窄彈ノ最大射距離ハ約五百米ニシテ銃口前十五米ニ於ケル雙徹量ハ木材約

危險區域

飛スルモ時トシテ四十度ニ達スルコトアリ而シテ平坦地ニ在リテハ一般ニ右方ニ跳飛スルモノ多シ又跳飛シタル彈丸ノ飛行スヘキ距離ハ土質、地形等依リテ大ニ差異アリト雖概ネ二千米以上ニ達セサルモノトス
 高地ノ背後又ハ森林ノ後方ニ在ル村落、道路、鐵道等ニシテ地圖上ニ記載シアラサルモノアルヲ以テ周邊ノ土地ハ之ヲ實査シ危害豫防ニ就キテ遺漏ナカラシムルヲ要ス
 警戒兵ハ主要ナル交通路其他ノ要點ニ配置シ各隣哨ハ彼此連絡シ得ル如ク警戒線ヲ成形スルヲ可トス
 第二百六 危險區域ノ幅員ハ地形ニ依リ差異アルモ平坦地ニ在リテハ第三十八圖ノ如シ

圖八十三第
 險危ルケ於ニ地坦平 域區



統官及勤務員 統監

射場掛

第二百七 危險區域内ニ於ケル危害豫防ニ關シ統監及各勤務員ノ主要ナル任務及注意スヘキ事項ヲ舉ケレハ左ノ如シ

- 一 統監
 - 同一射擊場ニ於テ數個ノ部隊同時ニ射擊スルトキハ高級先任ノ統監ハ警戒及危害豫防ニ關シ射擊場全般ヲ統轄スルモノトス
 - 統監ハ當日ノ射擊開始一、二時間前及射擊終了直後打上煙火等ヲ用ヒ當日ノ射擊ノ終始ヲ一般ニ告知スルヲ要ス
 - 統監ハ警戒掛ノ警戒配置終了ノ報告及監的掛ノ準備終了ノ報告ヲ受ケ危険ナキコトヲ確メタル後射擊開始ヲ命ス
 - 示號標(夜間ハ示號燈以下同シ)(附圖第三十三)ハ射擊開始ヨリ絶エス之ヲ射場ニ植立シ置キ現在射擊中ナルコトヲ一般ニ示スモノニシテ射擊ヲ終了シ彈藥ノ抽出ヲ行ハシメタル後之ヲ倒スモノトス
 - 示號標ノ操作ハ總テ統監ノ責任トス
 - 統監ハ監的掛ヨリ危険ノ信號又ハ警戒掛ヨリ危険ノ報告ヲ受ケルカ其他必要ト認ムルトキハ射擊ノ中止ヲ命シ示號標ヲ倒サシム
- 二 射場掛
 - 射場ノ混雜ハ往々ニシテ危害ヲ起ス原因トナルモノナルヲ以テ射場ニ於ケル諸材料ハ正シク整頓シ置クヲ要ス殊ニ示號標、信號旗、電話等ノ位置ハ射擊部隊ノ行動ヲ妨害セサル位置ニ選定スルコト必要ナリ
 - 射場ト監的掛トノ連絡ハ示號標、信號旗、電話ニ依ルモノニシテ成ルヘク

警戒掛

此三者ヲ併用シテ連絡ノ確實ヲ期スヘシ
 示號標ハ其取扱ヲ慎重ニセザレハ往々ニシテ危害ヲ起スモノナルヲ以テ如
 何ナル場合ニ於テモ統監ノ命ニ依ルニアラサレハ之ヲ操作スルヲ得ス
 射場ト監的壕ト互ニ通視シ得サル場合ニ於テハ兩者ヨリ通視シ得ヘキ安全
 ノ場所ニ示號標ヲ植テ且電話通信ト相俟チテ兩者ノ連絡ヲ確實ナラシムヘ
 シ
 濃霧、降雪等ノ場合ニハ以上ノ連絡設備ノ外音響信號(サイレン等)ヲ併用
 スルヲ要ス
 信號ノ爲號音ヲ用フルコトヲ禁ス
 統監射撃部隊ノ前進ニ伴ヒ示號標及信號旗ノ位置ヲ離ルルモ此等ノ位置ハ
 成ルヘク變更スルコトナク統監トノ間ヲ選傳又ハ記號ニ依リ連絡スルヲ要
 ス是示號標及信號旗ノ位置變更ハ監的壕トノ連絡ノ中絶ヲ來シ不慮ノ危害
 ナ起スコトアルヲ以テナリ
 三 警戒掛
 警戒掛ハ警戒兵ノ配置終了シ射撃場内ノ危険ナキニ至ラハ其旨ヲ統監ニ報
 告スヘシ
 警戒掛ハ成ルヘク自轉車又ハ乘馬ヲ準備シ射撃間ハ絶エス射撃區域内ヲ注
 視シ若危険アリト認ムルトキハ直ニ統監ニ其旨ヲ報告シ所要ノ處置ヲ爲ス
 警戒兵ハ交代セシメサルヲ可トス但特ニ安全ナル廻避路ヲ有スル場合ニ於

監的掛

テハ所要ニ應シ交代セシムルコトヲ得又晝間ヨリ夜間ニ引續キ射撃ヲ爲ス
 場合ニ於テハ晝間ニ於テ豫メ夜間ノ爲ノ準備ヲ爲シ置クコト必要ナリ
 警戒兵ヲ撤去セシムルニハ打上煙火等ニ依ルノ外爲シ得ル限り各隣哨ノ遞
 傳若ハ記號ヲ併用スルヲ要ス
 警戒兵ハ所要ノ赤旗(夜間ハ各人ニ赤提燈一箇)ヲ携行シ之ヲ所定ノ位置ニ
 植立シ置キ常ニ其所在ヲ明ナラシムヘシ
 警戒兵ハ必ス危険地域外ニ位置セシムルヲ要ス若危険地域内ニ位置セシム
 ルヲ必要トスル場合ニハ確實ナル掩護ノ處置ヲ講スルヲ要ス
 警戒兵ハ通常複哨ト爲スモ晝間ニ於テハ哨所ノ位置及任務ニ依リ單哨ト爲
 スコトヲ得
 警戒兵ニハ當日ノ射撃方向、射撃開始ノ時刻其他必要ノ事項ヲ知ラシメ置
 クヲ要ス
 四 監的掛
 監的勤務員ハ射撃間監的壕内ニ在ルモノトス若監的壕ヲ設ケサルトキハ危
 險ナラサル地ニ避クルヲ要ス
 監的壕ニハ射撃セサル間常ニ赤旗(夜間ハ赤燈以下同シ)ヲ植立シ置クヘ
 シ
 射撃開始ノ爲射場ニ示號標ヲ植立セラレタルトキハ監的掛ハ危険地域内ニ
 在ル監的勤務員ヲ悉ク壕内ニ入ラシメ若ハ危険ナラサル地ニ避ケシメタル
 後赤旗ヲ左右ニ振りテ應答シタル後之ヲ倒ス

赤旗ハ射撃ノ終始及危險ノ信號ノ外用フヘカラス
 射撃ヲ終リ或ハ射撃中危險ヲ生シタルトキト雖射場ト監的壕トノ連絡確實
 ニシテ示號標ノ倒レタルヲ確認シタル後ニアラサレハ監的勤務員ヲ壕外ニ
 出シ又ハ危險地域内ニ入ラシムヘカラス
 示號標ノ倒レタルヲ壕外ニ出シ又ハ危險地域内ニ入ラシムヘシ
 ル後監的勤務員ヲ壕外ニ出シ又ハ危險地域内ニ入ラシムヘシ
 監的勤務員ニハ遠方ヨリ目視容易ナル服裝ヘ帽ニ白帶ヲ附シ又ハ軍衣ヲ脱
 スル等)ヲ爲サシムルヲ可トス又監的壕ヨリ遠ク派遣スヘキ者ニハ赤旗ヲ
 携行セシムルヲ要ス尙夜間ハ各人ニ一個ノ赤燈ヲ携帶セシムルモノトス
 監的壕ノ位置ハ標的裝置ノ種類ニ依リ異ナルモ起伏裝置ニ在リテハ其操作
 ヲ容易ナラシムル爲成ルヘク標的線ノ前方(射場ニ近キ方)ニシテ標的ノ端
 末ヨリ十米以上側方ニ離隔セシムルヲ可トス然レトモ鐵的ヲ用フル場合ニ
 於テハ標的線ノ後方(射場ニ遠キ方)ニシテ其端末ヨリ十米以上側方ニ離隔
 セシムヘシ
 監的壕ハ自然地下ニ掘下スヘシ若掘下シ得サル土質ニ在リテハ積土ヲ以テ
 補フコトヲ得而シテ何レノ場合ニ於テモ掩護高チ二米以上トシ積土ノ厚サ
 ハ一米五十以上ナラシムルヲ要ス
 積雪地、砂地ニ在リテハ之ニ對スル彈丸ノ侵徹量ヲ顧慮シ要スレハ厚板、
 土囊等ヲ用ヒテ補強工事ヲ爲スヘシ
 岩石地ニ在リテハ跳彈及破片ノ危害ヲ受クル虞多キヲ以テ掩護高チ增加シ

高角度射

友軍超過
間隙射撃

要スレハ掩蓋ヲ設備スルヲ可トス礫地ニ在リテ破壊セラレタル彈丸ノ破片
 ハ側方ニ飛散シ百五十乃至二百米ニ達スルコトアリ
 監的壕ノ正面幅ハ收容スヘキ人員ニ依リ定ムルモノニシテ一人ノ正面幅約
 六十種トスヘシ而シテ壕幅ハ一米以下トシ勉メテ之ヲ狹クスルヲ要ス跳彈
 ノ危害ヲ避クル爲監的壕ノ周邊ニ在ル岩石、樹根等ヲ除キ又携帶品殊ニ飯
 盒、銃劍等ノ如キ金屬品ハ之ヲ露出シ置クヘカラス
 第二〇八 高角度射撃ニ在リテハ射角ノ增加スルニ從ヒ射撃部隊ニ危險ヲ及
 スニ至ルモノトス風向射線ニ反對ナル場合ハ殊ニ危險多キヲ以テ風船等ヲ揚
 ケテ高層ノ風向ヲ點檢スルヲ要ス
 如何ナル場合ニ於テモ仰角八十度以上ニテ射撃スヘカラス又此種射撃ノ射線
 ノ方向ニ於ケル危險區域ハ射撃部隊ノ前方約三百米ヨリ約四千米ニ互ル間ト
 ス
 第二〇九 部隊戰闘射撃及實驗射撃ニ方リ友軍超過、間隙射撃ヲ爲ス場合ニ
 於テハ下士以下ニ第二十二、第二十三ニ示ス限界ヲ十分嚴守セシムルト共ニ
 左記事項ニ留意シ豫防ヲ爲スヘシ
 一 輕機關銃ヲ以テ難射ヲ爲ス場合ニ於テハ要スレハ適宜ノ標示ヲ爲シ射
 線ノ方向ヲ制限スヘシ
 二 地形、地物ノ關係ニ依リ友軍ニ危害ヲ及ス虞アルトキハ火線ノ一部ヲ
 假設シテ實設部隊ノ間隙ヲ大ニシ交互躍進ヲ容易ナラシムルヲ可トス
 三 間隙射撃ニ在リテハ補助官ハ危險ナル翼ニ位置シテ兵卒ノ動作ニ注意

考 備	二		一	
	三發膝	三發伏	三發膝	三發伏
<p>一 集合彈探點鏡ヲ以テ探點スル習會ハ同一照準點(照準點ハ射彈ヲ標的ニ收容スル爲要スレハ各銃ノ平均點躲避ヲ顧慮シ指示スルコトヲ得)</p> <p>二 對シ連續射擊ヲ爲スモノトス</p> <p>三 補射ハ行ハシメサルモノトス</p> <p>四 野戰砲兵隊及高射砲隊ノ士官、准士官、見習士官、少尉候補者及下士</p> <p>五 其技能ニ應シ士官、下士ノ習會中適宜ノ二習會ヲ、士官候補生、伍</p>	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
	三發膝	三發伏	三發膝	三發伏
	膝畫的	圈頭的	膝畫的	圈頭的
	五	五	五	五
	人像一人像一	人像一人像一	人像一人像一	人像一人像一
		八	四	
			丙	
			丙	
			乙	
			甲	
			其集 五五五五 十十十十 糶糶糶糶 圈圈圈圈 內內內內 ニニニニ 二三四發 發發發發 以下 丁丙乙甲	

第三十一表
砲兵隊小銃基本射擊習會表

士下・官士	習會順次	考 備	
		二	一
兵年二第	兵年初	二	一
(米)離 距	勢 姿	三〇〇	三〇〇
的 標	的 標	三發膝	三發伏
彈 射 發	彈 射 發	膝畫的	圈頭的
士下・官士	合格標準(點數)	人像一人像一	人像一人像一
兵年二第		二	一
兵年初		二	一
續			
要			

四	三		二			
四	三		二			
		五		四	三	二
					三	二
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇
伏	三發膝 三發伏	伏	伏	三〇〇 依托伏	膝	伏
伏	膝畫的	膝畫的	圈頭的	圈頭的	圈的	圈的
五	五	五	五	五	五	五
一〇	人像一 二〇		二〇			
五	人像二 一六		一六			
		人像一 二三		丙	一六	一八
	人像一 一五					
					一六	一八
				其集 六六六六 十十十十 糧糧糧糧 鑽鑽鑽鑽 內內內內 二二二二 二三四五 發發發發 以下 丁丙乙甲		

一、集合彈探點鑽ヲ以テ探點スル習會ハ同一照準點(照準點ハ射彈ヲ標的

一	士下・官士	習會順次	第三十二表
一	兵年二第		
一	兵年初		
一	者集召習演務勤		
一	兵充補集召育教		
二〇〇	(米)離	距	
二〇〇	依托伏	委	
二〇〇	圈的	標	
五	彈射發		
甲	士下・官士	合格標準(點數)	
乙	兵年二第		
丙	兵年初		
乙	者集召習演務勤		
丙	兵充補集召育教		
五	其集	摘	
五	十十十十		
五	糧糧糧糧		
五	鑽鑽鑽鑽		
五	內內內內		
二	二二二二		
二	二三四五		
發	發發發發		
以下	以下	要	
丁丙乙甲	丁丙乙甲		

工兵隊小銃基本射擊習會表

長勤務上等兵ニハ第二二年兵ノ第一、第二習會ヲ幹部候補生、各部幹部候補生ニハ初年兵ノ第一、第二習會ヲ射擊セシメ兵卒(伍長勤務上等兵ヲ除ク)ニハ小銃射擊ヲ行ハシメサルモノトス

159〔213〕表三十三第

四	三		二			
四	三		二			
		五		四	三	二
	二					二
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇
伏	三發膝 二發伏	伏	伏	三〇〇 依托伏 圈頭的	膝	伏
膝的	膝畫的	膝畫的	圈頭的	圈的	圈的	圈的
五	五	五	五	五	五	五
一〇	二五	人像 人像	二五			
五	二一	人像	二			
		八一人像		丙	三	四
		九一人像				
						一四
				其集 採彈探 點探點 標探點 準探點 左探點 ノ探點 如探點 シ探點 以下採 丁探點 丙探點 乙探點 甲探點		

表三十三第〔213〕158

一	士下・官士	習會順次	第三十三表	鐵道隊、電信隊、電氣中隊及氣球隊小銃基本射擊習會表	考 備
一	兵年二第	者集召習演務勤	二		
一	兵年初	兵充補集召育教	二		
一			內ニ收容スル爲要スレハ各銃ノ平均點躲避ヲ願慮シ指示スルコトヲ得		
一			ニ對シ連續射撃ヲ得スモノトス		
一			人像的ノ命中彈ハ一發五點トス		
二〇〇	(米)離 距	勢 姿			
二〇〇	依托伏圈	的 標			
五	彈 射 發	士下・官士	合格標準(點數)		
甲	兵年二第	兵年初	摘		
乙	者集召習演務勤	兵充補集召育教	要		
丙					
乙					
丙					
五	其集 採彈探 點探點 標探點 準探點 左探點 ノ探點 如探點 シ探點 以下採 丁探點 丙探點 乙探點 甲探點				

161(213) 表四十三第

	二				一
	二				一
五		四	三	二	一
				二	一
三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
伏	伏	依托伏	膝	伏	依托伏
膝畫的	圍頭的	圍頭的	圍的	圍的	圍的
五	五	五	五	五	五
	一六				甲
	二三				乙
人像 九一		丙	三	一五	丙
					乙
				一四	丙
		其集 六六六六 十十十十 糧糧糧糧 鑽鑽鑽鑽 內內內內 二二二二 二二三 發發發發 以下 丁丙乙甲		其集 五五五五 十十十十 糧糧糧糧 鑽鑽鑽鑽 內內內內 二二二二 二二三 發發發發 以下 丁丙乙甲	

表四十三第 [213]160

士下・官士	士第	習會順次	輜重兵隊小銃基本射擊習會表	第三十四表	考 備	五 五
兵年二	兵年二	者集召習演務勤	士下・官士	合格標準(點數)	一 集合彈探點鑽ヲ以テ採點スル習會ハ同一照準點(照準點ハ射彈ヲ標的 ニ對シ連續射擊ヲ爲スレハ各銃ノ平均點鑽避ヲ顧慮シ指示スルコトヲ得)	
卒	卒	卒	兵年二	兵年二	二 內ニ收容スル爲要スレハ各銃ノ平均點鑽避ヲ顧慮シ指示スルコトヲ得	
(米)離	距	勢	兵年二	兵年二	三 人像的ノ命中彈ハ一發五點トス	
的	標	的	習者	習者	サ 氣球隊ノ自動車手、擊留手及勤務演習召集者ニハ小銃射擊ヲ行ハシメ	
彈射發	發	彈射發	卒	卒		
士下・官士	士第	士下・官士				
兵年二	兵年二	兵年二				
兵年二	兵年二	兵年二				
習者	習者	習者				
卒	卒	卒				
摘	要	摘				

工兵隊戰 關射擊 射擊手簿 射擊徽章	工兵隊戰 第二百十四 トス	工兵隊ニ在リテハ各個又ハ分隊ヲ以テ戰關射擊ヲ實施スルモ、
	射擊手簿 第二百十五 トス	射擊手簿ハ之ヲ用ヒス適宜ノ用紙ニ命中點數、彈著、發射彈、 總點、合否等ヲ登記シ士官(准士官、見習士官、少尉候補者ヲ含ム)、下士及 各年次兵毎ニ冊ニ綴リ置クモノトス
射擊徽章 第二百十六	射擊徽章ハ之ヲ授與セサルモノトス	
步兵隊支 給彈藥定 數	步兵隊支 給彈藥定 數 第二百十七 ム	步兵隊射擊教育ノ爲毎年支給スヘキ彈藥ノ定數ヲ次ノ如ク定 步兵隊個人支給彈藥ノ定數第三十五表ノ如シ
役 種 階 級	步兵隊個人支給彈藥定數表	
士官、准士官	小銃 實包	空銃 實包
	小銃 實包	空銃 實包
	狹窄 實包	輕機 實包
	輕機 實包	輕機 實包
	拳銃 實包	拳銃 實包
	摘	要
	拳銃實包ハ中隊ニ付 一人トス	

第四篇 彈藥記錄及報告

第一章 彈藥

第二百十七

步兵隊射擊教育ノ爲毎年支給スヘキ彈藥ノ定數ヲ次ノ如ク定

步兵隊個人支給彈藥ノ定數第三十五表ノ如シ

表四十三第 [213]162

考 備	六	五	四	三
	六	五	四	三
一 集合彈探點銀ヲ以テ探點スル習會ハ同一照準點(照準點ハ射彈ヲ標的 ニ對シ連續射擊ヲ爲スモノトス)	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
二 對シ連續射擊ヲ爲スモノトス	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
三 勤務演習召集者及輪卒ニハ補射ヲ行ハシメサルモノトス	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
四 初年兵ノ第六習會第二年兵ノ第五、第六習會ハ戰關射擊ヲ以テ之ニ代 フルコトヲ得	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
五 各部幹部候補生ニハ初年兵ノ第一乃至第三習會ヲ射擊ニシメ自動車手ニハ陸 軍自動車學校ヨリ歸隊後初年兵ノ第一乃至第四習會ヲ射擊セシムルモノトス	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
伏	伏	伏	伏	三發伏
伏	伏	膝	膝	膝畫的
伏	伏	膝	膝	人像人像
的	的	的	的	人像
五	五	五	五	二一
五	五	五	五	二一
五	五	五	五	二一
年	間	顯	顯	顯
兵	士	顯	顯	顯
ハ	官	顯	顯	顯
八	、	顯	顯	顯
秒	下	顯	顯	顯
	士	顯	顯	顯
	ハ	顯	顯	顯
	七	顯	顯	顯
	秒	顯	顯	顯
	、	顯	顯	顯
	第	顯	顯	顯
	二	顯	顯	顯
	回	顯	顯	顯
	ノ	顯	顯	顯
	現	顯	顯	顯
	出	顯	顯	顯
	時	顯	顯	顯
	間	顯	顯	顯
	十	顯	顯	顯
	秒	顯	顯	顯
	ノ	顯	顯	顯
	現	顯	顯	顯
	出	顯	顯	顯
	時	顯	顯	顯

機者) 役備後豫	役						
	短期現役兵	各部幹部候補生	幹部候補生	士官候補生	兵卒 <small>(第一年兵)</small>	銃關機 <small>(下士)</small>	士官、准士官
後豫 二〇 二五	一五	四五	二〇	七五	八五	二五	二〇
兵卒 二五		五〇	三〇	七〇	七〇	三〇	
		二〇	二〇	二〇	二〇		
		二〇		一〇〇	一六〇		
		一〇		一五			
					一八	一八	一八
○包 チ一 支〇 給、 ス小 銃 空 包 五							拳銃實包ハ銃隊 ニ付三人トス

秋季演習ニ召集セラ
レタル者ニハ小銃實
包ヲ給ス

現									
工卒(修業 者ヲ含ム) 及専務卒 <small>(初年兵)</small>	銃手 <small>(初年兵)</small>	輕機關 <small>(初年兵)</small>	小銃手 <small>(初年兵 第二年兵)</small>		第 一 年 候 補 者	輕 機 關 銃 掛 下 士	下 士 <small>(輕機關銃 掛ヲ除ク)</small>	少 尉 候 補 者	見 習 士 官
			七五	二〇					
五〇	五〇	五〇	一三	一〇〇	二〇	三〇	三〇		
二五	一〇	二〇	五〇	三〇	五〇	一〇	一〇		
		三八	二六	〇	一〇〇	一八〇		六〇	
		一八				一八		一八	
			給ス 特別射手ハ中隊ニ付 各年次十人ツツトス				中隊ニ付三人トス		

第二年兵特別射手ニ
ハ小銃實包一〇、
初年兵特別射手ニハ
小銃實包一五ヲ支
給ス

中隊(機關銃隊ヲ除ク)ニ		聯隊ニ	
備考	關銃實包	小銃及輕機	檢閱射擊ノ爲
近衛歩兵聯隊ニハ計五萬一千三百發ヲ支給ス其使用區分ニ就キテハ一般歩兵聯隊ノモノニ準スルモノトス	特別射擊、在營年限短縮ノ適用ヲ受ケサル者ノ射擊及其他ノ射擊ノ爲	實驗射擊ノ爲	二萬三千四百發
		檢閱射擊ノ爲	二萬發

小銃用 五百發
輕機關銃用 三百發
輕機關銃觀測教育ノ爲 六百發
小銃及輕機關銃實包 一銃ニ付 百二十發

考 備	充役 補兵	(ノ隊銃關 ク除チ)		
		銃 下 士、兵 卒	豫 備 役 輕 機 關	
一 本表ハ一年(一召集期間)一人分ノ支給數トシ現役ノ者ニハ定員、其他ノ者ニハ現員ニ從ヒ支給ス但見習士官、少尉候補者、下士候補者、士官候補生、幹部候補生、各部幹部候補生、短期現役兵ニハ現員ニ從ヒ支給シ學校分遣者ハ之ヲ控除スルモノトス 二 獨立守備隊ノ者ニ對スル輕機關銃實包、拳銃實包及歩兵第七十三乃至第七十八聯隊ノ增加定員ノモノニ對スル輕機關銃實包支給數ハ別ニ定ムルトコロニ據ル	勤務演習召集者	教育召集者	秋季演習ニ召集セラル者ニハ小銃實包ヲ支給セス輕機關銃實包六〇〇ヲ支給ス	
	二五	五〇	一五 兵卒 一〇	六〇 四〇
	二五	四〇	二〇	

第三十五表ノ外聯隊及中隊ニ左ノ如ク支給ス但獨立守備隊及歩兵第七十三乃至第七十八聯隊ノ增加定員ニ對スル支給彈藥ノ定數ハ別ニ定ムルトコロニ據ル

步兵隊支
給彈藥使
用區分
第三十六表

機關銃隊ニ	輕機關銃 空包	聯隊長ニ於テ適宜其使用 區分ヲ定ム	一萬三千五百發
	十年式手投演習用曳火 手榴彈〔彈體(藥室共) ヲ除ク〕		五十發
	演習用手榴彈藥筒		二十發
小銃 實包	命中試驗ノ爲		二百五十發
被鋼 實包	小銃 用		二百發

第二百十八 步兵隊個人支給彈藥ノ使用區分第三十六表ノ如シ

〔第三十六表ハ末尾步兵隊射擊教育
規定第十二ノ通り改正ニ付削除ス〕

步兵隊	連長	副連長	班長	副班長	兵
...

現					機 關		銃 隊		外 以		
見習士官、少尉候補者		下 士	兵 卒	輕機關銃掛士官、准士官	輕機關銃掛下士	輕機關銃掛士官、准士官	輕機關銃掛下士	機 關 銃 掛 下 士	機 關 銃 掛 下 士	機 關 銃 掛 下 士	
三五	七五	一〇	八五	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	三〇	五五	五五	二〇			二五				
	一〇	二〇	二〇	二〇			一〇				
五〇				二〇	一八〇	二六〇	三八〇				
二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	
輕機關銃實包ハ機關銃及		輕隊ヲ有スル聯隊ノ者ニ支給ス		拳銃實包ハ拳銃携帯者ニ支給ス							

騎兵隊個人支給彈藥定數表		役 種 階 級	要
五五	二四	士官、准士官	摘
		小銃實包	
		小銃空包	
		狹窄射擊實包	
		輕機關銃實包	
		拳銃實包	

騎兵隊 第二百十九 騎兵隊射擊教育ノ爲毎年支給スヘキ彈藥ノ定數ヲ次ノ如ク定支給彈藥定數 騎兵隊個人支給彈藥ノ定數第三十七表ノ如シ 第三十七表

考				
關機輕	包實銃	小	近衛騎兵聯隊	二千八百發
關包	機實	輕銃	機關銃隊ヲ有スル騎兵聯隊及 輕機關銃ヲ有スル騎兵聯隊	四千發
		包	其他ノ騎兵聯隊	二千三百發
		實	特別射擊、實驗射 擊及其他ノ射擊ノ 爲	二千三百發
		銃		三千發

第三十七表ノ外聯隊及中隊ニ左ノ如ク支給ス
聯隊ニ

モノトス
二 本表ノ外機關銃隊ヲ有スル聯隊及輕機關銃ヲ有スル聯隊ノ一般中隊ノ
下士候補者ニハ第一年度ニ輕機關銃實包六〇ヲ現員ニ從ヒ支給ス
三 本表ノ外軍隊教育令附表第四備考第三ニ據ル輕機關銃被教育者ニハ輕
機關銃實包一〇〇ヲ支給ス

備	役備後豫		考				
	機銃 關隊	銃外 機隊	各 部 幹 部 候 補 生	幹 部 候 補 生	士 官 候 補 生	機 關 銃 手 初 年 兵	機 關 銃 第 二 年 兵
一 本表ハ一年(一召集期間)一人分ノ支給數トシ現役ノ者ニハ、定員其他 ノ者ニハ現員ニ從ヒ支給ス但見習士官、少尉候補者、士官候補生、幹部 候補生、各部幹部候補生ニハ現員ニ從ヒ支給シ學校分遣者ハ之ヲ控除スル	豫備役輕機關銃 士官以下	下士、兵卒	二〇	六五	七五	二〇	二〇
		豫二〇兵卒 後一五	二〇	五〇	五〇	二五	二〇
			二〇	二〇	二〇	一〇	一〇
			五〇	五〇	一一〇		
				二四	二四	二四	二四

輕機關銃實包ハ機關
銃隊ヲ有スル聯隊及
輕機關銃ヲ有スル聯
隊ノ者ニ支給ス

分隊戰鬥射擊	各個戰鬥射擊	射擊種類	騎兵隊個人支給彈藥使用區分表	騎兵隊個人支給彈藥使用區分第三十八表			
				輕機關銃空包	被鋼實包	輕機關銃實包	小銃實包
第二年兵、初年兵	現役下士、初年兵、士官候補生 幹部候補生	使	騎兵隊個人支給彈藥使用區分表	區分ヲ定ム	聯隊長ニ於テ適宜其使用	小銃 命 觀測教育ノ爲	命 中 試 驗 ノ 爲
一人十五發 各人一回	一人二十發 各人一回 一人十發 各人一回	用	第三十八表	一萬二千發	一銃ニ付百二十發	二百發	二百發

機關銃隊ニ

鋼被包	包實銃小	中隊(機關銃隊ヲ除ク)ニ	
		鋼被包	機關銃空包
各騎兵聯隊ノ中隊	近衛騎兵聯隊ノ中隊 機關銃隊ヲ有スル騎兵聯隊及 輕機關銃ヲ有スル騎兵聯隊ノ 中隊 其他ノ騎兵聯隊ノ中隊	各騎兵聯隊ノ中隊	機關銃ヲ有スル騎兵聯隊
百發	六百發	四百發	二千四百發
四百五十發	四百發	四百八十發	

銃	實		種 彈 類 藥
	備役	現役	
	下士、兵 一五	士官以下 一五	戰車隊
	下士、兵 一〇	士官、下士、勤務上等兵 一〇	野戰重砲隊、野砲隊、高砲隊
	下士、兵 一〇	士官、下士、勤務上等兵 一〇	騎砲兵隊
	下士、兵 一五	士官以下 一五	重砲兵隊
	下士、兵 一五	士官以下 三五	工兵隊
	下士、兵 一〇	士官以下 三〇	鐵道隊、電信隊、電氣隊
		士官以下 三〇	飛行隊
		士官以下 三〇	氣球隊
	下士、兵 一〇	士官以下 三五	輜重兵隊

步兵隊、騎兵隊以外ノ諸隊ノ個人支給彈藥定數表

第三十九表
歩騎兵以外ノ諸隊ノ個人支給彈藥ノ定數ヲ次ノ如ク定ム
歩兵隊、騎兵隊以外ノ諸隊ノ個人支給彈藥ノ定數第三十九表ノ如シ

考 備	銃 關 機 輕		銃
	分隊戰闘射擊	各個戰闘射擊	
一 本表中「現役下士」、「第二年兵」、「初年兵」トハ小銃ニ在リテハ機關銃隊以外ノ者ヲ、輕機關銃ニ在リテハ機關銃隊ノ輕機關銃掛又ハ輕機關銃手ヲ指スモノトス	初年兵	現役下士、初年兵、士官候補生	第二年兵
二 小銃空包ハ聯隊長ニ於テ適宜其使用區分ヲ定ムルモノトス	第二年兵		
三 狹窄射擊實包ハ習會及其他ノ射擊ニ用フルモノトス	初年兵		
四 拳銃實包ハ習會ノ射擊ニ用フルモノトス	初年兵		
五 士官候補生、幹部候補生ノ小銃分隊又ハ小隊戰闘射擊ノ爲ノ使用彈ハ一人十五發、各人一回トス	初年兵		

基本射擊
戰闘射擊用彈藥ヲ除キタル殘餘ノ小銃及輕機關銃實包全部ヲ充用ス

小隊戰闘射擊
第二年兵 一人二十發 各人一回

各個戰闘射擊
初年兵 一人六十發 各人一回
士官候補生 一人四十發 各人一回

分隊戰闘射擊
初年兵 一人九十發 各人一回
第二年兵 一人七十五發 各人一回

空包	小銃	包		現役	現役	現役	現役
		銃	拳				
現役	現役	現役	現役	現役	現役	現役	現役
二兵卒	二兵卒	士官以下	士官以下	一兵卒	一兵卒	一兵卒	一兵卒
〇	〇	士官、勤務、伍長、兵、銃、携、帶	士官以下	〇	〇	〇	〇
兵卒	兵卒			一〇	一〇	一〇	一〇
〇	〇			〇	〇	〇	〇
兵卒	兵卒	電氣中隊	電氣中隊	一〇	一〇	一〇	一〇
〇	〇	士官以下	士官以下	〇	〇	〇	〇
兵卒	兵卒	士官、勤務、伍長、兵、銃、携、帶	士官、勤務、伍長、兵、銃、携、帶	一〇	一〇	一〇	一〇
〇	〇			〇	〇	〇	〇
兵卒	兵卒	士官、勤務、伍長、兵、銃、携、帶	士官、勤務、伍長、兵、銃、携、帶	一〇	一〇	一〇	一〇
〇	〇			〇	〇	〇	〇

考	備	補充兵教	補充兵教
	一、本表ハ一年(一召集期間)一人分ノ支給數トシ現役ノ者ニハ定員、其他ノ者ニハ現員ニ從ヒ支給ス但軍隊、學校分遣者ハ之ヲ控除スルモノトス	一〇	一〇
	二、補充兵役ノ部「教」ハ教育召集者、「勤」ハ勤務演習召集者トス	〇	〇
	三、准士官、見習士官、少尉候補者ニハ士官ト同數ヲ支給ス	〇	〇
	四、氣球隊ノ自動車手、繫留車手ニハ小銃彈藥ヲ支給セス	〇	〇
	五、輻重兵隊ノ自動車手ニハ本表ノ外第二年度(陸軍自動車學校ヨリ歸隊後)ニ小銃實包二〇、拳銃實包一八ヲ支給ス	〇	〇
	六、士官候補生ニハ現役兵卒ト同數ヲ支給ス但野、山砲、野戰重砲兵隊ノ者ニハ下士ト同數トス又輻重兵隊ノ者ニハ別ニ拳銃實包一二ヲ支給ス	〇	〇
	七、幹部候補生ニハ現役兵卒ト同數ヲ支給ス但野、山砲、野戰重砲兵隊、高射砲隊及騎砲兵隊ノ者ニハ下士ト同數トス又氣球隊及輻重兵隊ノ者ニハ別ニ拳銃實包一二ヲ支給ス	〇	〇
	八、各部幹部候補生ニハ兵卒ト同數ヲ支給ス但野、山砲、野戰重砲兵隊、高射砲隊及騎砲兵隊ノ者ニハ下士ト同數トシ拳銃實包ヲ支給セス又輻重兵隊ノ者ノ小銃實包支給數ハ一五トス	〇	〇

第三十九表ノ外歩兵隊、騎兵隊以外ノ諸隊(野戰砲兵隊及高射砲隊ヲ除ク)ノ中隊ニ左ノ如ク支給ス

工兵隊ノ中隊	重砲兵隊ノ中隊	戰車隊ノ中隊	演習用手榴彈藥筒	
	小銃實包	被鋼實包	被鋼實包	小銃實包
	命中試驗ノ爲	命中試驗ノ爲	命中試驗及其他ノ射擊ノ爲	命中試驗ノ爲
	五十發	五十發	六十發	五十發
	百發	百發	五十發	二十發
	六十發	五十發	五十發	二十發

歩騎兵以外ノ諸隊ノ個人支給ノ外、給用區分ノ射擊藥ノ流用

第二十二 歩兵隊、騎兵隊以外ノ諸隊ノ個人支給彈藥ノ小銃實包ハ基本射擊及試驗等ニ使用スルモノトス但工兵隊ニ在リテハ兵卒一人十發ツツヲ戰闘射擊ニ使用スヘシ又小銃空包ハ射擊豫行演習及野外演習等ニ、狹窄射擊實包ハ歩兵隊、騎兵隊狹窄射擊習會表(第九表)ニ準シ、拳銃實包ハ習會ノ射擊ニ使用スルモノトス

第二十三 戰闘射擊ノ彈藥ハ他ノ射擊ニ流用スルヲ得ス但輕機關銃射擊ト小銃射擊トノ間ニ於テハ之ヲ流用スルコトヲ得其他ノ射擊ニ於テ彈藥ニ剩餘ヲ生シタルトキハ適宜ニ之ヲ使用シ射擊教育ヲ完全ナラシムヘシ若已ムヲ

輜重兵隊ノ中隊	鐵道隊、電信隊ノ中隊及電氣中隊	氣球隊ノ中隊	輜重兵隊ノ中隊	
	小銃實包	被鋼實包	小銃實包	被鋼實包
	命中試驗ノ爲	命中試驗ノ爲	命中試驗ノ爲	命中試驗ノ爲
	三百發	二百發	五十發	三百發
	百發	二百發	三十發	百發

射擊手簿
運付書類

得ス次年度ニ繰越シタル剩餘彈アルトキモ亦此規定ニ從ヒ使用スヘキモノト
ス
第二百二十四 聯隊(獨立隊ヲ含ム以下同シ)及大隊本部附士官、下士ニ支給
スヘキ彈藥ハ之ヲ其配屬セレタル中隊ニ配與スルモノトス

第二章 記 録

第二百二十五 射擊手簿ハ步兵隊、騎兵隊ノ射手全員(步兵機關銃隊ノ者、
騎兵隊ノ機關銃手、勤務演習召集者及教育召集補充兵ヲ除ク)ニ所持セシム
モノトス

第二百二十六 步兵隊、騎兵隊ノ中隊ニハ左ノ書類ヲ備フヘシ
一 射擊成績原簿
本簿ハ士官(准士官、見習士官、少尉候補者ヲ含ム)、下士、兵卒(年次
及分業別)ニ區分シ射擊手簿ノ一片ヲ之ニ貼付シテ一冊ニ綴ル

二 射擊成績一覽表

射擊教育ノ參考ニ資スル爲適宜ノ様式ヲ以テ内務班毎ニ射擊成績一覽表
ヲ作製シ之ニ各射手ノ射擊手簿ノ一片ヲ貼付シ一覽ニ便ナラシム

三 射擊成績綴
射擊手簿ヲ有セサル步兵機關銃隊ノ者、騎兵隊ノ機關銃手、勤務演習召
集者及教育召集補充兵ノ成績ハ射擊場ニ於テ適宜ノ用紙ニ命中點數、彈
著、發射彈、總點、合否等ヲ登記シ射擊終了後中隊長ノ點檢ヲ受ケ綴リ
置クモノトス

記錄保存

四 命中試驗成績表
五 部隊戰鬪射擊計畫及實施表
步兵隊、騎兵隊以外ノ諸隊ノ中隊ニ於テハ右ニ準シ第三、第四號(工兵隊、
輜重兵隊ニ在リテハ第五號ヲモ)書類ヲ備フルモノトス

第二百二十七 步兵及騎兵ノ聯、大隊ハ檢閱射擊、實驗射擊其他特ニ實施セ
シ射擊ノ記錄ヲ調製シ之ヲ保存スルモノトス

第二百二十八 中隊長ハ基本射擊、特別射擊、各個戰鬪射擊ノ中隊平均得點
ヲ射擊終了後ニ大隊(大隊ヲ成ササル隊ハ聯隊)長ニ報告シ且射擊成績一覽表
ヲ提出シテ之カ點檢ヲ受クルモノトス

第二百二十九 中隊長ハ毎年射擊教育終了後射擊教育及兵器ニ關スル意見ニ
彈藥射耗報告(附表第十二)ヲ添ヘ聯隊長ニ報告ス

第二百三十 聯隊長ハ射擊教育及兵器ニ關スル意見ニ彈藥射耗報告ヲ添ヘ旅
(師)團長ニ報告ス

第二百三十一 旅團長ハ各聯隊長ノ報告ニ意見ヲ附シ師團長ニ報告ス
第二百三十二 師團長ハ部下團隊長ノ報告ニ意見ヲ附シ十二月盡日マテニ之
ヲ教育總監ニ進達ス

第二百三十三 師團長ハ第五ニ據リ本教範ノ規定ニ所要ノ變更ヲ加ヘタルト
キハ之ニ關シ適時教育總監ニ進達スルモノトス

實施者

- 第五篇 拳銃射擊**
- 第二百三十四 拳銃射擊教育ニ在リテハ自衛ノ爲射擊シ得ルノ能力ヲ與フルヲ要ス
- 第二百三十五 拳銃射擊ヲ實施スヘキ者次ノ如シ
- 一 步兵隊 現役士官及准士官(中隊ニ付一人)、見習士官、少尉候補者、輕機關銃掛下士、輕機關銃手、士官候補生
 - 二 機關銃隊 現役士官及准士官(銃隊ニ付三人)、下士、兵卒
 - 三 戰車隊 現役士官以下、幹部候補生
 - 四 騎兵隊 現役士官、准士官、見習士官、少尉候補者、下士兵卒拳銃攜帶者、士官候補生、幹部候補生
 - 五 一般中隊 現役士官、准士官、見習士官、少尉候補者、下士兵卒拳銃攜帶者、士官候補生、幹部候補生
 - 六 野戰重砲兵隊及高射砲隊 現役士官、准士官、見習士官、少尉候補者、下士、伍長勤務上等兵、兵卒拳銃攜帶者、士官候補生、幹部候補生
 - 七 騎砲兵隊 現役士官以下、幹部候補生
 - 八 電氣中隊 現役士官以下、幹部候補生
 - 九 飛行隊 現役士官以下、士官候補生、幹部候補生

據銃、照準、擊發ノ操作

教育 照準點

- 八 氣球隊 現役士官、准士官、見習士官、少尉候補者、下士兵卒拳銃攜帶者、自動車手、繫留車手、幹部候補生
 - 九 輜重兵隊 現役士官、准士官、見習士官、少尉候補者、下士兵卒拳銃攜帶者、自動車手(第一年度陸軍自動車學校ヨリ歸隊後)、士官候補生、幹部候補生
- 第二百三十六 據銃、照準及擊發ノ操作左ノ如シ
- 射擊姿勢ヲ取リ拳銃ヲ目標ニ向ケ右臂ヲ少シク曲ケ食指ノ第二節ヲ引鐵ニ掛ケ頭ヲ傾ケルコトナク照準ス此際身體ヲ堅確ニ保ツヲ要スト雖決シテ凝ルヘカラス肩及肘ニ於テ特ニ然リトス
- 照準、擊發ノ要領ハ小銃射擊ニ準ス
- 急射ヲ行フニハ擊發後拳銃ノ位置ヲ變フルコトナク連續發射ス
- 第二百三十七 最初照準、擊發ノ動作ヲ教育スルニハ銃ヲ托架ニ依托シテ行ハシムルヲ要ス
- 第二百三十八 二十六年式拳銃ノ射擊ニ於ケル照準點第四十表ノ如シ
- 第四十表

距離(米)	照準點(糧)	距離(米)	照準點(糧)
一〇	下方	一	上方
六〇		五九	

二十六年式拳銃射擊ニ於ケル照準點(命中セシメントスル點ヨリ離隔スヘキ量)

習會表

第二百三十九 步兵隊、騎兵隊、野戰砲兵隊、高射砲隊、電氣中隊、飛行隊、氣球隊及輜重兵隊ニ於ケル拳銃射撃ハ第四十一表、戰車隊ニ於ケル拳銃射撃ハ第四十二表ニ準シ實施スヘシ

二〇	上方	二	七〇	上方	八四
三〇	上方	一〇	八〇	上方	一一三
四〇	上方	二二	九〇	上方	一四七
五〇	上方	三八	一〇〇	上方	一八五

第四十一表ハ末尾歩兵隊射撃教育規定附表第十一ノ通り改正ニ付削除ス

第四十二表

戰車隊拳銃射撃習會表

初	種類	射手	習會	距離	姿勢	標的	發射	摘	要
二	一	二〇	依	立	立的	六	二發ツツ連續發射ス		
			托	立	圈的	六	ス單發トシ一發ツツ裝填		

實施射擊
 二百四十一
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十二
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十三
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十四
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十五
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十六
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十七
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十八
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十九
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百五十
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス

危險豫防
 二百四十一
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十二
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十三
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十四
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十五
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十六
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十七
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十八
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百四十九
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス
 二百五十
 拳銃射擊ハ通常基本射擊場ニ於テ實施スルモノトス

備考	士官及 下年二第				兵年	
	四	三	二	一	四	三
幹部候補生ニハ初年兵ト同様ノ習會ヲ射擊セシムルモノトス	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
	車上車長砲塔	車上車長砲塔	車上車長砲塔	立	車上操縱著座	車上操縱著座
	膝的	膝的	立的	圈的	膝的	立的
	六	六	六	六	六	六
	十秒以内ニ扉ヲ開キ二 發ヲ發射シ扉ヲ閉ツ	但時間ハ八秒以内トス	初年兵第三習會ニ同シ 但時間ハ五秒以内トス	二發ツツ連續發射ス	第三習會ニ同シ但時間 ハ十秒以内トス	八秒以内ニ扉ヲ開キ一 發ヲ發射シ扉ヲ閉ツ

射擊成績
 二百四十三
 中隊ハ適宜拳銃射擊成績表ヲ調製スルモノトス

小銃、輕機關銃、拳銃射擊教範	ハ杉板約三種、砂約三十種ナリ			
	四	三	二	一
	二〇	二〇	二〇	二〇
	車上車長砲塔	車上車長砲塔	車上車長砲塔	立
	膝的	膝的	立的	圈的
	六	六	六	六
	十秒以内ニ扉ヲ開キ二 發ヲ發射シ扉ヲ閉ツ	但時間ハ八秒以内トス	初年兵第三習會ニ同シ 但時間ハ五秒以内トス	二發ツツ連續發射ス

者ルス準ニ之位兵						
賞				習		
十	九	八	七	六	五	四
				五		四
	四	三	二	一		四
四		三	二	一		四
	七		六	五		四
			五	四		三
			六	五		四
三〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
伏	伏	膝	伏	伏	立射 胸塔 依托	伏 依托
伏的	伏的	膝的	膝的	頭の	頭の	頭の
五	五	五	五	五	五	六
五	一〇	一人 三像	一人 六像	一五	一六	乙
						丙
キ卅 伏米 射早 シ三十 テ秒 装以 填射 シ内 五立 發位 發置 射ニ 著	間 六顯 秒的 ニシ テ一 回ノ 現出 時	射 擊時 間一 發七 秒	射 擊時 間一 發八 秒 (据銃 時)			其集 採合 點彈 標探 準點 左銀 ノチ 如以 シテ 採點 ス

年 初			類種手射	類種擊射	附錄第一表
三	二	一	小	輕	小銃、輕機關銃、拳銃射擊教範附錄
三	二	一	初	工	其一 營內射擊場ヲ併用スル步兵隊射擊教育ニ關スル特別規定
三	二	一	初	機	營內射擊場ヲ併用スル步兵隊ノ基本射擊ハ附錄第一表ニ據リ實施スヘシ
三	二	一	候	士	
三	二	一	候	幹	
三	二	一	候	部	
三	二	一	現	各	
三	二	一	補	短	
二〇〇	一〇〇	一〇〇	距	教	
膝	伏	伏	(米)	勢	
圓的	圓的	圓的	姿	的	
五	五	五	標	彈	
二〇	二五	乙	射	初	
一六	二一	丙	發	初	
			小		
			機		
			摘		
			要		
			其集 採合 點彈 標探 準點 左銀 ノチ 如以 シテ 採點 ス		
			三三三三 十十十十 糧糧糧糧 銀銀銀銀 內內內內 ニニニニ 二三四五 發發發發 以下		
			丁丙乙甲		

附錄第一表 營內射擊場ヲ併用スル步兵隊ノ基本射擊ハ附錄第一表ニ據リ實施スヘシ

類種手射		兵 年 二 第 及			
初年兵	習會	六	五	四	三
	順次	六	五	四	三
第二年兵	習會				
	順次				
(米)離距		四〇〇	四〇〇	一〇〇	三〇〇
勢 姿		伏	伏	伏	膝四 伏二發
的 標		膝的	的膝	伏的	伏的
彈 射 發		五	五	五	六
合格標準 (點數)		一〇	一六 二二 二二	一〇	一〇
摘 要		射擊時間一發七秒	人像 人像 人像	發射(豫メ裝填ス)	士官、下士ハ一分三十秒、內小銃ヨリ三分四十秒、內立置ニシテ發射シテ、裝填ニシテ發射シテ、換テ發射シテ、手限セテ及專務ハ輕機ヲ銃

士 下 官 士		類種手射		習	
二	一	官士	士下	三	士
		二	小		五
二	一	二專	輕工		
(米)離距		四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
勢 姿		伏	伏	伏	伏
的 標		膝的	膝的	膝的	膝的
彈 射 發		五	五	五	五
合格標準 (點數)		一〇	一〇	一〇	一〇
摘 要		射擊時間一發七秒	人像 人像 人像	發射(豫メ裝填ス)	士官、下士ハ一分三十秒、內小銃ヨリ三分四十秒、內立置ニシテ發射シテ、裝填ニシテ發射シテ、換テ發射シテ、手限セテ及專務ハ輕機ヲ銃

特 別 射 手

一	集 合 彈 探 點 銀 子 以 探 點 平 均 點 照 準 點 (照 準 點 射 彈 標 的 內 二)	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
二	初 射 擊 之 準 者 之 決 定 之 限 制 時 間 內 射 擊 時 間 之 指 導 上	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
三	早 距 離 之 準 者 之 決 定 之 限 制 時 間 內 射 擊 時 間 之 指 導 上	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
四	初 年 兵 之 準 者 之 決 定 之 限 制 時 間 內 射 擊 時 間 之 指 導 上	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇

伏的ヲ現出シ一分ノ後之ヲ倒スト同時ニ同一ノ場所ニ膝的ヲ現出シ三十秒ノ後之ヲ倒ス各的ニ對シ五發ツツ發射(豫メ五發裝填ス)

隱顯的ニシテ十秒ツツ三回現出セシメ其間七發發射(豫メ二發裝填ス)

附 錄 第 一 表 其 二

六	人 像 的 ノ 命 中 彈 ハ 一 發 五 點 ト ス
五	習 會 順 次 及 合 格 標 準 欄 中 ノ 略 稱 ハ 左 ノ 如 シ
四	小 初 (一) 小 銃 手 タ ル 初 年 兵 (第 二 年 兵) 輕 初 (二) 輕 機 關 銃 手 タ ル 初 年 兵 (第 二 年 兵) 工 專 工 卒 (修 業 者 ナ 含 ム) 及 專 務 卒 機 初 機 關 銃 隊 補 生 短 現 短 期 現 役 兵 教 補 教 育 召 集 補 充 兵 各 部 幹 候 各 部 幹 部 候 補 生 短 現 短 期 現 役 兵 教 補 教 育 召 集 補 充 兵 各 部 幹 候 各 部 幹 部 候
三	見 習 士 官 ハ 士 官 ノ 內 二 含 ム ト ス
二	輕 機 關 銃 掛 下 士 二 ハ 其 技 能 二 應 シ 士 官 、 下 士 ノ 習 會 中 適 宜 ノ 四 習 會 ヲ 射 擊
一	機 關 銃 隊 士 官 、 准 士 官 及 下 士 二 ハ 其 技 能 二 應 シ 士 官 、 下 士 ノ 習 會 中 適 宜 ノ
十	三 習 會 ヲ 射 擊 セ シ ム ル モ ノ ト ス
十一	距 離 四 百 米 ノ 習 會 ハ 野 外 二 於 テ 適 宜 行 フ モ ノ ト ス
十二	基 本 射 擊 二 用 フ ル 標 的 ハ 附 圖 第 二 乃 至 第 五 、 其 他 ノ 射 擊 用 具 ハ 附 圖 第 六
乃 至 第 九 ノ 如 シ	

營內射擊場 步兵隊勤務演習召集者小銃基本射擊習會表

		類種手射	習會順次 ヲ併用スル	營內射擊場 步兵隊輕機關銃基本射擊習會表
二	一	兵年初 候士下 候幹短 現短		
		(米)離距		
		的標		
		彈射發		
		法射		
		準標格合 數點)		
		摘		
		要		

附錄第一表 其三

考		
三	四	五
集會順次及合格標準關中ノ略稱ハ左ノ如シ	豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵
豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵
豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵
豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵
豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵
豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵
豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵
豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵	豫備役輕機關銃下士、兵

備				
四	(三)	(二)	一	兵下小豫
				兵下輕豫
				兵下後補
				(米)離距
				勢姿
				的標
				彈射發
				合格標準(點數)
				兵下小豫
				兵下後補
				摘
				要

一 集合彈探點銃ヲ以テ探點スル習會ハ同一照準點(照準點ハ射彈ヲ標の内ニ
 二 收容スル爲モ各銃ノ平均點線ヲ同一照準點シ指示スルコトヲ得)ニ對シ連
 續射擊ノ命中心彈ハ一發五點トス

其集合探點銃ヲ以テ探點ス
 三三三三
 十十十十
 糶糶糶糶
 内内内内
 二二三四
 發發發發
 以下丙乙甲

士下官士		種類手射	者ル	
		習會順次	十七	九六
二	一			
二〇〇	二〇〇	(米)離距	二〇〇	五〇
的大圈	的大圈	的標	的大圈	的散兵
一五	五	彈射發	一五	二五
回點射ノ反復	點射一回	法射	連續點射	移動ノ射
三〇	甲	官士(合格標準)	一八	區劃一二四
二五	乙	士下(點數)		
據銃後	其集	摘	二	一
五五五五	採合		射	據銃後
十十十十	探彈		爲別	爲別
内内内内	標探		ニ發	ニ發
ニニニニ	準點		ヲ支	ヲ支
發發發發	左ノ		給シ	給シ
以下	如シ		試射	試射
丁丙乙甲	テ探	要		
	點ス			

ス準ニ之位兵年初					
八	七	六	五	四	三
	五	四	三		二
					二
三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇
膝的	頭的大圈	頭的大圈	的大圈	的大圈	的大圈
一五	一五	五	一〇	五	五
回點射ノ反復	回點射ノ反復	點射一回	回點射ノ反復	點射一回	點射一回
一〇	一七	丙	一五	一六	
二	一	其集	ニ射	據銃後	其集
二十	二十	採合	據銃後	(據銃時間ヲ含ム)	採合
裝填シ置キテ標的ヲ現	隱顯的ニシテ現出時間	探彈	ニ發	ヲ支	探彈
		準點	ヲ支	給シ	準點
		左ノ	給シ	試射	左ノ
		如シ	試射		如シ
		テ探			テ探
		點ス			點ス

役備豫	種類手射	附錄第一表 其四	考
一	次順會習	營內射擊場 歩兵隊勤務演習召集者輕機關銃基本射擊習會表	七 多 少ハ之ヲ問ハサルモノトス 習會順次欄中ノ略稱ハ左ノ如シ 士候 士官候補者 幹候 幹部候補生 短現 短期
一〇〇	(米)離距		八 准 現士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス 見習士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス 准士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス
大圈的	的標		九 圖 基本射擊ニ用フル標的ハ附圖第五及第十乃至第十三、其他ノ射擊用具ハ附圖第六乃至第九ノ如シ
五	彈射發		十 點射一回
乙	準標格合 (數點)		摘 點集 標合 準彈探 左探點 ノ如鑽 チ以テ 探點ス 其探
三 十 糧 鑽 内 ニ 發 以下	要		三 十 糧 鑽 内 ニ 發 以下

備	兵年二第及
一 ハ 初年兵ノ第一乃至第三及第六習會、士官、下士及第二年兵ノ第一及第三習會	三 三〇〇 頭大的圈
二 ハ 初年兵ノ第一乃至第三及第六習會、士官、下士及第二年兵ノ第一及第三習會	四 三〇〇 伏的
三 ハ 初年兵ノ第一乃至第三及第六習會、士官、下士及第二年兵ノ第一及第三習會	五 五〇 的區劃
四 ハ 初年兵ノ第一乃至第三及第六習會、士官、下士及第二年兵ノ第一及第三習會	一 五 雜
五 ハ 初年兵ノ第一乃至第三及第六習會、士官、下士及第二年兵ノ第一及第三習會	射 一 三 一 〇
六 ハ 初年兵ノ第一乃至第三及第六習會、士官、下士及第二年兵ノ第一及第三習會	二 ヨリ 後射ス ヨリ 十五秒 以內

年	初	類種手射	類種擊射	類種手射
初	豫	兵年	類種擊射	類種手射
二	一	兵年	類種擊射	類種手射
二	一	候	類種擊射	類種手射
二	一	候	類種擊射	類種手射
一	一	〇〇	距離 (米)	類種手射
〇	〇	〇〇	勢 姿	類種手射
伏	依	伏	的 標	類種手射
園	托	園	彈 射 發	類種手射
的	伏	的	準 標 格 合	類種手射
五	園	的	(數點)	類種手射
五	的	五		類種手射
二	乙		摘	類種手射
二	乙		要	類種手射

附錄第二表 其一

營內射擊場ヲ併用スル
騎兵隊小銃基本射擊習會表

其二 營內射擊場ヲ併用スル騎兵隊、輜重兵隊射擊教育ニ
關スル特別規定

營內射擊場ヲ併用スル騎兵隊ノ基本射擊ハ附錄第二表其一、其二、營內射擊場ヲ併用スル輜重兵隊ノ基本射擊ハ附錄第二表其三ニ據リ實施スヘシ

考 備	卒 兵 士 下 銃 關 機 輕	二	三	四	五
照準第一及第三習會ハ通常黑點ノ下際ヲ照準シ其他ノ習會ハ修正セル照準點ヲモトス	二 〇〇	二 〇〇	(三) 三〇〇	(四) 三〇〇	五 〇
散兵ノ命ニ在リテハ一發ニ關セス各區割內ニ命ヲシタル者ニハ括弧ヲ附シタルヲ以テ一點トス	散兵的	散兵的	的大頭	伏 的	五 〇
人ノ命ニ在リテハ一發ニ關セス各區割內ニ命ヲシタル者ニハ括弧ヲ附シタルヲ以テ一點トス	一 五	一 〇	五	一 五	一 五
制限時ノ間ニ射撃シ得サル射撃ハ總テ零トス	點射ノ移	回點射ノ復	點射一回	回點射ノ復	點射ノ移
制限時ノ間ニ射撃シ得サル射撃ハ總テ零トス	區 割	一 〇	丙	一 〇	九二
制限時ノ間ニ射撃シ得サル射撃ハ總テ零トス	二 〇	一 〇	丙	一 〇	九二
制限時ノ間ニ射撃シ得サル射撃ハ總テ零トス	二 〇	一 〇	丙	一 〇	九二
制限時ノ間ニ射撃シ得サル射撃ハ總テ零トス	二 〇	一 〇	丙	一 〇	九二
制限時ノ間ニ射撃シ得サル射撃ハ總テ零トス	二 〇	一 〇	丙	一 〇	九二
制限時ノ間ニ射撃シ得サル射撃ハ總テ零トス	二 〇	一 〇	丙	一 〇	九二

同銃後ヨリ十五秒以内ニ射擊ス
據銃後ヲ以テ採點ス其探
點合彈ノ點ヲ以テ採點ス其探
點合彈ノ點ヲ以テ採點ス其探
點合彈ノ點ヲ以テ採點ス其探
點合彈ノ點ヲ以テ採點ス其探

年二第及士下官士					類種手射	
六五	四	三	二	一	官士下	習會順次
五	四	三	二	一	二第	兵年
一〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	(米)	離距
伏	四發膝	二發伏	伏	伏	勢姿	
伏	伏	圈頭的	圈頭的	圈的	的標	
五	六	五	五	五	彈射發	
一〇	一〇	一七	甲	二四	官士	合格標準(熟數)
五	五	一三	乙	二〇	二第	兵年
發射豫メ裝填ス					摘	
發射豫メ裝填ス					要	

者ルス準ニ之並兵							
習		實		習			
十五	九四	八三	七二	六一	五	四	三
			二六	一五		四	三
							三
四〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇
依托伏	伏	膝	伏	伏	立射胸	依托伏	膝
膝畫的	伏	膝畫的	膝畫的	圈頭的	圈頭的	圈頭的	圈的
五	五	五	五	五	五	七	五
人像		人像	人像				
八一	五	九一	一一一	一一	一二	乙	一六
間六秒	隱顯的ニシテ一回ノ現出時	射擊時間一發七秒	射擊時間一發八秒(据銃時ヲ含ム以下同シ)			其集	合探
						六六六六	六六六六
						十十十十	十十十十
						櫃櫃櫃櫃	櫃櫃櫃櫃
						內內內內	內內內內
						ニニニニ	ニニニニ
						發發發發	發發發發
						以下	以上
						丁丙乙甲	丁丙乙甲

備	三	二	一	習會順次		兵下後	兵下後	兵下後	兵下後
				兵下後	兵下後				
二 續收 習射容 會擊スル 順次爲 及爲スモ 合格標 準欄中ノ 略稱ハ 左ノ如シ	三〇〇	二三〇〇	一〇〇	姿	距離	距離	距離	距離	距離
	膝	伏	依托伏	的	的	的	的	的	的
	膝畫的	圈頭的	圈的	發	發	發	發	發	發
	五	五	五	像	像	像	像	像	像
	一	一	一	甲	乙	甲	乙	甲	乙
			其合 採彈 點標 準左 右ノ 如シ 發發 發發 以下 丁丙乙甲		摘 要				

附錄第二表其二

營內射擊場 騎兵隊勤務演習召集者小銃基本射擊習會表

考	備	兵	
		七	六
九	一	七	六
八	二	七	六
七	三	四	〇
六	四	〇	〇
五	五	伏	伏
四	六	膝	膝
三	七	的	的
二	八	五	五
一	九	一	一
至第九ノ如シ		射擊時間一發七秒	

九 基本距離四百米ノ習會ハ野外ニ於テ適宜行フモノトス
 八 見習士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス
 七 准士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス
 六 士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス
 五 士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス
 四 士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス
 三 士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス
 二 士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス
 一 士官ハ士官ノ内ニ含ムモノトス

四	三	二				
四	三	二				
六		五		四	三	二
		二				二
三〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
伏	伏	發膝	伏	伏	膝	伏
膝的	伏的	的膝	的膝	的頭	圈的	圈的
五	五	五	五	五	五	五
	一〇	一人像 二一人像 六一像		一六 一二		
五			九一人像	丙	一三	一七
		一人像				二六
間顯的ニシテ一回ノ現出時				其集探合 六六六六 十十十十 糧糧糧糧 鑽鑽鑽鑽 內內內內 二二三四 發發發發 以下	其集探合 三三三三 十十十十 糧糧糧糧 鑽鑽鑽鑽 內內內內 二二三四 發發發發 以下	其集探合 六六六六 十十十十 糧糧糧糧 鑽鑽鑽鑽 內內內內 二二三四 發發發發 以下

一	士下官士	習會順次	管內射擊場 ヲ併用スル	輜重兵隊小銃基本射擊習會表	考
一	兵年二第				
一	兵年初	合格標準(點數)			三 豫下兵豫備役下士、兵卒 豫後備役下士、兵卒後下兵 豫後備役見習士官、後備役下士、兵卒 卒ノ習會中適宜ノ二習會ヲ射擊セシムルモノトス ニハ其技能ニ應シ豫備役下士、兵
一	者集召習演務勤				
一	卒				
一〇〇	(米)離				
一	依托伏				
一	圈的				
一	五				
甲	士下官士				
乙	兵年二第				
丙	兵年初				
乙	者集召習演務勤				
丙	卒				
三三三三	其集探合				
十十十十	探點探點				
糧糧糧糧	糧糧糧糧				
鑽鑽鑽鑽	鑽鑽鑽鑽				
內內內內	內內內內				
二二三四	二二三四				
發發發發	發發發發				
以下	以下				
丁丙乙甲	丁丙乙甲				

考	備	六	五
		六	五
一	集射容スル爲要スレハ各銃ノ平均點躲避ヲ顧慮シ指示スルコトヲ得	三〇〇	三〇〇
二	勤務演習召集者及輪卒ニハ補射ヲ行ハシメサルモノトス	伏	伏
三	初年兵ノ第六習會、第二年兵ノ第五、第六習會ハ戰鬪射撃ヲ以テ之ニ代フ	伏的	伏的
四	各部幹部候補生ニハ初年兵ノ第一乃至第三習會ヲ射撃セシメ自動車手ニハ	五	五
五	陸軍自動車學校ヨリ歸隊後初年兵ノ第一乃至第四習會ヲ射撃セシムルモノトス	五	五
			隱顯的ニシテ一回ノ現出時 間士官、下士ハ七秒、第二 年兵ハ八秒

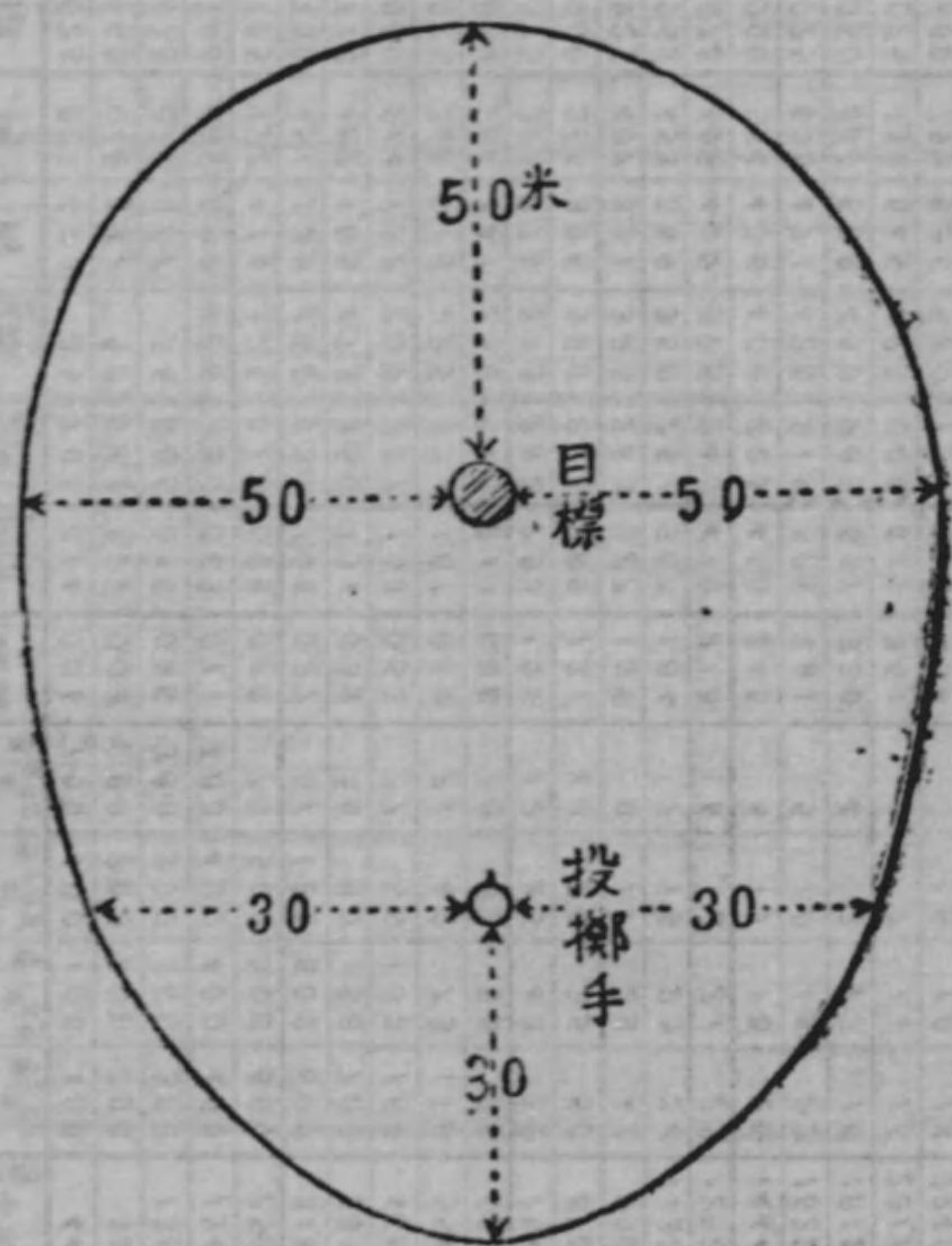
注意 理解

其三 手榴彈使用上ノ注意
 第一 曳火手榴彈ノ使用ヲ適切ナラシムル爲ニハ其性能並構造、機能殊ニ信
 管及炸藥ノ點火要領、火道燃燒時間、安全裝置ノ要領ニ關シ十分理解セシム
 ルコト緊要ナリ
 第二 曳火手榴彈ノ取扱ニ關シ注意スヘキ件左ノ如シ

曳火手榴 彈投擲	監視指導	指導將校	危害豫防
交付ヲ受ケタルトキハ安全栓ノ裝著完全ナリヤ否ヤヲ確ムルコト必要ナリ而 シテ安全栓ハ常ニ其端末ヲ外方九十度ニ開キ置クモノトス 使用ニ先タチ必ス擊針ノ螺入緊定確實ナリヤ否ヤヲ檢スルヲ要ス 使用ノ爲抽出シタル安全栓ノ内若干ハ之ヲ保存シ置キ使用ヲ中止シタル手榴 彈ニハ直ニ安全栓ヲ裝著シ置クモノトス 敵彈ヲ被ル虞アル場合ニ於テハ多數彈ヲ同一箇所ニ集積スヘカラス 第三 曳火手榴彈ノ投擲演習ハ曳火手榴彈ノ性能ヲ知得セシメ且自信力ヲ養 成スル爲價値大ナルモノトス然レトモ使用適切ナラサルトキハ危害ヲ伴フヲ 以テ手投演習用曳火手榴彈ノ使用ニ熟練シタル後之ヲ行フヲ要ス 第四 曳火手榴彈ノ投擲演習ハ必ス將校指導ノ下ニ實施シ所要ノ衛生部員及 火工長ヲ出場セシムヘシ 第五 指導將校ハ投擲手ノ指導ニ任スルノ外危害ノ豫防、彈藥ノ授受、不發 彈ノ處理ニ關シ責任ス 第六 曳火手榴彈ノ投擲演習ニ在リテハ危害ヲ豫防スル爲特ニ左ノ諸件ヲ遵 守スヘシ 投擲壕(掩蓋上ノ積土五十糎以上ノ掩蔽部ヲ有スル掩壕)ニハ指導將校及投擲 手其他指導將校ノ指示スル者ノ外入ルヲ許サス又該構内ニハ彈藥ヲ集積スヘ カラス 指導將校ハ投擲壕ニ示號標ヲ掲ケ且爆發點ヲ中心トシテ半徑六百米ノ地域ヲ 危險區域トシ赤旗ヲ以テ其區域ヲ標示シ警戒兵ヲ配置シテ交通ヲ遮斷ス			

小銃、輕機關銃、拳銃射擊教範附錄終

域區險危彈榴手火曳用習演投手



危險地域	榴彈	演習用手	不發彈
------	----	------	-----

投擲手ハ投擲後直ニ掩蔽部内ニ退避セシム
待機ノ姿勢ニ在ル投擲手ノ爲並彈藥集積ノ爲ニハ投擲壕ニ近ク安全ノ位置ニ
各別ノ掩壕ヲ設ケ投擲壕ト密接ニ連絡セシム
見學者ノ爲ニハ安全ノ位置ヲ選定シ適宜其位置ヲ標示ス
各掩壕内ニハ指揮者ヲ設ケ壕内ニ在ル者ハ投擲間該指揮者ノ命令アルニアラ
サレハ其位置ヲ離ルルヲ得ス
警戒掛ハ指導將校ノ指示ニ基キ投擲演習場ノ警戒ニ任シ警戒兵ヲ監視ス
投擲演習場ニ危險ノ生セントスルトキハ警戒掛ハ速ニ指導將校ニ報告スヘ
シ
第七 不發彈ハ將校及火工長ノ外之ヲ處理スヘカラス
不發彈ハ他ニ移動スルコトナク其位置ニ於テ爆發罐ヲ用ヒ爆發スルモノト
ス
第八 手投演習用曳火手榴彈ハ曳火手榴彈ノ投擲要領特ニ信管ヲ發火セシム
ル要領並投擲ノ時機ヲ教育スルニ有利ナルモノトス
第九 見學者ハ總テ該區域外ニ在ラシムルヲ要ス
トシハ相對セル位置ニ於テ投擲スルコトヲ禁ス
夜間ハ相對セル位置ニ於テ投擲スルコトヲ禁ス
投擲ノ時機及彈體ノ拾得ハ必ス指導將校ノ命令ニ依リテ行フモノトス
撰製手榴彈ヲ以テスル投擲ノ演習ニ於テモ右ニ準シテ危害ヲ豫防スヘシ

三八式步兵

Table with columns for distance (射距) and corresponding values for various conditions. The table is oriented vertically on the page.

式四四 (式六三) 射統制表 (正角切表)

Main data table for the 38-style rifle, containing columns for distance (射距), time of flight (存), direction (方向), and various tactical parameters. The table is oriented vertically on the page.

步兵

步兵

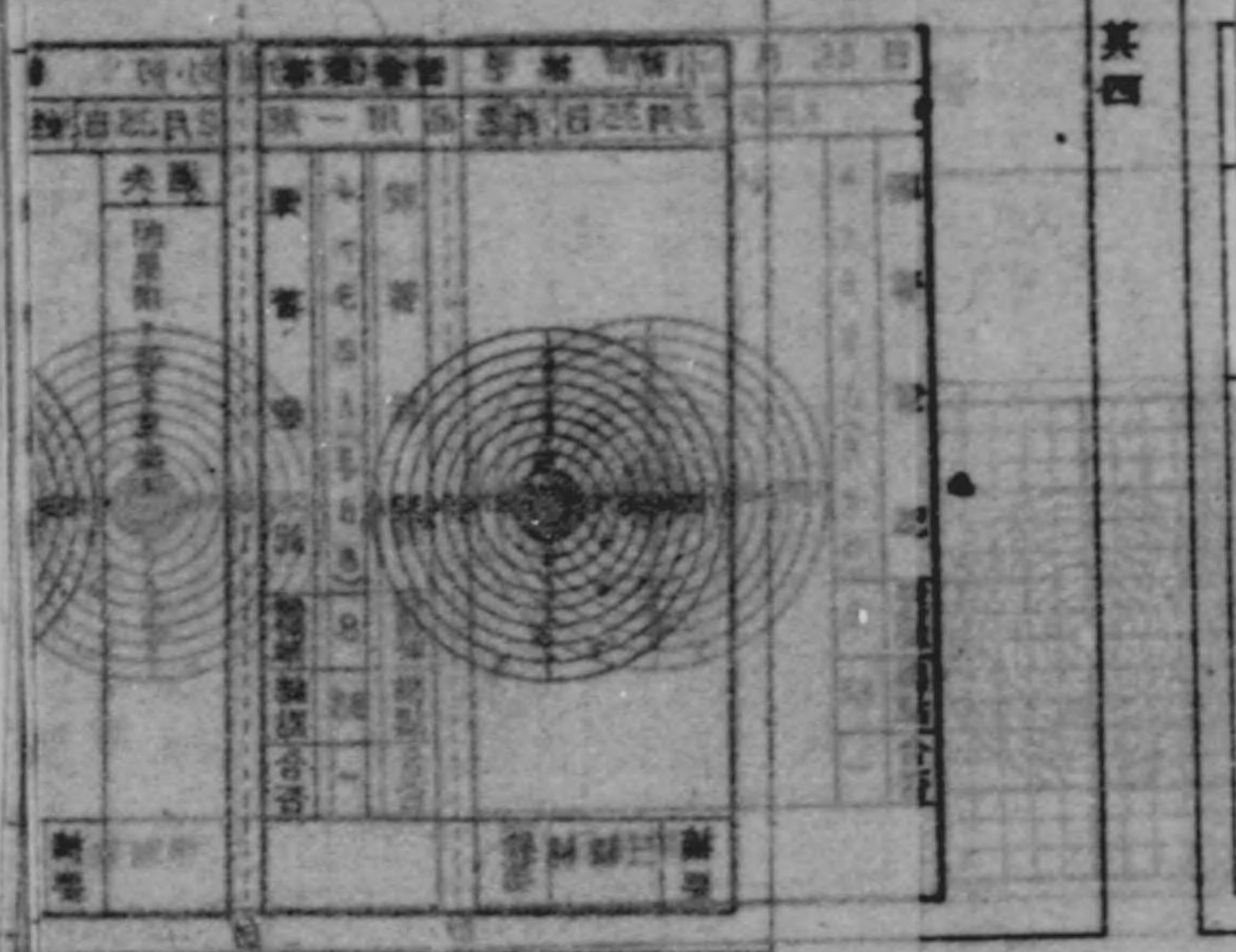
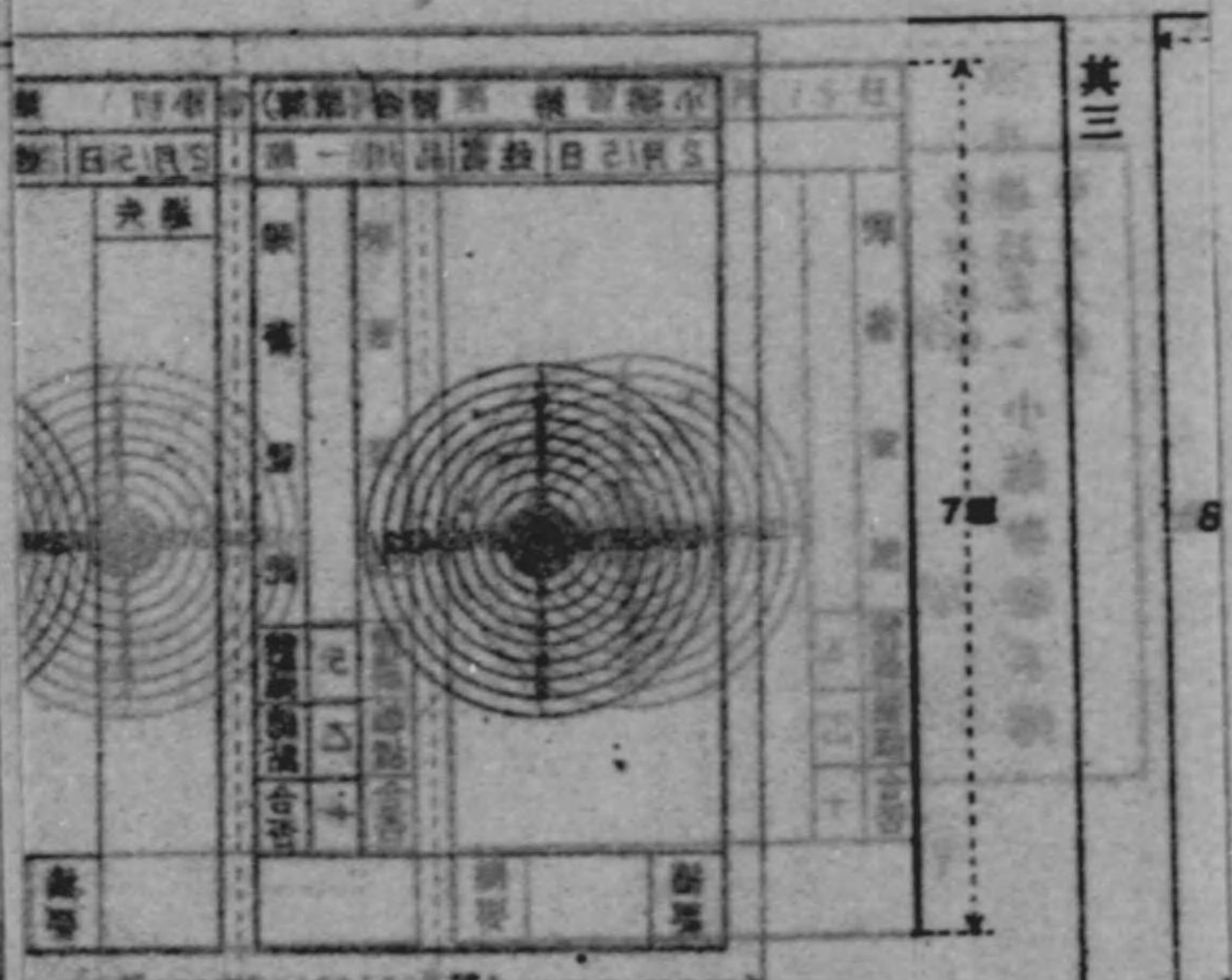
附表第五

距離	三八式步兵銃		四四式(三八式)騎銃		物 質 種 類
	射 擊 角	射 擊 距離	射 擊 角	射 擊 距離	
600	0.80	0.91	0.87	1.10	土 積 常 尋
400		0.75		0.90	雪 氷 七 固 踏
200	0.56	0.60	0.49	0.75	砂
	0.52	0.63	0.77	0.87	松 氷 七 燥 乾
	貫 通	貫 通	貫 通	貫 通	壁 瓦 煉 (厚 二 十 二 寸)
					板 鐵 耗 八
	凹 痕				板 鋼 軟 耗 五

三八式步兵銃及四四式(三八式)騎銃彈丸侵徹量 (米)

(附十六回七回五十五回五回五回) 表 擊 射 銃 關 機 輕 式 第 一 十

距離	三八式步兵銃		四四式(三八式)騎銃		射 擊 角
	射 擊 角	射 擊 距離	射 擊 角	射 擊 距離	
4681	24.92	1750	19.06	1203	9.75
4082	26.01	1775	20.47	1268	6.00
5119	27.13	1800	21.94	1336	0.25
5368	28.28	1825	23.47	1407	0.50
5611	29.46	1850	25.06	1481	0.75
5866	30.67	1875	26.71	1558	0.90
6127	31.91	1900	28.42	1638	0.82
6394	33.19	1925	30.19	1721	0.50
6666	34.51	1950	32.02	1807	0.75
6943	35.87	1975	33.91	1896	1.00
7225	37.27	2000	35.86	1988	1.025
7530	38.71	2025	37.87	2083	1.050
7831	40.20	2050	39.94	2181	1.075
8130	41.74	2075	42.07	2282	1.100
8454	43.33	2100	44.26	2386	1.125



因數	%	因數	%	因數	%	因數	%
1.86	79	1.07	53	0.51	27	0.02	1
1.90	80	1.09	54	0.53	28	0.04	2
1.94	81	1.12	55	0.55	29	0.06	3
1.98	82	1.14	56	0.57	30	0.07	4
2.03	83	1.17	57	0.59	31	0.09	5
2.08	84	1.19	58	0.61	32	0.11	6
2.13	85	1.22	59	0.63	33	0.13	7
2.18	86	1.25	60	0.65	34	0.15	8
2.24	87	1.27	61	0.67	35	0.17	9
2.30	88	1.30	62	0.70	36	0.18	10
2.37	89	1.33	63	0.72	37	0.20	11
2.44	90	1.36	64	0.74	38	0.22	12
2.52	91	1.39	65	0.76	39	0.24	13
2.60	92	1.42	66	0.78	40	0.26	14
2.69	93	1.45	67	0.80	41	0.28	15
2.78	94	1.48	68	0.82	42	0.30	16
2.91	95	1.51	69	0.84	43	0.32	17
3.04	96	1.54	70	0.86	44	0.34	18
3.22	97	1.57	71	0.89	45	0.36	19
3.45	98	1.60	72	0.91	46	0.38	20
3.82	99	1.64	73	0.93	47	0.40	21
4.00	100	1.67	74	0.95	48	0.41	22
		1.71	75	0.98	49	0.43	23
		1.74	76	1.00	50	0.45	24
		1.78	77	1.02	51	0.47	25
		1.82	78	1.04	52	0.49	26

目標高(幅) (mm) → 因數
 半數於中原 (mm)

附表八
 公算因數表
 八

附表第九

射撃手簿

一 射撃手簿ハ射撃ノ成績ヲ記録シテ本射撃各團體射撃ノ各射會及特別射撃隊等射撃ノ成績ヲ記録スル用紙(其三乃至其十二)ヲ合算シ且毎束ハ基本射撃各團體射撃及特別射撃會等ノ成績ヲ記録シテ用紙トス

二 射撃ノ成績(未嘗)中其三乃至其六及其十乃至其十二ハ步兵隊ノ初年兵ノモノニ就テ其七乃至其九ハ步兵隊ノ第二年兵ノモノニ就テ示ス

其一 表紙表面

等官	名/姓
----	-----

步兵初年
兵道之ニ
準スル者
小銃射撃手簿

其二 表紙裏面

等官	名/姓
----	-----

命中試験成績

銃ノ 番號	試驗 年月日	命中試験成績 得タル照準點

其三

小初 第 1 習會(原部) 2月15日 姓名 品川 一 郎	小初 第 1 習會(一覽表) 2月15日 姓名 品川 一 郎	第 1 習會 2月15日
通過	通過	通過
環 書 量 記	環 書 量 記	環 書 量 記
5 乙 +	5 乙 +	5 乙 +
摘要	摘要	摘要

其四

小初 第 2 習會(原部) 2月25日 姓名 品川 一 郎	小初 第 2 習會(一覽表) 2月25日 姓名 品川 一 郎	第 2 習會 2月25日
通過	通過	通過
環 書 量 記	環 書 量 記	環 書 量 記
4 7 3 2 1 3 5 8 8 33 -	4 7 3 2 1 3 5 8 8 33 -	4 7 3 2 1 3 5 8 8 33 -
摘要	摘要	摘要

<p>小一第 習會(原簿)</p> <p>5月 日 姓名 大山</p> <p>彈 5 著 5 登 0 記 0 4 10 +</p> <p>第五發時間超過 / 爲</p>	<p>小一第 習會(一覽表)</p> <p>5月 日 姓名 大山</p> <p>彈 5 著 5 登 0 記 0 4 10 +</p> <p>第五發時間超過 / 爲</p>	<p>第 習會 5月 日</p> <p>彈 5 著 5 登 0 記 0 4 10 +</p> <p>第五發時間超過 / 爲</p>
--	---	---

其七

<p>小初第 習會(原簿)</p> <p>4月 15日 姓名 品川一 郎</p> <p>彈 10 著 11 登 0 記 8 7 5 16 +</p> <p>命中不真 / 爲第三發時中止 4月 15日 射擊時行 7.5</p>	<p>小初第 習會(一覽表)</p> <p>4月 15日 姓名 品川一 郎</p> <p>彈 10 著 11 登 0 記 8 7 5 16 +</p> <p>命中不真 / 爲第三發時中止 4月 15日 射擊時行 7.5</p>	<p>第 習會 4月 15日</p> <p>彈 10 著 11 登 0 記 8 7 5 16 +</p> <p>命中不真 / 爲第三發時中止 4月 15日 射擊時行 7.5</p>
--	---	--

附表 其五

<p>小二中隊特別射擊(原簿)</p> <p>第 1 回 距離 300</p> <p>5月 20日 姓名 大山</p> <p>彈 5 著 5 登 0 記 0 4 15 +</p> <p>五十米距離後射 - ア 發 標レ目標・發見スレ伏 射 - ア - ア 射擊</p>	<p>小二中隊特別射擊(一覽表)</p> <p>第 1 回 距離 300</p> <p>5月 20日 姓名 大山</p> <p>彈 5 著 5 登 0 記 0 4 15 +</p> <p>五十米距離後射 - ア 發 標レ目標・發見スレ伏 射 - ア - ア 射擊</p>	<p>中隊特別射擊 5月 20日</p> <p>第 1 回 距離 300</p> <p>彈 5 著 5 登 0 記 0 4 15 +</p> <p>五十米距離後射 - ア 發 標レ目標・發見スレ伏 射 - ア - ア 射擊</p>
--	---	---

其八

<p>小初第 習會(原簿)</p> <p>5月 日 姓名 品川一 郎</p> <p>彈 3 著 4 登 5 記 0 4 5 15 +</p> <p>第二發時間超過 命中不真 / 成績 - 算入ス</p>	<p>小初第 習會(一覽表)</p> <p>5月 日 姓名 品川一 郎</p> <p>彈 3 著 4 登 5 記 0 4 5 15 +</p> <p>第二發時間超過 命中不真 / 成績 - 算入ス</p>	<p>第 習會 5月 日</p> <p>彈 3 著 4 登 5 記 0 4 5 15 +</p> <p>第二發時間超過 命中不真 / 成績 - 算入ス</p>
---	--	---

其六

附表第九 其九

考 備	日 月												其他ノ射擊						
	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月							
													實 驗 射 擊	檢 閱 射 擊	小 隊 戰 術 射 擊	分 隊 戰 術 射 擊	數回	場所	摘要
													10	10	15	15			

其十一

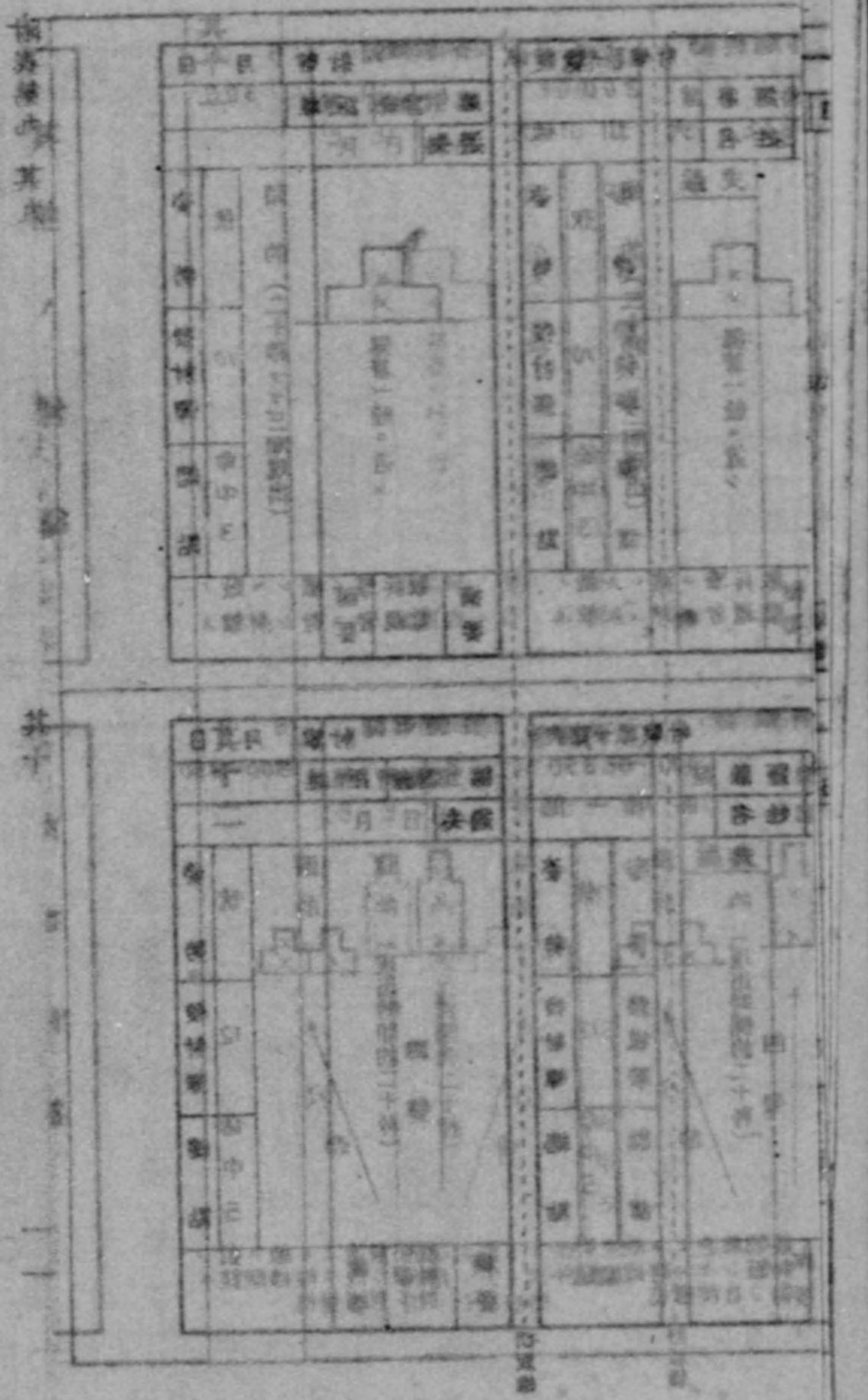
小一隊各戰術射擊(原解)		小一隊各戰術射擊(一覽表)		各戰術射擊	
第 一 習 會	距 離	第 一 習 會	距 離	第 一 習 會	距 離
300	300	300	300	300	300
5月31日	姓名 大山 征	5月31日	姓名 大山 征	5月31日	姓名 大山 征
通過	通過	通過	通過	通過	通過
	彈的 (二十秒) (二回現出)		彈的 (二十秒) (三回現出)		彈的 (二十秒) (三回現出)
10	10	10	10	10	10
命中3	命中3	命中3	命中3	命中3	命中3
摘要	敵兵隊ニ捕レテ敵ノ監視者ニ對シ射撃ス	敵兵隊ニ捕レテ敵ノ監視者ニ對シ射撃ス	敵兵隊ニ捕レテ敵ノ監視者ニ對シ射撃ス	敵兵隊ニ捕レテ敵ノ監視者ニ對シ射撃ス	敵兵隊ニ捕レテ敵ノ監視者ニ對シ射撃ス

其十

考 備	日 月								依 容 射 擊
	日	月	日	月	日	月	日	月	
	第 一 習 會	第 二 習 會	第 三 習 會	第 四 習 會	第 五 習 會	第 六 習 會	第 七 習 會	繪畫的ニ對テノ射撃	習 會 (實 施 法)
	5	5	5	5	5	5	5	10	彈射發
	丙	乙	甲	甲	甲	甲	甲	命中三發	成 績
									摘要

其十二

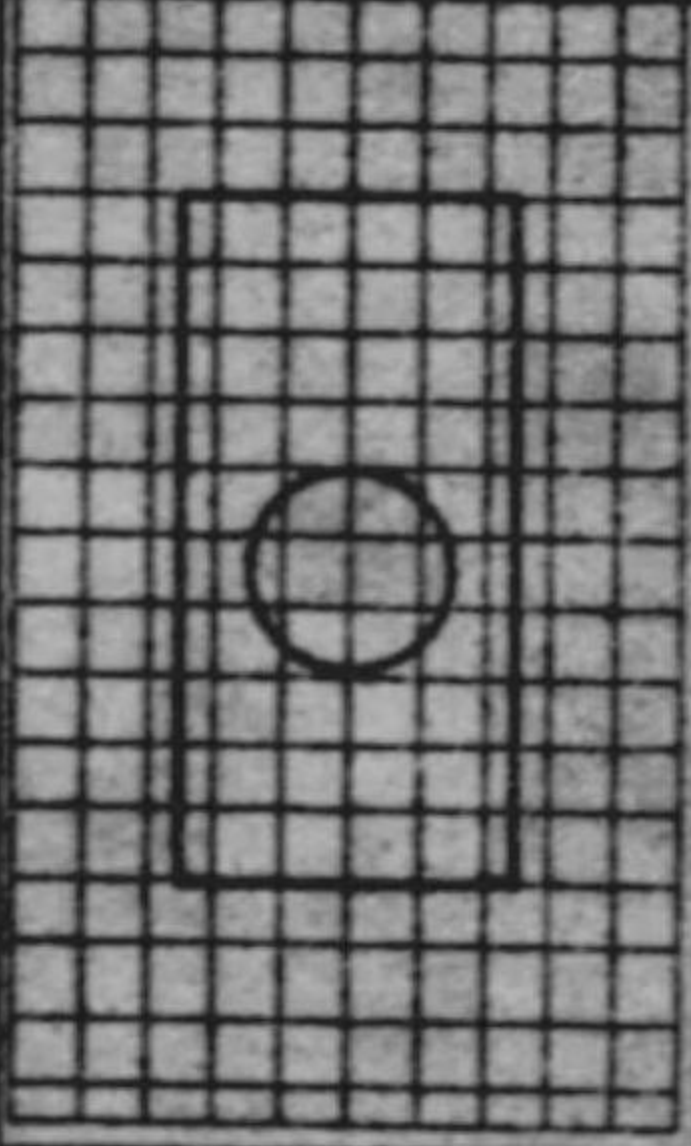
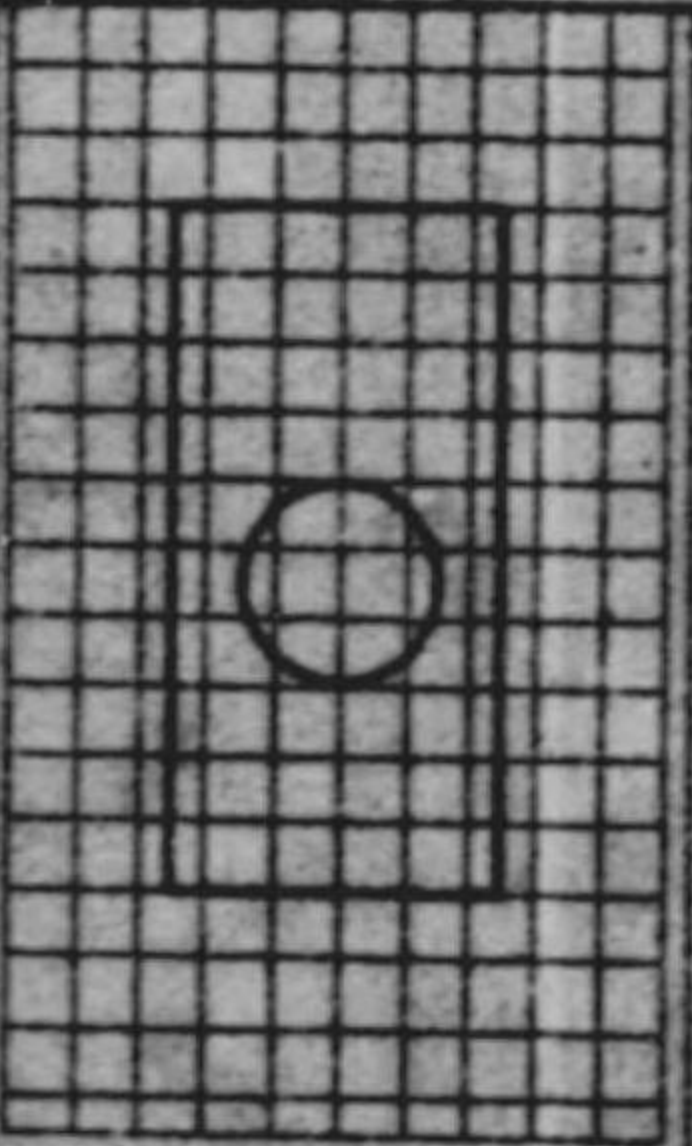

小一隊各戰術射擊(原解)		小一隊各戰術射擊(一覽表)		各戰術射擊	
第 一 習 會	距 離	第 一 習 會	距 離	第 一 習 會	距 離
300-350	300-350	300-350	300-350	300-350	300-350
8月2日	姓名 山 川 一 郎	8月2日	姓名 山 川 一 郎	8月2日	姓名 山 川 一 郎
通過	通過	通過	通過	通過	通過
	彈的 (現出時間約二十秒)		彈的 (現出時間約二十秒)		彈的 (現出時間約二十秒)
12	12	12	12	12	12
命中5	命中5	命中5	命中5	命中5	命中5
摘要	敵初前進スル敵ニ對シ射撃シテ、其後敵隊ニ對シ目標變換	敵初前進スル敵ニ對シ射撃シテ、其後敵隊ニ對シ目標變換	敵初前進スル敵ニ對シ射撃シテ、其後敵隊ニ對シ目標變換	敵初前進スル敵ニ對シ射撃シテ、其後敵隊ニ對シ目標變換	敵初前進スル敵ニ對シ射撃シテ、其後敵隊ニ對シ目標變換



基本村形成續圖		村形成續圖			
第	第	第	第	第	第
習會第	習會第	習會第	習會第	習會第	習會第
第	第	第	第	第	第

圖例
 一 本圖中所有之村舍均係小規模之平房
 二 用紙、瓦、木、石、等物
 三 用紙、瓦、木、石、等物

1 3 5 8 8 2

									中隊ニ要領 年月日 昭和二年一月二十日
成績	射手	試射	成績	射手	試射	成績	射手	試射	銃
方	平均	年月	方	平均	年月	方	平均	年月	種
形	點上	日	形	點上	日	形	點上	日	別
橫	下		橫	下		橫	下		小
									第一回(×)
									第二回(○)
									第六回(○)
									中隊
									要

附表第十一

命

中

試

驗

成

績

表

- 一 本表ノ壹部例(朱書)ハ一例ヲ示スモノトス
- 二 用紙ハ美濃判洋紙トス